

と
こ
は
と
の
は

第 35 号
2 0 2 2

常葉大学外国語学部言語文化研究会

目次 (簡略版)

I	巻頭言	1
II	外国語学部共通	5
	1. 教員エッセイ	7
	2. 外国語学部コロキウム	18
	3. 特別研究の題目	22
	4. 日本語教員養成課程の活動報告	29
	5. 学内外での教職員や学生の取り組み	34
	6. [後援] 現代世界文学の読書会	51
III	英米語学科	55
	1. 教員採用試験合格者	57
	2. (英米) 学内外での教職員や学生の取り組み	73
IV	グローバルコミュニケーション学科	77
	1. 海外事情談話会 (GC 学科コロキウム)	79
	2. 多言語レシテーション大会	81
	3. 社会人基礎力養成	90
	4. キャリア開発	99
	5. 臨地実習	104
	6. (GC) 学内外での教職員や学生の取り組み	106
V	各言語圏での活動	113
	1. スペイン語圏	115
	2. ポルトガル語圏	121
	3. 中国語圏	130
	4. 韓国語圏	133
	5. 上記 5 言語以外の言語圏	149
VI	卒業生	157
VII	退職者	167
	編集後記	170

目 次

I 巻頭言

『杜子春』に見る中国人の感性―破綻篇	戸田 裕司	1
--------------------	-------	---

II 外国語学部共通

1. 教員エッセイ

1-1. 文脈から英語を読む	江藤 秀一	7
1-2. 英語、スペイン語、さらなる言語への挑戦	濱田 真理	11
1-3. 日本における台湾関係の施設を訪ねる	若松 大祐	14

2. 外国語学部コロキウム

外国語学部コロキウム		18
------------	--	----

3. 特別研究の題目

英米語学科卒業研究題目一覧		22
グローバルコミュニケーション学科特別研究 共同翻訳文献およびサブ・レポート題目一覧		25

4. 日本語教員養成課程の活動報告

4-1. 「日本語を教える」ということ	水上 更紗	29
4-2. 15 分の中に 3 年間の学びを	村田 圭花	31

5. 学内外での教職員や学生の取り組み

5-1. 英語リスニングの遠隔授業における Moodle の利用	市川 真矢	34
5-2. わさびは世界へつながる	若松 大祐	39
5-3. 令和 3 年度共催公開講座：日本人の常識は非常識？		42
5-4. 合同ゼミナール ―自身の関心を見つめ直す機会として―	寺本 想	44
5-5. クラウドゼミッツ『戦争論』における情報の意味	寺本 想	48

6. [後援] 現代世界文学の読書会

現代世界文学の読書会：近代西洋の学知	若松 大祐	51
--------------------	-------	----

III 英米語学科

1. 教員採用試験合格者

1-1. 一人では成し遂げられなかった「教採合格」	水野 彩紀	57
1-2. 教員の夢を持つみなさんへ	山本 琴音	59
1-3. 自分と向き合えた時間	中野 真綾	61
1-4. 楽しく学ぶ工夫をすること	湯沢 陸人	64
1-5. 夢を叶えるために努力した 1 年間	永倉 純	67
1-6. 夢に向かって突き進むこと	吉村 祐豊	69

2. (英米) 学内外での教職員や学生の取り組み

オリンピック休戦ムラール署名式 ～平和を祈念して～	池田 真理奈	73
------------------------------	--------	----

IV グローバルコミュニケーション学科

1. 海外事情談話会 (GC 学科コロキウム)

海外事情談話会	79
---------	----

2. 多言語レシテーション大会

2-1. 第 8 回多言語レシテーション大会	若松 大祐	81
2-2. 世界が終わるわけではない	戸田 裕司	85
2-3. 想像の翼を広げてオンラインの向こう側へ	谷 誠司	86
2-4. 諦めないことで得られる結果	赤堀 虹花	86
2-5. 何かを得る一歩	小井 麻央	88

3. 社会人基礎力養成

3-1. PBL (Problem-Based Learning) で学ぶ「多文化共生」	崔 慶原	90
3-2. 社会人基礎力を身に付けて成長した学生たち	谷口 茂謙	94

4. キャリア開発

企業と学生の接点を設ける工夫についての一考察	谷口 茂謙	99
------------------------	-------	----

5. 臨地実習

「焼津市に転入してきた外国籍住民を対象としたゴミ分別方法 説明動画 (英語版・日本語版)」作成	増井 実子	104
--	-------	-----

6. (GC) 学内外での教職員や学生の取り組み

6-1. 木宮泰彦の墓所	若松 大祐	106
6-2. 課題解決に挑む ー第 6 回学生知財活用ビジネスアイディアプレゼン大会に参加してー	佐野 恭香、杉山 明日香	109
6-3. 韓国語会話サークル도코하 de 한사동의活動紹介	武藤 真実	111

V 各言語圏での活動

1. スペイン語圏

大航海時代における奴隷貿易	田村 梨華	115
---------------	-------	-----

2. ポルトガル語圏

2-1. ポルトガル語学習に関する所感	江口 佳子	121
2-2. 朋有り遠方より来る、亦楽しからずや	村田 圭花	122
2-3. 背伸びをしたら、見える世界が変わった	村田 圭花	124
2-4. ブラジリア大学の学生から学んだ自己表現力	松丸 奈央	126
2-5. マイノリティや多様性について考える	秋山 莉子	128

3. 中国語圏

中国語圏での研修の実施報告	若松 大祐	130
---------------	-------	-----

4. 韓国語圏

4-1. 日韓オンライン交流会の実践報告	福島 みのり	133
4-2. 今できる挑戦	望月 咲良	134

4-3. 自分から動く一步の大きさ	内野 圭悟	137
4-4. 日韓を比較して気づく問題	藤原 櫻	138
4-5. 若者にとっての社会問題	倉島 あい子	140
4-6. 韓国人の意識の高さと積極性	関 晴香	141
4-7. 千載一遇の機会	久保山 舞子	142
4-8. “繋がり” から得たもの	武藤 真実	144
4-9. 言語で繋がる輪	吉永 仁菜	145
4-10. 韓国人との交流を通して得た留学の意味	上野 琴音	147
5. 上記 5 言語以外の言語圏		
5-1. 2021 年度語学研修実施報告		149
5-2. 2021 年度語学研修報告会		151
5-3. 語学研修報告会を振り返って	林 倖多、細越 響	151
5-4. 第 7 回 GC 学科学生海外・学外活動報告会	崔 慶原	155
VI 卒業生		
再び卒業生の声を聞く		159
母校の教壇に立って	北川 和彦	159
語学を身につけるために大切な 7 つのこと	牧野 智一	162
コロナ禍の海外渡航	渡邊 美路	165
VII 退職者		
幸田明子先生		168
福島みのり先生		169
編集後記		170

I 卷頭言

巻頭言

『杜子春』に見る中国人の感性―破綻篇

外国語学部長 戸田 裕司

私たちは毎日道を歩いている。世の中には立派な人がいて、ただ道を歩くだけでなく、地図まで描いてくれる。世の中の大半の人は立派ではないので、立派な人が描いてくれた地図を頼りに道を歩く。でも本当は自分で地図を描いてみたい。

唐突だが、芥川龍之介に『杜子春』という小説がある。

主人公の杜子春は金持ちの息子であったが、親の遺産で遊び暮らし乞食同然となってしまった。進退窮まった杜子春が洛陽の都の西門に佇んでいると、不思議な老人が現れて「ここを掘れ」と言う。いわれた通りに掘ってみると荷車1輛分の黄金が手に入り、彼は大金持ちになる。…が、浪費してしまい3年後にはまた西門に佇むことになる。と、そこに再びあの老人が現れ、…以下浪費生活に舞い戻ることまで“以下同文”である。

杜子春が3度目に西門に佇んでいたところ、またあの老人が現れ、再び黄金の在りかを教えようとするが、杜子春はそれを遮った。彼が言うには、金のある時はちやほやし、金がなくなれば見向きもしない人間というものに愛想が尽きた。あなた(老人)はきっと徳のある仙人であろう。私に仙術を教えてくれないだろうか。

…物語はまだ先があるのだが、国語教科書に掲載されることも多い作品でもあり、読んだことがある皆さんも多いことであろう。紹介はこのあたりで止めく。

この『杜子春』は芥川の完全な創作ではなく、中国唐代の伝奇小説「杜子春伝」の翻案である。翻訳ではないので、原作に基づきつつも改作されている。上に紹介したくだりも、原作「杜子春伝」ではかなり違った表現がされている。

芥川では、老人が杜子春にくれた黄金は「荷車1輛分」であったが、原作では「銅銭 300 万枚」とやけに具体的である。しかも、老人はその場で「袖の中から銭1緡(1000枚)」を取り出して杜子春に渡し、残りは翌日の正午に「西のマー

ケットのペルシャ人屋敷」に取りに来るようにと言いつける。

銅銭 300 万枚など持ち歩いているはずはない。とりあえず手持ちの金を渡してやり、残りは後ほど…というのは理にかなっている。お話の舞台も、芥川『杜子春』では洛陽であったが、原作「杜子春伝」では国際都市・長安となっているので、受け渡し場所がマーケットのペルシャ人屋敷というのも説得力がある。困窮する杜子春へ金銭的援助をしている点では両者に違いはないが、芥川『杜子春』と比べて、原作「杜子春伝」のリアルな描写が際立っている。

私は雑な人間なので、「ここにも中国人の金銭感覚のシビアさを見て取ることができる！」とちょっとした中国人論を披露する誘惑に駆られてしまう。題して『『杜子春』に見る中国人の感性』。講義で話せば結構ウケそうな気がする。

原作「杜子春伝」は「唐代伝奇小説」というジャンルに属する。「伝奇」とは、奇妙・奇怪なことを伝えるという意味である。確かに杜子春の話は奇妙・奇怪である。で、「小説」であるが、これは novel という意味ではない。古典中国語（いわゆる漢文）では「小説」とは小さな言説——つまり（天下国家に関わるような大きな話ではない）「ちっぽけなお話」を意味する。

とすれば、現代の我々が文芸作品をフィクションとして鑑賞するのと異なり、当時この話を語った人や聞いた人は、杜子春の物語を、奇妙・奇怪ではあるが、事実と受け止めていた可能性がある。そうであれば、原作「杜子春伝」は事実を伝えるに相応しい写実的表現がされていただけのことである。『『杜子春』に見る中国人の感性』の構想は、こうして頓挫する。

では『『杜子春』に見る日本人の感性』なら何とかならないであろうか。

芥川『杜子春』は 1920 年（大正 9 年）の作品である。発表当時から現代にいたるまで、この話が芥川龍之介の頭の中で出来上がったフィクションであることを疑う人はいないであろう。創作であるなら「銅銭〇〇枚をちゃんと手渡し」するよりは、「荷車 1 輛の黄金が埋まっている場所を教える」ほうがファンタジックで断然キレイである。…ほら！やはり日本人は…、と語ってみたくなる。

しかし、注意すべきことがある。芥川『杜子春』が初めて発表されたのは、雑誌『赤い鳥』という当時の児童文学雑誌であった。つまり、芥川は『杜子春』を

巻頭言

少年少女に読ませるために書いたのである。少年少女の情操を育てる観点から露骨な金銭描写や、歴史知識を前提とする「西のマーケットのペルシャ人屋敷」などの設定を避けるのは当然のことである。こうして、第2のプラン「『杜子春』に見る日本人の感性」も暗礁に乗り上げる。

今のところ杜子春のネタでは地図を描くことができないようである。だが、いま地図が描けないのは、各種情報が不十分で、情報の方向も錯綜しているからに過ぎない。頑張れば来年の巻頭言に完璧な「『杜子春』に見る中国人の感性」を公表できるかもしれない。

地図がまだ描けていないことを恥じる必要はない。情報も考察も未熟な「地図」を描いて見せるより、地図を描くために混迷していることを告白する方がはるかにマシである。なぜなら、頑張っている人には、きっと誰かが手を差し伸べてくれるからである。

…と言える外国語学部、外国語学部学生・卒業生であってほしいと願うこと大である。

《参考》

芥川龍之介『羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八篇』文春文庫、1997年

竹田晃(編)『中国幻想小説傑作集』白水社(白水uブックス)、1990年[絶版]

Ⅱ 外国語学部共通

1. 教員エッセイ

文脈から英語を読む

江藤 秀一

以前、この『とこはことのは』第 31 号に「spring は春か」という拙文を書いた。英語では文脈がなければ spring だけでは意味をなさないというのがその趣旨であった。たとえば、“I like spring better than autumn.” と言えば「春」の意味だし、“Hakone is famous for its hot springs.” と言えば「温泉」、さらには“The toy works by a spring.” といえば、「ばね」の意味になる。

次の文の drug も文脈がないと意味がわからない例である。

I smil'd to myself at the Sight of this Money: “O Drug!” said I, aloud,...

「私はこのお金を見て、一人微笑んで、『おー、薬』と大声で言った」という日本語訳では何を言いたいのかわからない。この文は次のように続く。

“what art thou (=are you) good for, Thou art (=You are) not worth to me, no not the taking off the Ground; one of those Knives is worth all this Heap, I have no Manner of Use for thee (=you) ...” (Daniel Defoe, *Robinson Crusoe*, p. 50, Oxford University Press, 2007.)

硬貨とナイフが「私」のそばにあって、ナイフの方が硬貨の山よりも価値があると言っているわけだが、この一節は無人島に流れ着いたロビンソン・クルーソーが難破船のところへ何か使えるものがないかを探しに行ったときの話である。ロビンソンはそこに硬貨を見つけるのであるが、無人島なので使いようがない。そこで発せられた言葉が上記の文である。このように文脈があれば、この drug が「薬」と言う意味ではないことに気づく。そこで *Oxford English Dictionary* を参照すると、“A commodity which is no longer in demand, and so has lost its value or become unsaleable.” という定義があり、その具体例としてこの英文が引用されている。18 世紀の英語辞典といえばサミュエル・ジョンソンの辞書ということになるが、その定義では、“Any thing without worth, or value” (*A Dictionary of the English Language*) と明快である。ロビンソンの発した “O drug!” は「くず！」とか「役立たず」のような日本語訳になるのだろうか。日

本語訳を考えるだけでも楽しくなる。

もう一つ、次の文はいかがであろうか。

Regrettably, it is not easy to tell whether or not this operation has been carried out successfully.

この文では this operation の内容がわからないので複数の日本語訳が思い浮かぶ。operation には日本語では「操作」という意味があるので、「この操作がうまくいったかどうか」ということかもしれないし、「手術」という意味もあるので、「この手術がうまくいったかどうか」ということかもしれない。その他、「運転」、「作戦」など様々な意味があり、文脈がなければどの意味を表すのかが不明である。

この一文は本学の戸田勉先生から紹介していただいた日本生まれのイギリスの作家カズオ・イシグロの *A Family Supper* という短編の書き出しの一部である。その書き出しの一節は以下のようになっている。

Fugu is a fish caught off the Pacific shores of Japan. The fish has held a special significance for me ever since my mother died through eating one. The poison resides in the sexual glands of the fish, inside two fragile bags. When preparing the fish, these bags must be removed with caution, for any clumsiness will result in the poison leaking into the veins. Regrettably, it is not easy to tell whether or not this operation has been carried out successfully. The proof is, as it were, in the eating.

(Kazuo Ishiguro, “A Family Supper” in *The Penguin Collection of Modern Short Stories*, p. 434, Harmondsworth, 1987.)

このように前後の文が与えられれば、this operation とはフグを調理する際に毒のある生殖腺を取り除くことであることがわかる。ちなみに、The Proof is in the eating. は The proof of the pudding is in the eating. (プディングのうまいまづいは食べてみてから) という日本語でいう「論より証拠」ということわざを踏まえているのだろう。毒のある生殖腺を取り除いたかどうかは食べてみなければわからないというのだから、フグになじみのない異国の読者には何とも恐ろしい話である。それも to tell の主語が書いてないので、一般的に言えることと語り手が考えていることもうかがわれ、ますます恐ろしい印象を与えることになる。この短編小説は構文や単語のレベルはそれほど難解なものではないが、主人公の

II. 1. 教員エッセイ

過去や主人公とその家族の関係に思いを馳せながら読むと、様々な解釈をもたらす謎に満ちた不思議な作品である。

最後に、次の文はいかがであろうか。

HARDCASTLE. (*joining their hands*) And I say so too. And, Mr Marlow, if she makes as good a wife as she has a daughter, I don't believe you'll ever repent your bargain. So now to supper. (Oliver Goldsmith, *She Stoops to Conquer and Other Comedies*, p. 223, Oxford University Press, 2007.)

この一節は18世紀イギリスのオリヴァー・ゴールドスミスという作家の喜劇 *She Stoops to Conquer* の最後の一文で、父親のハードカースルが自分の娘と青年マーローとの結婚を認める場面である。I say so too. は、ヘイスティングズという別の登場人物の “You must and shall have him.” (あなたは彼と結婚すべきだ) という意見に賛同する発言である。この文の難しいところは she has a daughter. のところで、she has been a good daughter. の been と good が文脈上から省略されている。make は become の意味で用いられている。また、as good a wife の語順も現代英語ではあまり見かけないのでわかりにくいかもしれない。つまり、「彼女はこれまでよい娘であったが、それと同じようによい妻になる」という意味である。この英文の意味を理解するには文脈をしっかりと捉えて読むだけでなく、英文法の知識も必要となる。

文化的に興味を引かれるのは bargain という語で、この語も文脈がなければ何の bargain か不明であるが、文脈があれば「結婚」のことをいっていることがわかる。ハードカースルにとっては娘の結婚も「売買契約」というわけであるが、当時の結婚観があらわされている。先に出したデフォーの作品に *Moll Flanders* という小説があるが、そこにも bargain を結婚の意味で使う場面があるし、次のように結婚を表す意味で market という語さえ使っている。

“On the other Hand, as the Market ran very unhappily on the Mens (sic) side, I found the Women had lost the Privilege of saying No…” (Daniel Defoe, *Moll Flanders*, p. 57, Oxford University Press, 2011.)

(一方、結婚市場は残念ながら男性に有利になっているので、女性は「お断りします」という権利を失っていることがわかりました。)

結婚を「売買の取引」のように使うとは、夢もロマンスもない何たる野蛮な時

代であるかとも思われるが、そういうふうにあれこれと考えさせてくれるところが文学作品の興味深いところである。



Robinson Crusoe found some coins. He smiled to himself at the sight of them. He said, "O drug!" in a loud voice, "what are you good for? You are not worth to me—no, not the taking off the ground."

英語、スペイン語、さらなる言語への挑戦

濱田 真理

メキシコに初めて降り立った時、知っているスペイン語と言えば、「Hola」と「Gracias」のみだった。聞こえてくる会話は全く理解できない。メキシコシティの空港での表示を追いながら進んでいこうとするが、英語を日常で使うことも慣れていなかったため少々パニックになった。スペイン語の学習は、現地メキシコでの逃げ場のない真っ向勝負とともに始まった。

幸いにして、家では日本語、学校での授業は英語、街ではスペイン語という環境であったので、日本語と英語に少し頼ることができた。しかし学校での授業以外の会話はほぼスペイン語。英語で話かけてくれるクラスメイトも、3人以上の輪になるとスペイン語での会話に切り替わった。しかしクラスメイトはとても優しく、会話に積極的に参加していなくても、輪の中にいてもいい雰囲気を作ってくれた。勝手にそう思っただけなのかもしれないが、その居心地が悪くない環境を利用してみようと思った。わからなくても、まずは笑顔で会話を聞き続けるようにした。

ただぼうっと突っ立っているだけなのも変なので、まずは相打ちを覚えてみることにした。話し手がどういう声のトーンで話したら周りがどう反応するかを観察してみた。そしてわからなくても同じように反応してみる。真剣に話している会話の場合を除いて、多めの笑顔と小さめの身振り手振りで、周りと同じリアクションを繰り返してみた。後から考えると、これは会話のテンポを掴むいい方法であったのかもしれない。会話に居続けることで、次第に周りも自分を入れて話をしてくれるようになっていった。たまに話の途中で、誰かが半分冗談で「…, Si, verdad, Mari? (…だね、マリ?)」と冗談を言うてくるので、「Sí! Pero no entiendo. (そうだね! でもわかんないんだけどね(笑))」と返してみたりした。

聞いているうちに、繰り返し出てくるフレーズや単語がわかるようになった。繰り返し出てくる単語はその会話のキーワードであることが多く、わかったキーワードを元に、なにについての会話になのかを推測してみる。スペイン語は英語と似た単語も多く、意外と単語の意味を推測できることも多かった。推測しても

意味のわからない単語は、後で調べてみて覚えるようにした。キーワードの単語は大体の場合複数あるので、関係性のある単語を一気に覚えることができた。ちなみに、関連させて語彙力を鍛える絶好の場所は、スーパーや市場だった。小さい子がいろんなものを指さして覚えるように、様々な商品の名前やパッケージに書かれている単語を毎週のように見ていると、速く覚えられるのだ。例えば、いろんな味のヨーグルトや、ジュースを作るパウダー（メキシコではありとあらゆる風味の『即席ジュースの粉』が売られていた）のパッケージからは果物の名前を、洋服のパッケージからは大きさを表す単語や色の名前を覚えたり、調味料やお菓子の味の表記からは、甘い・激辛・スーパー激辛など味の表現を覚えた。

しばらくして耳が慣れてくると、今度はフレーズも聞き取れるようになった。しかしフレーズの場合、一人の人がよく使うフレーズであれば口癖のことが多いし、グループであれば、その集団層での表現や言い回しが多い。私の周りには高校生が多かったので、スラングなども多く、一般的に使えるものを吟味しなければならなかった。また、フレーズの使い回しをすると、誰かの口癖を真似てからかっているようにも聞こえるので、使い過ぎには注意をした。

一ヶ月ほどたつと、出会う単語やフレーズのひとつひとつに魅力を感じることも最初ほどではなくなり、どれだけ頑張ってもスペイン語は習得できないのではないかと悩むようになった。その悩みの原因の一つは、今思うとスペイン語の動詞にあったと思う。スペイン語の動詞は主語や時制によって形を変化するので、ある程度変化する法則などをちゃんと覚える必要があった。当時は英語での授業や課題に追われていて、スペイン語文法をしっかりと整理する余裕がなかった。そこで、なるべく机に向かわないで使えるような表現から文法を身につけられないか考えてみた。

まずは動詞が原形で使われてないかどうか注意していると、「…ar, …er, …ir」のような動詞の原形っぽい終わりをする単語がときどき聞こえてきた。動詞の原形が出てくる前後の単語をつなげて聞いてみると、いくつかのフレーズが浮かび上がった。例えば、「quiero/quieres + 動詞の原形（～したい）」、「Necesito/necesitas + 原形（～する必要がある）」、「voy a /vas a + 原形（これから～する）」、「puedo/puedes + 原形（～できる）」などだ。まずこれらを使って文章を作れるように心がけた。また、はじめの2つのフレーズには、動詞の代わりに名詞をい

Ⅱ. 1. 教員エッセイ

れて、自分のほしかったり必要なものを表すことができるので重宝した。驚いたことに、工夫するとこれらのフレーズで非常に多くのことが伝えられる。新しい動詞を覚えたら、原形でどんどんこれらのフレーズに当てはめて使うことで、ボキャブラリーの量を増やすことができた。知っているフレーズ以外は、はじめはあえて一人称と二人称単数のみ使うようにした。友達に教えてもらい、徐々に複数形や3人称の表現、さらに過去形など、少しずつ使える形を広げていった。同時に他のフレーズ(if、関係代名詞、比較など)も覚えるたびに何度も使うように心がけた。この作戦で、次第に自分が今したいことや相手がしたいことなどが徐々に細かく伝えられるようになり、一緒に何かをすることや基本的な情報の交換が人とできるようになった。

この経験から、次のような言語習得のパターンができたように思う。①言葉のリズムを感覚で覚える。②関連する単語をグループで覚えて語彙力を増やす。③使えるフレーズを増やす。④2や3で得たものをアウトプットして使ってみる。このパターンを参考に、今年度は韓国語の習得にチャレンジした。個人的に読み書きよりも聞く話すのほうに記憶に残りやすいので、まずはPodcastやYouTubeを用いたリスニングやシャドイングから始めてみた。そして聞こえてくる単語やフレーズを調べて、ノートに書いていった。覚えたことを文法書や単語帳で確認し、情報の整理をした。そして、覚えたことを独り言で言ってみたり、ドラマなどで聞こえてきたフレーズをまねたりしてアウトプットすることを心がけた。習得率を測るため、ハングル能力検定にも挑戦し、夏には4級を取得することができた。

新しい言語を学んでいくことは山あり谷ありの長期戦だが、ひとつ理解するとに得られる達成感は大きいと感じた。これからも外国語学習支援センターで、新しい言語や新しい言葉、そして同じように言語学習を頑張っているたくさんの戦友たちと出会ってみたい。

日本における台湾関係の施設を訪ねる

若松 大祐

2021（令和3）年度は、秋に突如として日本国内でのフィールドワークや資料調査が可能になった。新型コロナウイルス感染症の蔓延が少しばかり収束したためである。（とはいえ、海外渡航は相変わらず困難である。）そこで以下の4か所でフィールドワークを展開した。いずれも日本国内における台湾関係の史跡や資料の所在地である。

私はこれまで日本国内の台湾関係の場所をほとんど訪ねてこなかった。したがって、このたび新たな情報や人脈が得られた。今後の自身の研究に反映できる違いはない。また、各所で独自の台湾関係の行事が展開されていることも知った。

(1) 鄭成功記念館など（長崎県平戸市）

- ・ 鄭成功に関する史跡を参観し、関係者と意見交換を行う。
- ・ 2021年10月16日（土）～2021年10月20日（水）、4泊5日

鄭成功（1624-1662年）は長崎平戸で生まれ、中国でいえば明末清初、日本でいえば江戸幕府三代將軍徳川家光のころに東シナ海で活躍した人物である。中国で王朝交代が起こった際、鄭成功はアモイや台湾を拠点にして明朝の復興を支え、新興の清朝に対峙した。そのため、今なお長崎平戸、台湾台南、福建省泉州でそれぞれ彼を顕彰し続けている。鄭成功に関する三つの場所は、近年は鄭成功に関する国際交流活動を展開する。同時に三者には三様の動機がある。2024年は鄭成功生誕400周年にあたり、平戸でも鄭成功記念館が中心になって記念行事を計画しているという。なお、このフィールドワークで得た知見については、『常葉大学外国語学部紀要』39号（2022年3月）で紹介する予定である。

< 訪問先 >

<https://www.hirado-net.com/teiseikou/>

鄭成功記念館

〒859-5132 長崎県平戸市川内町1114-2

TEL 0950-24-2331

II. 1. 教員エッセイ

<http://www.matsura.or.jp/>

松浦史料博物館

〒 859-5152 長崎県平戸市鏡川町 12

TEL 0950-22-2236

<https://www.hirado-net.com/>

平戸観光協会

〒 859-5114 長崎県平戸市築地町 510

TEL 0950-23-8600

(2)後藤新平記念館など（岩手県奥州市水沢）

- ・後藤新平に関する史跡を参観し、関係者と意見交換を行う。
- ・2021 年 11 月 6 日（土）～ 2021 年 11 月 9 日（火）、3 泊 4 日

後藤新平（1857-1929 年）は近代日本の官僚であり、政治家である。医師となるものの、検疫業務に従事したことをきっかけに衛生管理者として官僚に転じる。台湾や満洲や日本内地で衛生行政、植民地経営、都市政策に手腕を発揮する。台湾の近代史を考える上で、近代の始まりを清朝の劉銘伝と台湾総督府の後藤新平のいずれに求めるべきかという論争があったくらいである。後藤新平記念館の所蔵する資料は、多くが資料集として出版されていた。2022 年にはデータベースとして販売開始になるという。

なお、後藤新平記念館の展示をざっと見た限り、台湾総督府民生長官だった後藤を評価する当時の台湾側の記録がどうも見当たらなかった。後藤新平記念館に展示される後藤新平の幼少期の写真には、後藤とともに「郷の三秀才」と呼ばれた山崎為徳も一緒に写る。後藤新平記念館に近い乙女川公園に山崎為徳の顕彰碑がある。三秀才の残る一人は斎藤實であり、同じ水沢に斎藤實記念館がある。

< 訪問先 >

<http://www.city.oshu.iwate.jp/shinpei/>

奥州市立後藤新平記念館

〒 023-0053 岩手県奥州市水沢大手町 4 丁目 1 番地

TEL 0197-25-7870

(3) りゅうがく館など（鹿児島県大島郡龍郷町）

- ・西郷菊次郎に関する史跡を参観し、関係者と意見交換を行う。
- ・2021 年 11 月 25 日（木）～ 2021 年 11 月 30 日（火）、5 泊 6 日

西郷菊次郎（1861-1928 年）は近代日本の政治家であり、外交官である。西郷隆盛と愛加那の長男として奄美龍郷に生まれる。台湾宜蘭庁長（県知事に相当）や京都市長を歴任する。台湾では宜蘭での治水事業で功績を挙げ、その際の堤防が西郷堤と名付けられた。堤防付近には、西郷庁憲徳政碑が今なお立つ。西郷菊次郎が父親の敬天愛人の思想を受け継ぎ、台湾で発揮したという。しかし、りゅうがく館での西郷菊次郎生誕 160 周年記念企画展や図書室の関係資料をざっと見た限り、思想の継承を示す記録は見当たらなかった。

2019 年に宜蘭市市民活動中心（〒 260 宜蘭県宜蘭市中山路二段 462 号）がリニューアルした際、ビルが龍郷樓と名付けられた。しかし、日本の植民地統治を美化すべきでないという声がかかる。Google Street View を見たところ、「龍郷樓 たつごうろう」の文字が消されている。西郷菊次郎は現在の台湾政治に巻き込まれてしまった。

私自身は今から 15 年ほど前に、宜蘭で宜蘭庁長官舎跡を参観した。しかし、当時は関心がなく、「日本家屋があった」というくらいしか記憶がないから、情けない限りである。

< 訪問先 >

<https://www.town.tatsugo.lg.jp/ryugakukan/01.html>

りゅうがく館

〒 894-0102 鹿児島県大島郡龍郷町瀬留 968-1

TEL 0997-62-3110

<https://www.town.tatsugo.lg.jp/kikakukanko/shisetsu/miru/45.html>

西郷南洲流謫跡

〒 894-0321 鹿児島県大島郡龍郷町龍郷 166

TEL 0997-62-3368

Ⅱ. 1. 教員エッセイ

(4)金沢ふるさと偉人館など（石川県金沢市）

- ・八田与一に関する史跡を参観し、関係者と意見交換を行う。
- ・2021年12月3日（金）～2021年12月6日（月）、3泊4日

八田与一（1886-1942年）は近代日本の水利技師である。八田は台湾南部の嘉南平原に当時として東洋一の規模である烏山頭ダムと、総延長16,000kmの給排水路を造り、嘉南平原を一大穀倉地帯に変えた。なお、このダムと給排水路を併せて、「嘉南大圳」（かなんたいしゅう）と呼ぶ。金沢ふるさと偉人館では、幼少期より金沢で水利を身近に感じて生活したことが、八田を優れた水利技師たらしめたのだらうと聞いた。兼六園には逆サイフォンの原理を用いた噴水があり、八田の通った第四高等学校の前には辰巳用水が流れる。また、ダム建設での犠牲者のための慰霊碑に、八田は日本人も台湾人も分け隔てなく同列に名前を刻んだ。これは有名な話である。北陸で盛んな浄土真宗の教えが背後にあるのではないかという。

八田の母校である花園小学校（金沢市今町ヌ34）には花園偉人館があり、八田を顕彰し、八田を通じた台湾との国際交流の成果を展示している。花園小学校には八田與一技師を称える歌「ああ！フォルモサダムの父」があり、第二校歌となっている。なお、八田與一の生家が花園小学校に近い。

< 訪問先 >

<https://www.kanazawa-museum.jp/ijin/index.html>

金沢ふるさと偉人館

〒920-0993 石川県金沢市下本多町6-18-4

TEL 076-220-2474

<http://cms.kanazawa-city.ed.jp/hanazono-e/view.php?pageId=1135>

金沢市立花園小学校花園偉人館

〒920-0106 金沢市今町ヌ34

TEL 076-258-0133

2. 外国語学部コロキウム

外国語学部コロキウム

外国語学部言語文化研究会は、今年度もコロキウム (Colloquium) を主催した。その目的は、外国語学部教員が自身の教育研究活動の一端を発表して、外国語学部教員同士で関心を共有し、今後の外国語学部の教学へ活用しようと目指すところにある。参加者については主に外国語学部教員を想定しつつ、大学ホームページなどを使って学内外からの参加を広く呼びかけている。2021 年度は 2 回開催できた。いずれも新任教員による研究発表である。ただし、宣伝不足のため、外国語学部専任教員の他に参加者がなかった。来年度は、例年のように前後期にそれぞれ 1 回ずつ開催し、より多くの参加者の来聴を願いたい。(若松大祐)

第 1 回

日 時：2021 年 9 月 22 日 (水) 15:00 ～ 16:30

会 場：Microsoft Teams

講 師：那須野 絢子 (英米語学科助教)

演 題：ラフカディオ・ハーンの怪談解析

要 旨： アメリカのルポライターとして 1890 年に来日し、文学をとおして日本を世界に紹介したラフカディオ・ハーン (Patrick Lafcadio Hearn, 1850-1904) の怪談再話作品群を巨視的に概観し、そこから見出せる彼の日本理解を考察する講話を行った。なお、アメリカ時代にすでに世界各国の怪談を手がけていたハーンであるが、今回のコロキウムでは、現在私が主要な研究対象としている日本の怪談を素材として英語に語り直された作品群に焦点をあてた。

14 年に及ぶ日本滞在間にハーンが発表した著作を時間軸において分析すると、彼が 1 つの文学作品としての怪談作品を手がけるようになるのは、その後期においてである。作品としての怪談の初出は 1898 年の *In Ghostly Japan* であり、以降、1904 年に亡くなるまでほぼ毎年出版された著作の中で収録数を増しながら発表されてゆく。生前のハーンが

II. 2. 外国語学部コロキウム

手に取った最後の著作 *Kwaidan* (1904) には、17 作もの怪談が再話され、これらの作品により、彼の帰化名「小泉八雲」は日本で広く知られるようになった。

日本時代前期の著作においても怪談は登場するが、山陰地方などを舞台としたルポルタージュの中で披露されるに留まっている。それらは、日本時代後期の怪談作品と比較すると、文学としての語りというよりは、フィールドワークにより取材された民俗学的な色の強いものとなっている。また、前期の著作が、山陰のみではなく、熊本、長崎、大阪、博多、京都などを訪れた際の旅行記が比重を占めているのに対し、東京に居を構えた晩年の作品群は、書斎の中において、著者のイマジネーションにより生み出された幻想文学、つまり怪談が大部分となっていることも特筆に値する。

ハーンは、西洋至上主義が幅をきかせた 19 世紀という時代において、自身の文筆活動をとおして、中心ではなく周辺に位置するマイノリティの文化に共感を抱き、それらを後世に残そうとした文学者である。日本においても、明治の文明開化で古き良き日本が失われていくことを嘆き、新旧の狭間で動揺した。このような彼の文学傾向からか、日本では、西洋文明に背を向けた日本愛好者というハーン像の誤認がしばしば見受けられる。しかし、日本の素材に西洋文学のアイディアを散りばめながら再話されたハーンの怪談作品を紐解くと、彼が理想とした未来は、古きに帰すことではなく、新旧の融合、異なる物の相互の共感なのだということがわかってくる。晩年のハーンは、残された時間の中でこの理想を文学として結実させるべく、怪談の執筆に没頭したのである。

今後、ラフカディオ・ハーンの怪談を世界文学としてとらえつつ、更なる比較文学的研究を進めていく所存であるが、上述のとおり本コロキウムでは、ハーンが異文化の融合という自身の夢を結実させたその成果としての怪談の執筆経緯を紹介した。

第 2 回

日 時：2021 年 12 月 15 日（水）15:00 ～ 16:10

会 場：草薙キャンパス A 棟 3 階 A309 教室

講 師：石川 芳恵（英米語学科特任教授）

演 題：英語学習における語彙の指導

要 旨： 母語においても第二言語においても、豊かな語彙力は言語能力の重要な要素である。とくに外国語の習得においては、単語の知識を基礎にリーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの 4 技能が習得され、文法の学習も可能になるという意味で必須の条件と言えるだろう。ところが実際は、中学校・高校の授業でスピーキングやライティングの活動を行う時の困難点として、生徒の語彙知識の不足を挙げる教員が少なくない。生徒にとっても、単語を覚えられないことが英語学習に対する苦手意識につながっていることが多い。さらに、過去 2 回の学習指導要領の改訂により、小学校から高等学校までに指導すべきとされる単語数が大幅に増加している。以上を鑑みると、語彙の習得は英語学習の大きな課題だと言える。

語彙学習の効果について行った 2 つの研究を報告する。まず、大学生を対象として、単語の音声に重点をおいた学習法と意味に重点をおいた学習法ではどちらがより効果的であるかを調査した。一方のグループは低頻度語 30 語を発音しながら学習し、他方のグループは同じ 30 語を 1 語ずつ含む 30 の例文を黙読しながら学習した。2 回の事後テストの結果を比較したところ、2 つの学習法は同程度に効果的であることが判明した。さらに、高校生を対象として、単語をチャンク（まとまった意味を持つ単語の集まり）で日本語訳とともに学習する方法と、日本語訳と一対一で（単語単独で）学習する方法の効果と比較する研究を行った。結果は、どちらの学習法も 18 週経過後も学習効果が見られ、その効果に差はなかった。しかしながら、単語単独学習は日本語訳を想起する手掛かりがなく、長期的に記憶に留めておくことが難しい単語があったことから、2 つの学習法の相互補完的な活用が望ましいことが示唆された。さらにこの研究を発展させ、品詞や抽象度など単語の特徴と学習法によ

Ⅱ. 2. 外国語学部コロキウム

る効果の違いとの関係の解明につなげることができるのではないかと考える。

また、静岡県内の公立高校における語彙学習の実態と教師及び生徒の意識について、アンケート調査を実施した。調査結果より、以下の2点が明らかになった。まず、生徒が自分の学習に取り入れている学習法は質、量ともに限定的であることから、教師は生徒に語彙学習の有効性を実感させ、納得感を持って主体的に取り組めるような指導を行う必要があるということである。さらに、教師が効果を認識しているにもかかわらず授業で十分実施していない指導法は、生徒がその効果を認知していない傾向にあった。教師自身がそのような指導を受けた経験がなく、十分に指導法を理解していないのではないかとと思われることから、教師が授業に取り入れる手立てを工夫し、生徒にそのような学習法を意識させる必要があるのではないかとということである。

今後も、教室環境における英語語彙指導の改善に資することを目的として、研究を継続させていきたい。

3. 特別研究の題目

英米語学科 卒業研究 題目一覧

小池理恵研究室

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 佐川 花歩 | 日本における Lookism の受容と変容 |
| 百瀬 水月 | マーベル映画の世界に隠された「私たち」の世界 |
| 小林 菜々 | ハワイ王国からハワイ州へフラの「復興」と「創造」－ |
| 杉山 由祐 | #Me Too におけるセレブリティの役割－ムーブメントの展開とその後－ |

幸田明子研究室

- | | |
|--------|---|
| 池谷 風佑那 | 小学校外国語授業（英語）の現状と課題－効果的な小中連携を目指して－ |
| 金指 彬音 | 中学校英語授業における CLIL の効果的な指導法－中学校英語の現状と課題を踏まえて－ |
| 杉山 秀一 | 小学校外国語活動・外国語科に関する一考察－検定教科書・補助教材の効果的な利用法－ |
| 永田 将大 | 中学校英語教材研究－ディズニー作品を利用した英語劇学習－ |
| 舩井 亘紀 | 中学校英語における反転授業の活用法－より効果的な授業展開を目指して－ |
| 森崎 桃香 | 現代における異文化受容の問題点－異文化摩擦の事例を通して－ |
| 湯沢 陸人 | 中学校英語授業におけるより発展的なアクティビティーのあり方 |

柴田里実研究室

- | | |
|-------|---|
| 大藪 春海 | バイリンガル話者が話す言語の言語間距離はアルツハイマー型認知症の発症年齢に影響を及ぼすのか |
| 加藤 諒 | 飲水は日本人大学生の認知的パフォーマンスに影響を与えるのか |
| 亀井 直樹 | 教室内の気温が記憶力に与える影響－ L2 Reading を通した検証－ |
| 永倉 純 | 洋楽を活用した授業外英語学習に関する研究－ 3 週間の介入調査による検証－ |

II. 3. 特別研究の題目

中島 摩保	意識的な L2 での「独り言」は L2 スピーキングの流暢性に肯定的な影響を与えるのか
長島 鼓	日本人 EFL 学習者の英語での会話行動に BGM が及ぼす影響
北條 龍誠	難読症の子どもたちを支援するために私たちは何ができるのか
山本 琴音	日本人大学生英語学習者は動画視聴によって偶発的に語彙を習得するのか
湯原 隼太	Positive Self Talk は日本人大学生の L2speech 不安を軽減するのか
吉村 祐豊	L2 での独り言が習慣化するプロセスに関する一考察－半構造化インタビューを通して－
藁科 薫	Who Experiences Cultural Frame Switching: ESL Learners with and without CFS

戸田勉研究室

天野 若葵	イギリスサッカーにおける一考察－W 杯成績停滞にある文化的背景
日下部 夢奈	映画『ロイヤル・ナイト英国王女の秘密の外出』(2016) から見るイギリス文化
貫名 美結	One Direction を通して見るイギリスの音楽史
古村 香澄	イギリスの紅茶文化について－
星野 紗希	ヴィヴィアン・ウェストウッドがイギリスのサブカルチャーに与えた影響
村田 恵美	開かれたイギリス王室に関する一考察－エリザベス二世を中心に－

山田昌史研究室

池田 理紗	日英における社会と言語の変化の関連性
中野 真綾	人を惹きつける英語スピーチとは：名スピーチの内容分析
村田 侑美奈	『あつまれどうぶつの森』キャラクター名にみられる日英の違い

良知恵美子研究室

- 加藤 彩葉 複言語主義教育の現状について－日本人大学生へのアンケート、インタビューを通じて－
- 河野 有希 外国にルーツを持つ子どもたちの母語母文化継承における両親の役割－在日韓国人家庭へのインタビューにおいて－
- 芹澤 侑哉 英語専攻大学生のスピーキングに関するオンライン学習とオフライン学習の取り組み－オフライン学習の授業内の効果を通じて－
- 土屋 龍聖 モチベーションの維持を促し、充実した英語学習につなげるために
- 水野 彩紀 異文化コミュニケーションにおける心理変化に留学経験が与える影響
- 山田 雅 英語学習において補助的な学習方法としての音読が果たす役割
- 山本 千花 対象児 H における言語獲得以前のコミュニケーションツールの発達

グローバルコミュニケーション学科特別研究

共同翻訳文献およびサブ・レポート題目一覧

韓国特別研究

担当 福島 みのり

《共同翻訳文献》

原題：최태섭 (2018) 『한국, 남자』 은행나무

邦題：チェ・テソプ著 (2018) 『韓国、男子』 whale books

《サブ・レポート題目一覧》

18122005 伊川亜祐菜「“新たな女性像”に憧れる女性たち ～「ガールズクラッシュ」という言葉をキーワードに～」

18122025 加藤萌子「容姿にとられる若者たち～ルッキズム（外見至上主義）との関係」

18122039 桑原和可葉「韓国エッセイはどうして日本でヒットしたのか～ K 文学が好まれる傾向から見る日本社会の課題～」

18122054 杉山慎之佑「韓国における男性育休の制度化とその背景～少子化対策の観点から～」

ブラジル / ポルトガル特別研究

担当 江口 佳子

《共同翻訳文献》

原題：Ana Maria Machado, *As cartas não mentem jamais*, Objetiva, Rio de Janeiro, 2013

《サブ・レポート題目一覧》

18122034 久野翔太郎「アマゾンの豊かな自然と環境問題
～影の過去から光の未来へ～」

- 18122040 児玉紗奈「ブラジル庶民のお酒カシャッサ」
18122097 丸野祐輔「南蛮文化と狩野内膳の南蛮屏風」
18122109 安井志織「危険や貧しいだけではない場所 ファヴェーラ」
18122111 山崎愛弓「ポルトガルと建築家アルヴァロ・シザ」
18122118 渡邊光砂「日本語とポルトガル語のことわざ比較」

中国特別研究

担当 戸田 裕司

《共同翻訳文献》

原題：那志良《典守故宫国宝七十年》（紫禁城出版社，2004 年）

《サブ・レポート題目一覧》

- 18122066 瀧口太一「兩岸関係の歴史と現状、そしてこれから」
18122079 中西希天「中国自動車産業から見る中国の成長」
18122085 萩原実咲「中国の外交戦略——帯一路から見る中国——」

日本語教育特別研究

担当 谷 誠司

- 18122028 神谷 唯衣『『ドリトル先生航海記』におけるキャラクターの言語表現及び翻訳の分析』
18122105 望月 里緒菜「インターネットラジオと配信アプリのリスナーとの談話の比較分析」

Ⅱ. 3. 特別研究の題目

スペイン・ラテンアメリカ特別研究

担当 増井 実子

《共同翻訳文献》

原題：Antonio Domínguez Ortiz, Bernard Vincent, *Historia de los moriscos: vida y tragedia de una minoría*, Alianza Editorial, 1985 Capítulo 1

邦題：アントニオ・ドミンゲス・オルティス、ベルナルド・バンサン著『モリスコの歴史－悲劇のマイノリティの実像』アリアンサ 1985年 第1章

《サブ・レポート題目一覧》

18122008 井出健太「スペインの労働市場と移民－人口動態からみるパンデミック後の社会」

18122035 窪澤実華「色彩やデファートの観点から読み解くゴヤの《黒い絵》」

18122036 久保山舞子「ムデハル建築の魅力－可視化された異文化融合」

18122043 小林瑞歩「現代スペインの失業問題－民主化移行期から現在まで」

18122053 杉山滉一「スペインの IT 人材不足問題について」

18122070 田辺楓子「スペインと日本の風力発電比較－なぜスペインは風力発電導入が進んだのか」

18122078 長嶋穂果「スペインにおけるチョコレート」の歴史」

18122087 林 倖多「MTA (Mondragon Team Academy) 教育の現状と可能性」

18122089 藤波啓佑「不滅のサンティアゴ巡礼－中世からコロナ禍の現在まで」

18122093 細越 響「スペインとイスラーム－対立と共存の歴史」

18122110 山岡夢羽「スペイン語版百人一首から見る日本人とスペイン人の自然観」

★今年度からの新たな試みとして「グローバルコミュニケーション学科特別研究サブレポート報告会」が2022年1月18日（火）に実施されました。教員・学生を合わせて、約70名が参加し、盛会のうちに終了しました。

GC学科 特別研究 サブレポート 報告会

日時

2022 年 1 月 18 日 [火]

午前の部 **10:00-11:40** スペインのみ
午後の部 **13:30-15:30** 全会場

場所

A403 ブラジル・ポルトガル研究 江口ゼミ

A404 スペイン研究 増井ゼミ

A405 中国・台湾研究 戸田ゼミ
日本語教育研究 谷ゼミ

A406 韓国研究 福島ゼミ

4 年生の特研履修者が執筆したサブレポートの概要を報告します。全学年が聴講できます。

事前予約制



申込〆切 **1/14**

報告者氏名と
タイトル

1月11日頃に
ポータル配信し
ます。

主催

外国語学部
グローバルコミュニ
ケーション学科

4. 日本語教員養成課程の活動報告

「日本語を教える」ということ

19121093 水上 更紗

あなたは自分の日本語に自信がありますか？私は日本語教員養成課程を修める上で自分の日本語の未熟さを痛感しました。おにぎりとおむすびの違いや、オノマトペ（例：ばらばら・ざあざあなど）の微妙な意味合いなど、学習者は私たちの意識が向かない角度から疑問を投げかけてきます。新しい視点を持つことができたその課程の中で今年度の「日本語教授法（前期）」と「日本語教育実習（後期）」は自分が大きく成長できた授業でした。これまでの学習を活かし作成した教案を実践するという言葉にすれば簡単なことですが、教案作成という経験は勿論なく、グループの学生と試行錯誤する毎日でした。日本語を母語とする自分が「日本語を教える」ということは想像以上に大変でしたが、この1年は日本語教員を目指している自分にとって大きな糧となり、自信につながりました。ここでこの1年を振り返ってみたいと思います。

前期の日本語教授法では、教員側の視点を持つことに重点を置き授業を行いました。授業スタイルは種類が豊富で学習者の人数やレベルに合わせて教案を考える必要があることを学びました。また、清先生のビデオを見て授業全体の流れを掴み、指示の出し方など細かい部分も勉強させていただきました。模擬授業を通して「授業は教案が8割を占める」という清先生の言葉通り、教案を深めることが重要であると学びました。

教案を作成するにあたり、私が特に注意したポイントは学習者の発話量を多くすることと、利便性の高い例文や単語を使用することです。これらを意識することで、学習者が自然に文型を使い話せるようになります。私のグループは「～ておきます」という文型で、学習者の記憶に残る授業を作ること为目标とし後期の実習に取り組みました。実際にアイスブレイクではハロウィンを、練習ではゴミの分別を、応用では富士山を扱い、学習者の日常に迫ったワークを行いました。前期に学習した内容を最大限引き出すことができたと感じています。

教案が固まるまではより良い授業作りのため、何度もグループで話し合いを重ねました。オンライン授業ということでスライドを共有するか黒板を使うか迷いましたが、ワークごとに適した方法でどちらも取り入れることにしました。模擬授業後の2週間は実習に向けて、ZOOMを使用したり教室を借りて大きな声で練習をしたり、グループの皆と工夫を加えながら授業をイメージして行いました。正直、日本語母語話者の私には文法や語彙・発音など難しいポイントや違和感を覚える箇所がはっきりしません。また、学習者の出身によって得手不得手とする分野が違うということもあり、こちらの指示に対してどのような返答が来るのか予測が難しく学習者のミスへの対応は本当に悩みました。その点もグループで様々なパターンを想定し、準備を進めていきました。

迎えた当日、私のグループは初日で留学生の皆さんと顔を合わせるのも初めてだったため、とても緊張したのを覚えています。しかし、それまで費やした時間や練習を思い返し、楽しみながら順調に終わることができました。不安に感じていた部分も難なくこなすことができました。コロナウイルスの影響で日本語学校の授業見学に行けず、留学生の皆さんと直接関わる機会すら得られませんでした。彼らのキラキラした笑顔や日本語学習に対しての熱意を画面越しではありましたが肌で感じることができました。

これまでの日本語教員養成過程を通して、私自身が日本語の難しさを実感すると同時に日本語表現の素敵さに気が付くことができました。さらに、学習者から多くの刺激を受け、日々取り組んでいる英語や中国語の学習意欲向上につながりました。

最後に、実習を行うにあたり協力してくださった留学生の皆さん、山仲先生をはじめとする日本語学校の先生方、清先生、そして苦楽を共にしたグループの友達、多くの方々に支えられて最後までやり遂げることができました。貴重な経験をさせていただいたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがとうございました。

15 分の中に 3 年間の学びを

19122088 村田 圭花

「せんせい、たのしかった。」「じゅぎょう、はやかった。」

これは実習後に学習者が言った言葉である。聞いた瞬間、うれしさと胸がいっぱいになった。わたしにとっても 15 分の授業はあっという間で楽しかった。ここに日本語教師のやりがいがあるのだろう。

わたしが「日本語教師」という言葉を初めて知ったのは、常葉大学の大学案内パンフレットである。グローバルコミュニケーション学科のページで日本語教師という言葉を見つけた。日本語教師とは、日本語を母語としない外国人や語学留学生に、日本語の読み書きや発音などを教える教員のことである。日本語教師という言葉を知ると、アンテナが立ち、日本語教師が目につくようになった。テレビのニュースや本屋のコーナーで見かけるようになった。

大学 1 年生で日本語教育入門を履修した。これが日本語教師の学びの始まりである。そして大学 3 年生の後期、日本語教育実習があった。常葉の大学生が 3 人で 1 グループになり、国際ことば学院の留学生に 45 分間日本語の授業を行う。私たち大学生が先生役として与えられた時間は 1 人あたり 15 分間だ。新型コロナウイルス感染症対策として対面で授業をすることはできなかったが、常葉大学と国際ことば学院の教室を Zoom で繋ぎ、オンライン授業を行った。日本語教育実習で私が意識したことを 2 点述べたいと思う。

1 つ目は「学習する人の立場に立って、自分を見ること」である。私たちは教案を作る際に“やさしい日本語”を徹底して心掛けた。わたしは以前、東京にほんごネット代表で日本語教育アドバイザーとして、幅広い活動をしている有田玲子さんの“やさしい日本語”講座を受講した。そこで“やさしい日本語”について多くのことを学んだ。例えばコロナ禍になり、「こまめに手洗(てあら)い」という掲示をよく目にする機会があるだろう。日本語を学ぶ学習者にとって、この 7 文字は難しい。この掲示を見て彼らは、「こまめに?」「こまかいってなに?」「手洗い?お手洗い?トイレのこと?」と疑問を喚く。そこで“やさしい日本語”にしてみる。読者の皆さん、「こまめに手洗い」をどのように分かりやすく、伝

わりやすい“やさしい日本語”に書き換えますか。いくつかの答えがあるが、やさしい日本語に書き換えると、「1日に何回も手を洗います。」となる。短く話す、文末の語尾は日本語学習者が最初に習うマス形（書きます。食べます。）に、敬語は使わないなど、心がけることは沢山ある。“やさしい日本語”は正解が1つとは限らない。ある学習者が分かっても、別の学習者には伝わらないことがあるからだ。そのような場合は、もう一度学習者の目線になって“やさしい日本語”を考えてみる。改めて日本語の豊かさに気づかされる。考えれば考えるほど面白かった。教案を考えるときは、3人で1文ずつ確認しながら文を作成した。また、授業で使う例文や練習問題を作る際は、私が大学で学んでいる言語であるポルトガル語と中国語に置き換えてみた。学習者の日本語のレベルはN4、N5であり、日本語を学習して2年ほど経つ。私はポルトガル語と中国語を学習して3年目になる。学習者とわたしの目標言語の学習時間が近いと、既知の単語が同じくらいであるだろうと考えた。例えば、“パン”という名詞のポルトガル語に変えることができても、“肉”という名詞をポルトガル語に変えることはできなかった。そのため、私たちの例文の中では“パン”が使われた。このように学習する立場に立って、自分を見てみた。

2つ目は「オンライン授業における工夫」である。今回はオンライン授業のため、対面授業とは違った工夫が必要だった。ここで参考になったのが、ポルトガル語、中国語のオンライン留学の経験である。今回の実習と同様にZoomを使ったオンライン授業であった。オンライン留学で私が感じたことは、発話のタイミングが難しいこと、音声聞き取りづらいことであった。そのため実習では、全体の反応を聞きたいときは“みなさん”を前につけ、個人の意見を聞きたいときは“〇〇さん”と名前をまず言った。そうすることで学習者が発言するタイミングをとりやすくなるだろうと考えた。また、音声の問題を解決するため2度繰り返すようにした。「冬になると外の温度はどうですか、外の気温はどうですか。」と。オンライン授業と対面授業の差を小さくすることが今後の課題である。

大学で始めた日本語教育。3年分の学びが詰まった15分間であった。

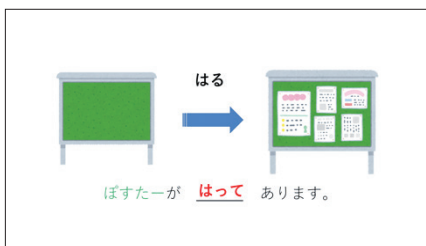
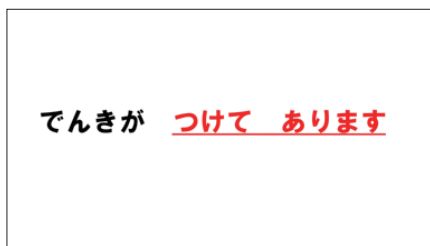
Ⅱ. 4. 日本語教員養成課程の活動報告



【日本語教育実習の様子】



じしょ形	ます形	て形
かう	かいます	かって
はる	はります	はって



【授業で使った Power Point】

5. 学内外での教職員や学生の取り組み

英語リスニングの遠隔授業における Moodle の利用

市川 真矢

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延により、2020 年度前期開講時より遠隔授業を余儀なくされたが、その際に筆者が授業で利用した Moodle が一定の効果を収める助けとなった。また例年、外国語学部卒業生の一割強が教育分野に就職していることを考えると、この経験を本誌に記しておくことに幾分なりとも意味があるかと思われる。

Moodle は Learning Management System（以下、LMS：学習管理システム）と呼ばれるジャンルのサーバーアプリケーションで、無償で提供され、Apache・MySQL・PHP を備えるサーバー上で動作する。コース（一つの授業）を基本単位として学習用ウェブページを作成することができ、画面上に資料や課題を配置できる。課題への取り組みは評定表に記録され、教員・学生が参照できる。

以前より筆者は個人で共有型レンタルサーバーを借り、Moodle をインストールして授業で使用してきた。2020～2021 年には全学共通科目「英語コミュニケーション」（法学部、教育学部）、英米語学科専門科目「Listening II」、「英語音声学」、GC 学科専門科目「協働研究セミナー Basic」等の授業ウェブページを Moodle で作ったが、授業の形態から受講生がウェブページ上のコンテンツと最も頻繁に関わったのが「Listening II」であった。以下の報告はこの科目の 2020 年前期の実践についてである。

対面授業が行えない状況のもとで、本講（Listening II）の目標として次の 4 点を考えていた。

1. 英語の聴解力を鍛える練習を量として十分に行なわせること
2. 英米語学科の必修科目「英語音声学 A」の内容との関連を意識させること
3. 毎週決まった時間に課題に取り組ませることで学習を習慣化させること
4. 学生個人の取り組みを可能な限り克明に記録、可視化すること

II. 5. 学内外での教職員や学生の取り組み

以下、実践の方法を記しながら、上記4点について振り返る。

本講では Cengage の *Listen In: Book 2* をテキストとして採用し、前期の間に Starter Unit および Unit 1 ～ 6 の聴解問題を練習させた。

Moodle を利用し、「Listening II A」というコースを作成し、シラバスに沿ってテキスト各ユニットのリスニング問題を配置し、毎週解答させた。問題は、CD 音声ファイル、問題（とその正答）、リスニング音声のスクリプトから成る。半期で計 512 点分の問題を用意した（「小テスト (Quiz)」というモジュールで作成）。履修者が解答した問題はあらかじめ用意した正答と照らして自動的に採点・記録される。解答期限後に履修者は正答と成績を確認できる。またスクリプトのページ（「ページ (Page)」というモジュールで作成）を解答期限後に参照可能となるようにした。

問題への解答は、最も忘れにくく勘違いが起りにくいと想着て、当初、時間割と同じ時刻・時間（水曜 2 限 10:45-12:15）に限っていたが、2020 年 6 月半ばから対面授業が一部再開されることになったため、時間割通りの時間だけでは解答困難な学生も出てきたので、同日の午前 6 時から 12 時 15 分まで解答可能とした。授業時間の間は、私もコンピューターの前に待機し、何か問題が発生した場合には Moodle のメッセージ機能を使って学生からのメッセージを受け、できる限り早急に対応するようにした。

毎回の最後には、Moodle のアンケート（「フィードバック (Feedback)」というモジュールで作成）の機能を使って、授業内容で難しかった点と通信環境等で問題となった点を履修者から聞いた。

年度当初の予定より開講が遅れたため授業時間が 3 回不足するので補講を行わなければならないという問題があったが、普段の授業で練習する分量を約 1 週間の間に各自の都合のつく時間で解答するという形を 3 回とるという形で対応した。

最終回（2020 年 7 月 29 日）には、履修者の学習歴、将来への展望、英語学習についての悩み、2020 年前期の遠隔授業全般への意見、筆者担当の「Listening II A」に対する意見をたずねるアンケート（「アンケート (Questionnaire)」というモジュールで作成）を行なった。

上述の 4 点の目標のうち 1、3、4 については一定の効果があったと思われる。

1. 英語の聴解力を鍛える練習を量として十分に行なわせること

テキスト掲載の問題のうち、コミュニケーションを行わせる問題は割愛せざるを得なかったが、英語聴解力の向上を目指した問題は 512 点分を用意し、履修者に解答させた。

3. 毎週決まった時間に課題に取り組ませることで学習を習慣化させること

ーちゃんと授業時間にしかできないので、生活リズムを整えられた。(履修者の声)

ー他の授業と割り切ってもらえたため、提出期限や授業日などが混合せず、やりやすかったです。(同)

対面授業が一部再開されてから、解答可能時間を前に延ばしたが、それも好意的に評価されたと思う。

ー前後の授業の関係で回答時間を延ばしていただけてとても助かりました。(履修者の声)

ー 6 時から受けられるというのはとても助かりました。対面授業がある日だと間に合わないことがあったのでよかったです。(同)

ー 6 時から音声聞けるようになったことがよかったです。(同)

ー朝 6 時からできるようになり対面授業に支障が出なくて良かった。(同)

4. 学生個人の取り組みを可能な限り克明に記録、可視化すること

個々の履修者にアカウントを発行しウェブサイトを利用してもらうため、練習問題の得点はもちろんのことログインからログアウトまでの行動がすべてウェブサーバーのログに記録される。そしてこの記録をさまざまな形で可視化することが可能である。教師が学生を評価するのに役立ち、学生が学習のモチベーションを維持するのに役立っていたと思う。

II. 5. 学内外での教職員や学生の取り組み

－毎週やるべき事が明確に掲示されアクセスもしやすくとても使いやすかった。各ユニットでやった部分にチェックマークがつく所がどこまでやったかの目印になるためとてもよかった。(履修者の声)

－スコアが見れるのが良かった。他のオンライン授業と違って、やっている実感もでき、不安なく授業に取り組めた。(同)

－良かった点としては自分のペースで進めることができる、また終わった授業の内容が分かりやすい点です。(同)

－他の講義に比べ明確にやるべき事が掲示され、またリスニングという形式上ネット上での学習もしやすくとても積極的に取り組むことができました。(同)

－前期はオンラインのみの授業でしたが、他の授業よりもモチベーションが保たれやすく、自分のペースで勉強に取り組める点良かったです。自分のペースでやりつつも、しっかり制限時間が設けられていることでやる気が促進されました。(同)

総じて、履修者は対面授業を希望しながらも、もし後期もオンライン授業でやらざるを得ないのならばMoodleを使ったこの方式を支持するという意見が多かったように思う。

－オンライン授業の形式はこの「市川の教室」という形式がとても便利なので継続してほしいが、対面で授業を受けられるのがいちばん良いので、後期はぜひ対面で受けたい。(履修者の声)

－後期は対面授業にしてほしいです。というかこの授業より人数が多いものが対面になっていて、この授業はオンラインなのが納得いきません。(同)

－後期は対面授業になるといいです。(同)

－前期では全てオンライン授業だったので最初は慣れない点が多かったですが、慣れてくるととてもやりやすい形式で学習を進めることが出来ました。後期では対面授業ができる環境であれば対面を優先してもらいたいと思います。(同)

－後期もしリモートになってしまった時はこのような形でまた授業をうけたいです！(同)

ーこのリモート授業はとても価値のあるものになりました。リモートの中でも楽しくできたので嬉しかったです (同)

ー今現在浜松市で感染者が増えてきているので後期はどうなるかわかりませんが、後期もこの形式がいいです。(同)

一方、上述 4 点の目標のうち、2 については不十分であった。

2. 英米語学科の必修科目「英語音声学 A」の内容との関連を意識させること

英米語学科の 2 年生は「英語音声学」(必修科目)を履修していて、英語の母音・子音、それが連続する場合の音変化などを体系的に学んでいるはずなので、それをリスニング練習の際にも想起させたかったが、その余裕がなかった。学生が対面授業を望むのも、そうした解説の不足に不満を覚えたからであろう。授業時間の一部分であっても、Zoom あるいは Microsoft Teams のような「双方向ビデオ」を利用するのも一つの方法かと思う。2020 年前期にはこの方面の知識・技術が自分になかった。

以上、2020 年前期の「Listening II A」における Moodle 使用について述べてきた。本講では、ウェブページ上でのリスニング問題作成に「小テスト (Quiz)」というモジュールしか使用しなかったが、Moodle の標準のパッケージにはこれ以外にも多数のモジュールがあり、多様な学習活動が可能である。また、世界の教育関係者・技術者が開発する非標準のモジュールをインストールすることで更に活動の種類を増やしたり、使用感を向上させたり、さまざまな学習情報の視覚化が可能である。またユーザー間の情報交換も活発に行われており、技術面の問題から授業の話題まで経験豊かなユーザーからサポートを受けることができる。興味を持たれた方は以下を参照されたい。

- Moodle - Open-source learning platform: <https://moodle.org/>
- Moodle plugins directory: <https://moodle.org/plugins/>
- Japanese Moodle: <https://moodle.org/course/view.php?id=14>

わさびは世界へつながる

若松 大祐

縁もゆかりもない静岡にやってきて、私自身の認識を変えたものがある。わさび（山葵）である。従来から辛さのためにわさびを好きでなかった。唐辛子の辛さは大好きなのである。しかし、2019年夏に同僚から本わさびの卸し方を聞き、少し認識が変わった。チューブに入った練りわさびと自身で擦った本わさびには、決定的な味の違いのあることをようやく知る。さらに、専用の卸し金を使うことで、同じ本わさびでも味の大きく変わることを実感した。（私は山本食品の「鋼鯨」を使っている。）

そこで、だいぶ遅ればせながら少し調べたり、関係者に話を聞いてみる。2021年11月17日（水）には、杉山昌弘氏（杉山農園園主、安倍山葵業組合副組合長）を招聘し、常葉大学の担当授業で小さな講演会を実施する。また、11月21日（日）には、友人（5名）や学生（7名）とマイクロバスに乗って安倍川上流の有東木と梅ヶ島へ行き、わさび農家を訪ねる。すると、わさびを通じて現在の日本社会や国際社会の姿がいくつか見えてきた。本稿では私が意外に思ったり、興味深く感じた話題を3つほど紹介したい。

まず、若年層はわさびをあまり食べないという。わさび栽培は慶長年間（1596～1615）に有東木で始まったと言われており、現在、静岡県はわさびの生産量が日本一である。わさびは重要な換金作物であり、10a当たりの収入額は茶の10倍である。このような静岡県内でも、近年は人々が子供のころからわさびを避けるため、大人になっても食べない人が多いという。そもそも静岡市民で梅ヶ島や有東木を知らない人もいるというから、驚きである。静岡のみならず、現在の日本には、独特の辛味のためにわさびを苦手とする人が多いようである。確かに、市販のチューブの練りわさびは辛い。これは、原材料の西洋わさび（ホースラディッシュ）の辛さである。しかしながら、専用の卸し金を使えば、本わさびは辛いだけでなく、甘さが出てくる。そして食材の味をより一層引き立てるのである。後述するように、和食は今や国際的に人気がある。和食に不可欠なわさびのふるさととも言える静岡で、人々がわさびに関心を持たないのは、残念に思う。

次に、わさびの価格は今後高騰する可能性がある。近年、和食が国際的なブームとなって久しい。2013 年にユネスコ無形文化遺産に和食が登録されたからである。2018 年 3 月には、「静岡水わさびの伝統栽培」が世界農業遺産に登録された。和食に欠かせないわさびの需要は海外でも高まり、海外でも本物を志向する和食レストランになればなるほど、日本から本わさびを輸入して使う傾向にあるという。しかしながら、日本でのわさび栽培は簡単にわさび田を増設できない。わさびの栽培が可能な場所が限られているからである。つまり、わさびの生産量は簡単に増やせない。したがって、わさびの生産量は一定であるのに海外からの需要が増えれば、しかも高価でも入手したいという声が高まれば、わさび全体の値段は高まる。近い将来、日本国内（特に静岡県内）で本わさびを気軽に安く入手できなくなるかもしれない。

最後に、台湾でもわさびを栽培している。台湾では日本統治時代にわさび栽培が持ち込まれた。日本による植民地統治が終わった後も、わさび栽培は残り、聞くところによると、嘉義県にある阿里山では真妻種と類似のわさびを栽培できたために、なんとほとんどを日本へ輸出していたという。わさびは台湾でも重要な換金作物なのである。なるほど私が台北の大学院修士課程で学んでいた時（2003 年ごろ）、阿里山でわさびを栽培していると聞いたわけである。しかし、2011 年から台湾の行政院農業委員会林務局（林野庁に相当）が国有地でのわさび栽培を段階的に禁止した。国定公園の景観や環境を守るとするのが理由である。阿里山のわさび栽培はほとんどが国有地で展開していたため、2016 年に阿里山のわさび栽培が壊滅した。その後、わさび栽培の技術を持ち出し、中国雲南で展開するものも現れた。雲南には、ワサビ属植物と遺伝的に近縁である「山箭菜」（シャユサイ、*Eutrema Yunnanense*）がある。2018 年に、行政院農業委員会が台湾でのわさび栽培を再興する方針を採る。信州安曇野の大王わさび農場のような観光農園を、阿里山石埤地域に造ろうと目論む農家もいるようだ。

< 参考文献 >

長谷川嘉成、鶴飼優慈、村田充良（編著）『わさび博物誌：栽培・歴史から疾病予防効果まで、あらゆる「知」にわさびパワーを読み解く』名古屋：金印、2004 年。

II. 5. 学内外での教職員や学生の取り組み

静岡わさび農業遺産推進協議会「静岡水わさびの伝統栽培～発祥の地が伝える人
とわさびの歴史～」〔世界農業遺産申請書〕静岡：著者？、2017年？。

静岡わさび農業遺産推進協議会「静岡水わさびの伝統栽培～世界農業遺産・日本
農業遺産保全計（アクションプラン）」静岡：静岡県経済産業部農業局農芸
振興課、2018年5月。

山根京子『わさびの日本史』東京：文一総合出版、2020年。

<https://shizuoka-wasabi.jp/>

静岡水わさびの伝統栽培～世界農業遺産・日本農業遺産 (Traditional
Wasabi Cultivation in Shizuoka)

<https://www.kinjirushi.co.jp/>

金印株式会社

<https://www.sankei.com/article/20161204-JKYCDV7OCFP2ZAPZ2CLDKIS5T4/>

産経新聞 > 台湾産ワサビ存続ピンチ 林野当局、「治山」で先住民栽培地に
退去要求（2016/12/4 05:00）〔2022年1月9日閲覧〕

<https://udn.com/news/story/7326/5084204>

聯合新聞網 > 阿里山山葵復育3年 葵農盼規畫觀光農場（2020-12-11 11:34）
〔2021年5月31日閲覧〕

<https://www.chinatimes.com/newspapers/20201212000521-260107?chdtv>

中國時報 > 阿里山山葵復育 明年可望賣種苗（04:10 2020/12/12）〔2021年5
月31日閲覧〕

<https://courrier.jp/news/archives/279311/>

クーリエ・ジャポン (Courrier Japon) > ニッポン > 日本一の産地・静岡県
で生産量が“半減”「日本食に欠かせない“あの食材”が危機に瀕している」
—米紙が見た日本の「ワサビ危機」(2022.2.20) ニューヨーク・タイムズ（米
国）〔2022年2月20日閲覧〕

令和 3 年度共催公開講座：日本人の常識は非常識？

常葉大学が 2021（令和 3）年度に静岡市生涯学習センターと共催講座を開催するにあたり、外国語学部は「日本人の常識は非常識？」と題して、全 4 回の公開講演を実施した。毎回 10 名強の参加者があり、意欲的な参加や積極的な発言のために、外国語学部教員は講師としてやりがいを大いに感じた。（若松大祐）

令和 3 年度 静岡市生涯学習センター×常葉大学 共催公開講座

共通テーマ：日本人の常識は非常識？～世界は広い、まだまだ知らないことばかり～

場所：静岡市西部生涯学習センター（〒420-0068 静岡市葵区田町 3 丁目 46 番地 5）

主旨：インターネットの普及により、世界との距離が狭まったとはいえ、実際に外国人と接する機会は多くありません。オリパラ開催（予定）で各方面から来日する直前に現在の欧州、アジア、北南米の各国に注目し、日本とは違う習慣・慣行を学ぶことで我が国の特異性を振り返り、国際的な常識に関する認識を新たにします。

(1) 7 月 1 日（木）18:30～20:30

講師：清ルミ、外国語学部グローバルコミュニケーション学科・教授

題目：ヨーロッパの常識～人づきあいの暗黙のルール

概要：日本では「欧米」とひとくくりに扱われることが多いですが、欧州には複数の国が存在します。習慣、ルール、マナーは国ごとに異なりますが、なかでも特徴的なものを取り上げ、日本と比較しながら考察してみたいと思います。

(2) 7 月 8 日（木）18:30～20:30

講師：若松大祐、外国語学部グローバルコミュニケーション学科・准教授

題目：同じ民主主義？：日台中の常識の比較

概要：現代の国際社会では民主主義は最良の政体だと思われています。少なくとも

Ⅱ. 5. 学内外での教職員や学生の取り組み

も日本ではそうです。今回は日本、中国、台湾の民主主義を取り上げ、東アジアの近代史の中でそれぞれの内容を比較します。

(3) 7月15日(木) 18:30～20:30

講師：Peter Hourdequin、外国語学部英米語学科・准教授

題目：現代のアメリカと日本の価値観とコミュニケーションスタイル

概要：この講義では、現代アメリカの価値観やコミュニケーションスタイルの歴史的なルーツと発展を探ります。また、日本で普及している価値観やコミュニケーションスタイルとの比較を行います。その違いや共通点を、実例やエピソードを交えて説明します。

(4) 7月15日(木) 18:30～20:30

講師：江口佳子、外国語学部グローバルコミュニケーション学科・准教授

題目：多民族多文化の国ブラジルにおける日系社会

概要：ブラジルは世界中から来た移民により形成された国であり、世界最大の約200万人の日系人社会があります。多様な価値観が交差するブラジルで、日系人はどのような存在なのかを考えたいと思います。

合同ゼミナール ―自身の関心を見つめ直す機会として―

19121066 寺本 想

2021 年 6 月 26 日（土）と 7 月 3 日（土）の 2 日間にわたり、on-line で開催された合同ゼミナールに、本学外国語学部若松大祐准教授の引率のもと、本学外国語学部から 3 名の学生が参加しました。

大学	引率教員	学生
常葉大学 外国語学部	若松大祐	3 名
南山大学 外国語学部	宮原佳昭	11 名
立命館大学 文学部	宮内肇	10 名

このゼミナールの主旨は、東アジアについて関心のある学生が自らの関心をより深め、同時に新たな分野への関心を持つように試みることにあります。そのために、参加者は自らが持つ疑問の解明に接近すべく、関係する書籍を取り上げて得られた答案を発表します。また、他の参加者の発表を聴いて質問し、議論を展開します。本学から参加した 3 名はそれぞれ、下記の書籍に即して発表を行いました。

学生	取り上げた書籍
嶋崎明日香（3 年）	中島恵『中国人のお金の使い道——彼らはどれほどお金持ちになったのか』PHP 新書、2021 年 1 月。
高橋 南海（3 年）	エドワード・W. サイド『オリエンタリズム』（上・下）平凡社ライブラリー、1993 年 6 月。
寺本 想（3 年）	マイケル・I. ハンデル（杉之尾宜生・西田陽一訳）『孫子とクラウゼヴィッツ——米陸軍戦略大学校テキスト』日本経済新聞出版社、2012 年。

<他大学の学生が取り上げた書籍>

大東和重『台湾の歴史と文化 ― 六つの時代が織りなす「美麗島」外部リンク』中公新書、2020 年。

丸川哲史『台湾ナショナリズム ― 東アジア近代のアボリア外部リンク』講談社

Ⅱ. 5. 学内外での教職員や学生の取り組み

選書メチエ、2010 年 5 月。

倉田徹・張彥啓『香港——中国と向き合う自由都市外部リンク』岩波新書、2015 年 12 月。

村串栄一『台湾で見つけた、日本人が忘れた「日本」外部リンク』講談社＋α新書、2016 年。

高嶋航『国家とスポーツ——岡部平太と満洲の夢外部リンク』角川学芸出版、2020 年 3 月。

浜口允子『北京三里屯第三小学校』岩波新書、1976 年。

ふるまいよしこ『中国メディア戦争——ネット・中産階級・巨大企業外部リンク』NHK 出版新書、2016 年。

ワン＝ジョン（伊藤真訳）『中国の歴史認識はどう作られたのか外部リンク』東洋経済新報社、2014 年 5 月。

姫田小夏『ポストコロナと中国の世界観外部リンク』集広舎、2021 年 2 月。

春木育美『韓国社会の現在——超少子化、貧困・孤立化、デジタル化外部リンク』中公新書、2020 年。

浜口允子『現代中国——都市と農村の 70 年外部リンク』左右社、2019 年 10 月。

福島香織『ウイグル人に何が起きているのか——民族迫害の起源と現在外部リンク』PHP 研究所、2019 年 6 月。

小野秀樹『中国人のこころ——「ことば」からみる思考と感覚外部リンク』集英社新書、2018 年。

鈴木大拙『（新編）東洋的な見方外部リンク』岩波文庫、1997 年 4 月。

潘允康（園田茂人訳）『変貌する中国の家族——血統社会の人間関係外部リンク』岩波書店、1994 年 11 月。

[1 日目] 6 月 26 日（土）	10：00－10：15	教員の自己紹介、説明
	10：15－11：45	発表
	11：45－12：30	ランチ交流会
	12：30－13：30	グループディスカッション
	13：30	連絡・解散

<div>〔2日目〕</div> <div>7月3日(土)</div>	10:00 – 10:15	集合・説明
	10:15 – 11:15	グループ発表制作
	11:20 – 12:20	成果発表会
	12:20 – 12:30	教員から講評

今回の合同ゼミナールはオンラインで行われました。先生方の自己紹介と当日のワークの説明の後、1班5名前後のグループに分かれ、自己紹介などを行ってから発表に入ります。その間、先生方が各グループの発表を見て回ります。他大学の学生による、自身の知識や本から得た知見をもとに作られた見ごたえのある発表に少し気押されながら、本学の学生も臆することなく発表を行っていきます。その後のグループディスカッションでも積極的に発言をし、話を広げることが出来、様々な意見の飛び交う素晴らしい意見交換になりました。また、2日目に行われたグループ発表は、他大学の学生と一緒に各個人の調べたい「研究テーマ」から1つを選び、発表するというものでした。発表では各班の調べたい「研究テーマ」が紹介されました。他の班の発表を聞くことで、自分たちの班が選んだ「研究テーマ」も見つめ直すことの出来る、とてもよい発表会になりました。

私が今回の合同ゼミナールに参加して、最も良かったと感じる点は、「今まで自分に無かった考え方に触れることができた点」です。他大学の学生と意見交換を行ったり、一緒に発表を制作していくなかで、異なる意見、考え方を聞くことによって、自身の考え方を見直すとともに、自分が興味のある分野は何なのかをより深く考えるきっかけになったと感じています。

2日目のグループ発表を制作するにあたって、私たちの班では、全員が異なる「研究テーマ」を取り上げたいということになり、「研究テーマ」を絞ることが最初の関門となりました。しかし、だからこそ各々が「自分がなぜそのテーマを扱いたいのか」を深く考えることが出来、お互いに考えを共有しあうことで全員が納得出来る1つの「研究テーマ」を絞り出すことができました。この経験は今後、就活や会議などをはじめとした、自分の今後に活かせるものになると確信しています。

私は、もっと多くの人がこの合同ゼミナールに参加してほしいと思っています。このような、普段違う授業を受けている他大学の学生と一緒に1つの物事に取り

Ⅱ． 5． 学内外での教職員や学生の取り組み

組むという体験はなかなかできることではありません。だからこそ、自分自身を見つめ直すきっかけになり、また今後の学びをより良いものにできるような経験になると思います。

〈外国語学部准教授・若松大祐の補足〉

他大学からの参加者はすべて、1年間から2年間にわたって特定の教員の指導を定期的に受けるゼミに所属しています。これに対し、本学からの参加者はこのたびの合同ゼミのために即席で組織されました。したがって、本学の学生はあくまでも課外活動として、しかも1ヶ月という短期間で、今回の合同ゼミのための発表を準備しています。

〈外国語学部准教授 若松大祐〉

2021 年度前期「国際関係論 A」(担当: 若松大祐) では、クラウゼヴィッツ『戦争論』を講読した。受講者は担当教員とともに、内容を十分に理解できずとも、なんとか邦訳 400 ページを足掛け 4 か月で読み終えた。ここに収録するのは、受講者の中でも特に熱心にクラウゼヴィッツと格闘した寺本想さんの読後感である。

<Text>

カール・フォン・クラウゼヴィッツ (著)、加藤秀治郎 (訳)『戦争論』〔縮訳版〕(東京: 日経 BP 日本経済新聞出版本部、2020 年)。

Carl von Clausewitz, *Vom Kriege*, 1832.

クラウゼヴィッツ『戦争論』における情報の意味

19121066 寺本 想

今回、私はクラウゼヴィッツ『戦争論』〔縮訳版〕を読み、ある一つの点が気になった。それは、クラウゼヴィッツは『戦争論』の中で情報についてあまり触れていないという点である。そのため私は先行研究の中から、『孫子とクラウゼヴィッツ』という本を手に取り、この疑問を解決しようと試みた。本稿では、その成果を記す。

『孫子』と『戦争論』の二つを比較する研究はあり、研究者の多くは両者の矛盾点や違いについて言及している。しかし、『孫子とクラウゼヴィッツ』では、『孫子』と『戦争論』の共通点に着目し、特に情報観の違いを論じる。その結果、矛盾点や違いがさらに明らかになった。

『孫子とクラウゼヴィッツ』に依ると、「情報」について『戦争論』はほとんど取り上げておらず、他方、『孫子』では数多く取り上げているという。「情報」とは、「敵の考え方、企画、能力に加えて、敵の配置や行動計画の見積もりなどに対する知見を提供するもの」である(『孫子とクラウゼヴィッツ』p.140 より抜粋)。そこで、本稿では「なぜ孫子は情報を重要視し、クラウゼヴィッツは重要視しなかったのか」を問い、その際に以下の観点から考察を進める。

「戦争に対する両者の考え方」

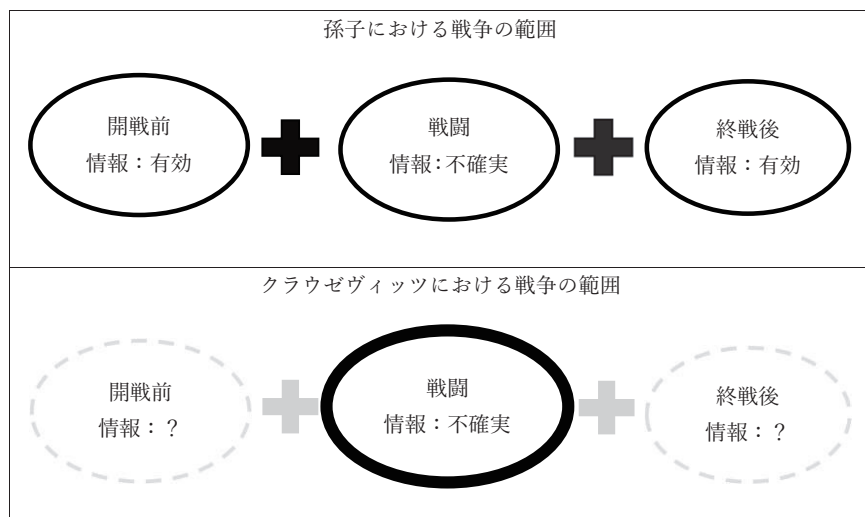
「戦争」について、『孫子』とクラウゼヴィッツの考え方をそれぞれ見ていこう。特に戦争の範囲に着目したい。

まず、『孫子』は戦争の範囲を長くとっている。開戦前にも、すなわち戦争勃発に先んずる段階においても相当の関心を払う。「戦争」は「武力戦」のみならず、戦争中およびその前後の政治的、外交的、ロジスティクスの準備も含有するもの」なのである（『孫子とクラウゼヴィッツ』p.45）。言い換えれば、『孫子』は国家の目的達成の手段として、「外交戦略」を挙げる。「武力戦」の代替案として、武力戦（開戦）に至る前の外交的な取引や交渉に尽力するよう説く。そこでは、例えば敵国同士での同盟締結の阻止も含む。要するに、武力戦に先立つところから終結までのプロセス全体を戦争に位置付け、そこにおける「情報」の役割について強調する（『孫子とクラウゼヴィッツ』p.42）。

クラウゼヴィッツは『孫子』と違い、戦争の範囲を短くとっている。「戦争とは、相手に自らの意志を強要するための、実力の行使である」と定義したほどである（『戦争論』第1編第1章2項、p.39）。そもそも、武力戦中の外交戦略についてほとんど言及しない。つまり、クラウゼヴィッツはより下位の戦略、作戦レベルに重点を置き、戦争を把握しているのである。

ここまで論じた内容をもとに、図式化しよう。『孫子』とクラウゼヴィッツにとって、戦争の範囲と情報の有意性は本稿末の図のようになろう。

以上のように、『孫子』は「戦争」を広義で論じ、クラウゼヴィッツは狭義で論じている。したがって、『孫子』は広義で戦争を論じるから、情報を重視する。対して、クラウゼヴィッツは狭義で戦争を論じるから、情報を信頼しないのである。



< 参考文献 >

マイケル・I・ハンデル (著)、杉之尾宜生・西田陽一 (訳)『孫子とクラウゼヴィッツ』(東京：日本経済新聞出版社、2012 年)。

Handel, Michael I, *Sun Tzu and Clausewitz: the Art of War and On War Compared*, Carlisle Barracks, Pa.: Strategic Studies Institute, U.S. Army War College, 1991.

浅野裕一『孫子』〔講談社学術文庫〕(東京：講談社、1997 年)。

6. [後援] 現代世界文学の読書会

現代世界文学の読書会：近代西洋の学知

若松 大祐

有志の教員が2017年度より外国語学部言語文化研究会の後援を受けて、毎月1回の頻度で世界各地の現代文学を対象とした読書会を開催している。目的は、参加者が自身の専門外の地域に理解を広げるところにある。

2017年度はアジアに注目したのに続き、2018年度は、ラテンアメリカのスペイン語圏やポルトガル語圏の現代文学に注目した。2019年度は多忙にかまけて、実施を忘れてしまう。2020年度は、コロナ禍のために我々は対面での議論の持つすばらしさを再認識し、対面授業の実施可能な期間に読書会を再開した。近代日本の境界を共通テーマに立てた。

2021年度は7回開催できた。時に、コロナ禍で身に着けた on-line 会議ツールを使う。参加者は6名であった。新たな参加者の出現を待っている。

伊藤理絵（保育学部教員）

江口佳子（外国語学部教員）

高橋南海（外国語学部グローバルコミュニケーション学科3年）

中野真優（外国語学部グローバルコミュニケーション学科卒業生）

福島みのり（外国語学部教員）

若松大祐（外国語学部教員）

共通テーマ：近代西洋の学知

テキスト：E.W. サイド（著）、今沢紀子（訳）『オリエンタリズム』〔平凡社ライブラリー 11-12〕東京：平凡社、1993年。

ISBN: 9784582760118; 9784582760125.

<https://www.heibonsha.co.jp/book/b160202.html>

<https://www.heibonsha.co.jp/book/b160203.html>

原書：Said, Edward W., *Orientalism*, New York: Georges Borchardt, 1978.

『オリエンタリズム』は約40年前にアメリカで上梓された。西洋の

知的空間の持つ東洋認識について、学術史的に説明したものである。著者のサイド (1935 年 -2003 年、パレスチナ人) は、西洋は古代より東洋を異質で劣ったものとみなしてきたと主張する。そうした西洋の学知は近代以前にはキリスト教に基づき、近代には学問に基づき構成され正当化されているという。サイドは主に東洋にイスラーム世界を、西洋に仏英米の学界を想定して議論を展開する。

本書は序説の他に、本編全 3 章 12 節からなる。さらに、書き下ろし論考 "Orientalism Reconsidered" (オリエンタリズム再考) も収録する。目次は下記の通り。

序説

第 1 章 オリエンタリズムの領域

- ・ 東洋人を知る
- ・ 心象地理とその諸表象ーオリエントのオリエント化
- ・ プロジェクト
- ・ 危機

第 2 章 オリエンタリズムの構成と再構成

- ・ 再設定された境界線・再定義された問題・世俗化された宗教
- ・ シルヴェストル・ド・サシとエルネスト・ルナンー合理主義的人類学と文献学実験室
- ・ オリエント存続とオリエントに関する学識ー語彙記述と想像力とが必要とするもの
- ・ 巡礼者と巡礼行ーイギリス人とフランス人

第 3 章 今日のオリエンタリズム

- ・ 潜在的オリエンタリズムと顕在的オリエンタリズム
- ・ 様式、専門知識、ヴィジョンーオリエンタリズムの世俗性
- ・ 現代英仏オリエンタリズムの最盛期
- ・ 最新の局面

オリエンタリズム再考

解説 (杉田英明)

II. 6. [後援] 現代世界文学の読書会

日時と範囲：

回	日時	場所	講読範囲	参加者
1	4月13日(火) 18:45-19:45	草薙校舎 A520 室	序説、第一章第一節 (pp.12-119)	6名：教員4名、学生 1名、卒業生1名
2	4月27日(火) 18:45-19:45	草薙校舎 A520 室	第一章第二、三、四 節 (pp.120-262)	6名：教員4名、学生 1名、卒業生1名
3	5月11日(火) 18:45-19:45	草薙校舎 A520 室	第二章第一、二節 (pp.263-341)	6名：教員4名、学生 1名、卒業生1名
4	5月25日(火) 20:30-21:30	zoom	第二章第三、四節 (pp.342-456)	6名：教員4名、学生 1名、卒業生1名
5	6月8日(火) 20:30-21:30	zoom	第三章第一、二節 (pp.9-129)	6名：教員4名、学生 1名、卒業生1名
6	6月22日(火) 20:30-21:30	googlemeet	第三章第三、四節 (pp.130-291)	6名：教員4名、学生 1名、卒業生1名
7	7月6日(火) 20:30-21:30	googlemeet	書き下ろし、解説 (pp.294-342-395)	6名：教員4名、学生 1名、卒業生1名

このたび邦訳『オリエンタリズム』を輪読し、私は読むだけで精一杯だった。数ページ単位で丸ごと理解できないということも多々あった。恐らくは議論を特定し、誤解を防ぐのが目的であろうとはいえ、サイドによる議論の展開は冗長すぎる。翻訳者は、原文をよく翻訳したものである。

私は自己と異なる異質な他者をどのように理解するのか。こういった疑問は、広く人文社会科学に関わる。『オリエンタリズム』を読むと、偏見を持たずに他者を研究することなど、そもそも不可能なように思えてしまう。

また、『オリエンタリズム』に触発され、近代日本の学知についても改めて気になった。日本の場合は、オリエントがオリエントに対してオリエンタリズムを持つので、議論はさらに複雑になる¹。

¹ 大いに参考になる書籍に、例えば山本武利、田中耕司、杉山伸也、末広昭、山室信一、岸本美緒、藤井省三、酒井哲哉（編集）『岩波講座「帝国」日本の学知』〔全8巻〕（東京：岩波書店、2006）が挙がろう。

Ⅲ 英米語学科

1. 教員採用試験合格者

一人では成し遂げられなかった「教採合格」

18121097 水野 彩紀

私は 2021 年 10 月、静岡県公立学校教員採用試験中学校（英語）に合格することができた。中学生の頃からだっただろうか、大学に入学したら、教職課程を履修することは当然のように私の中では決まっており、この 4 年間、全力で教職課程に取り組んできた。私にとって大きな意味をもつこの「教採合格」は、三つの大きな支えがあったからこそ、成し遂げることができたのである。

まず、私をこれまで支えてくれた人たちの存在である。試験勉強や教育実習の期間に、一番の支えとなったのは、応援してくれた家族や友人、一緒に勉強してくれた仲間たちの存在だった。特に試験当日のことは忘れられない。試験当日は大雨の予報であったため、電車が動かなくなる可能性を考え、前日から静岡市内のホテルに宿泊していた。しかし二日間の試験の初日の朝、大雨の影響で試験が 2 日目に延期・圧縮されるとの連絡を受けた。私は試験初日を静岡市で、1 人で過ごすことになった。もちろん勉強して過ごしていたのであつという間に時間は過ぎたが、さすがに夜になると、「明日は予定通り試験を受けられるだろうか」、「試験の合格基準はどう変化するのか」といった不安から、自分でも気づかないうちにストレスを抱えていたのであろう。友人が夕食に誘ってくれた時は、本当に心が軽くなったのを覚えている。またホテルに戻ってからも、電話をくれた友人、メッセージを送ってくれた仲間や家族にも、本当に感謝している。また、当日に限らず勉強の段階でも、多くの方に支えていただいた。私が教師という道を進むことができるのは、多くの人の支えがあったからである。教師になってからも、私の教員人生のベースに多くの人の支えがあること、感謝の気持ちを忘れずに一生懸命に取り組んでいきたい。

2 つ目は教育実習先の中学校である。教育実習先は私の母校であり、もう一人いた実習生は中学時代の同級生であった。また私には弟がいるが、弟の後輩や友人、町内で顔見知りの生徒や、弟がお世話になった先生方がいるなど、とてもあたたかい環境で迎えていただいた。そのような環境で、実習期間の 3 週間を通し

て、教員という仕事の責任の重さを肌で感じた。最初は教育実習生という立場で、何もわからない状態で、生徒たちとどう接して良いのかわからなかった。例えば、給食の準備や、帰りの支度をする時、生徒たちが行動するのを待つべきなのか、声をかけるべきなのかさえ分からなかった。指示しなければ時間に遅れてしまうが、声をかけたら生徒が自分で気づく機会を奪ってしまうことになる。授業中も、すべて指示を出すのではなく、生徒が自分たちでやり方を見つけ、学びが深まるような適切な指示を出すことはとても難しかった。それでも生徒たちとの関わりが何よりのやりがいで、放課後の教材研究や週末の授業準備も苦にならないような、充実した3週を過ごすことができた。教員になってからはこれ以上に忙しい毎日が始まるが、今からできる授業準備や知識の習得に励み、自信をもって4月を迎えて、充実した教員人生のスタートとしたいと思う。精神面、技術面で成長させてくれて、どんな時でもサポートしてくれた教育実習先には、心から感謝している。

最後は、教育実習先の校長先生からいただいた御言葉である。2次試験の前々日、実習先の中学校の校長先生からお電話をいただいた。お忙しい中、お時間を割いてくださり、試験前日に面接練習をしてくださるとのお電話だった。私は本当に心から応援してくださっているのだということに感謝しつつ、中学校に向かい、約3時間も面接対策をしていただいた。その中で何度もいただいたお言葉が、「自分の軸をもって」という御言葉だった。教員採用試験の面接では「どんな教師になりたいか」、「どんなクラスを作りたいか」など、教師になってからのビジョンを聞かれることも多い。質問に答える上で、自分の伝えたいことを、「自分の軸を明確にもって面接官に伝えるように」とのアドバイスをいただいた。この言葉は、面接対策をしていく中で身をもって感じたことでもあり、校長先生にご指導いただいた時のことは今でも強く印象に残っている。教員採用試験の前日に試験への気持ちを高め、自分の教育観を客観的に見つめ直すと同時に、背中を押してもらえた言葉だった。教員になってからも、どんな時でも「自分の軸」をもって、教師の仕事に励みたいと思う。

大学4年間を通して、長期留学の経験について2回、本年度は教員採用試験合格者として、『とこはことのは』に合計3回も執筆させていただけたことを嬉しく思う。英文で執筆した際はカナダのホストファミリーやケビン先生、幸田先生

Ⅲ. 1. 教員採用試験合格者

に、日本語では柴田先生にご指導いただいた。最後にもう一度、留学や教員採用試験合格に関して、支えてくださったすべての方々に感謝したい。

教員の夢を持つみなさんへ

18121117 山本 琴音

受験状況：静岡県 中学校 英語

結果：最終合格

教採までの流れ：

時期	学習内容・行動
2 月	テキストを購入し、学習を開始。特に教職教養を勉強した。
3 月	教採模試
4 月	勉強中
5 月	勉強を継続中 教採模試を繰り返し解きなおした。 面接シート&英作文の添削指導を受けた。面接練習を開始した。
6 月	教職教養：復習 面接：反復練習・集団面接の模擬練習 英語：過去問をたくさん解いた。
7 月	二次試験対策
8 月	基礎教育センターに通った。

【学習について】

使用したテキスト

- ① 教職教養：『教員採用試験対策〈セサミノート〉教職教養』（東京アカデミー）教採模試の問題、過去問題集
- ② 一般教養：『一般教養 30 日完成』（時事通信）、教採模試の問題、過去問題集

- ③ 専門科目：教採 Guide の過去問題、『静岡県・静岡市・浜松市の英語科参考書』（協同出版）
- ④ 面接：教採 Guide

指導していただいた先生、センター

面接シート：柴田先生、基礎教育センター
面接：基礎教育センター、教職支援センター
実技（英語）：基礎教育センター
二次試験：基礎教育センター

【役に立ったこと】

✿教職教養について✿

教採模試の問題・解説をテキストにすることが重要である。最新かつ、全国の教員採用試験が分析されている問題集であるため、効果的である。私は、模試の問題を5回解き直した。時事問題や改訂された学習指導要領からの出題に注目すると、本番でも非常に役に立つ。

✿一般教養について✿

テレビ番組「あなたは小学5年生より賢いの? (5年生クイズ)」、「東大王」などを視聴することは、科目や単元がレベル別で出題されているため、知識の補強をすることができる。また、息抜きとしてこのようなテレビ番組を見ると、予想外に問題の難易度が高く勉強になる。教職教養の問題や教員採用試験の過去問が番組の問題になっていたりすることもあって驚かされた。

✿面接・実技について✿

友達や先生方を頼ることは、様々な情報を得られることに繋がる。また、英会話の習慣は、とても大切である。私自身、毎週土日に友達と英語で1,2時間のビデオ通話をすることで、実技のために英語を訓練していたことは、大きな成長に繋がった。

Ⅲ. 1. 教員採用試験合格者

メッセージ

周りの学生が就職活動をし始める中で、教職の学生は不安になることが多いと思う。私自身、とても不安になった。しかし、英語を専門的に学習した大学時代を無駄にしたくないという思いと、試験に挑まない道を選択したらきっと後悔するだろうという考えから、私は教員になる決意を固めた。

試験前は友達と「チーム英米」で協力して合格を目指した。友達をライバルと捉えるよりも、一緒に戦う勇敢な「仲間」だと捉える方が、困難を乗り越えるための力になる。これから教員採用試験に挑戦しようと考えている人には、どんな結果であろうと、悔いのないように取り組んで頂きたい。

私は、繰り上げ合格で、採用の連絡を頂くまでは合格と不合格の狭間に立っていた。そんな私ではあるが、1次試験も2次試験も自信を持って受験したので何も後悔はなかった。きっと不合格であったとしても前向きだったと思う。これから、教員を目指す人は、ぜひ前向きに進んでいてもらいたい。支えてくれる家族や仲間、先生方を大切に想いながら努力すれば、教採に挑んだ経験は、人生の宝物になるはずである。ぜひ、頑張ってもらいたい。教員という夢を持つ人は、最高にかっこいいと思う。Just be confident!

自分と向き合えた時間

18121072 中野 真綾

【受験状況】 静岡県公立学校中学校英語 最終合格

【学習期間】 大学3年 10月～（本格的に始めたのは2月くらい）

【学習時間】 0時間から8時間程度

【学習場所】 学校、図書館、自宅

○教員を目指したきっかけ

私は、中学校・高校と英語がとても苦手だった。しかし、高校生の時に出会った英語の先生の「自分の信念に基づいた厳しくもユーモアのある指導」を受け、英語学習に前向きに取り組むことができるようになった。振り返ってみると、こ

のような先生に中学生の時に出会えていれば、英語の基礎をしっかりと固めることができ、英語学習に対して自信をもって前向きに取り組むことができたのではないかと考えている。将来、私もその先生のような指導を、中学校という英語の基礎を築く大切な時間に行いたいと考え、教員を目指した。

○試験内容

一次試験：7/4 筆記試験（実技試験・個人面接なし）

二次試験：8/18 個人面接（集団面接なし）

○学習について

【教職教養】

『教職教養ランナー（教員採用試験シリーズ）』、『教職教養 30 日完成（Pass Line 突破シリーズ）』、全国や静岡県ของ教員採用試験過去問題集等を中心に学習を進めた。学習開始当初は、計画を立てることも苦手で、何をどうすればよいのかわからなかった。そのため、まず、『教職教養ランナー（教員採用試験シリーズ）』と『教職教養 30 日完成（Pass Line 突破シリーズ）』を全単元 8 周以上解き続けて、「自分は勉強をしている!!」という自信をつけ、自己肯定感を上げることに努めた。ただ自治体によって出題されやすい単元というものがあり、焦点を絞って勉強を進めた方が効率が良い。出題されやすい問題を把握してから勉強し始めることをおすすめしたい。また、過去問題集は傾向をつかむために、また実力を試すために、静岡県のもの全国のもの両方を解いたことは効果があったと感じている。

【一般教養】

『教員採用試験対策 セサミノート』、『一般教養 30 日完成（Pass Line 突破シリーズ）』、『静岡県の過去問』を中心に学習を進めた。漢字を含む日本語や文化に関する内容は集中的に練習した。ただ、基本的には過去問題集を軽く解く程度で、私は他の勉強に時間を割いた。学習を終えて思うことは、もっと早い段階から、教採を意識して新聞を読んだり、ニュースを見たりしていればよかったということである。

Ⅲ. 1. 教員採用試験合格者

【専門科目】

静岡県の過去問題集、大学受験勉強で使用した英語の単語帳を使用し、学習を進めた。また、出題方法に慣れるために、受験する中学校を対象とした問題だけでなく、高等学校を対象とした問題の両方を解いた。さらには、本学の基礎教育センターでも、ご指導いただいた。友人とは、お互いに協力し、励まし合いながら学習を進めた。

【その他】

月刊誌『教員養成セミナー』を本学教職支援センターで借り、ノートにまとめるなどして学習を進めた。特に静岡県は参考書等に載っていない範囲から出題されることが多いため、それらの知識は月刊誌である『教員養成セミナー』を読んで補った。実際に同雑誌で、読んだばかりの内容が試験に出たり、その後の面接対策にもなったりしたので、強くお勧めしたい。私は、教職支援センターで借りて読んでいたが、定期購読をしている友人もいた。

○面接対策について（試験は2次のみ）

基礎教育センター、教職支援センター、新聞、『教員養成セミナー』、『教採ガイド』など、多面的な学習を進めた。

基礎教育支援センターと教職支援センターでは教職支援センターが毎年発行している『教採ガイド』をもとにして練習を行っていただいた。一人で練習していた時には気が付かなかった部分に対して指摘していただけるので何度か通うことで自信を持つことに繋がった。本番は『教採ガイド』を見て質問を選んでいるのではないかと疑うくらい、まさに「そのまま」出題されたので、過去に出題された質問のすべてに答えられるようにしておくことが大切である。

英語の面接は、基礎教育センターや外国語学習支援センターでご指導いただいた。友人とはビデオ通話で質問し合ったりした。個人練習は、独り言で質問に答えたりするなどして、一日のうちで英語を話さない時間がゼロの日を作らないように意識した。今回の試験では、天候の関係で大幅に試験内容が変更となり、面接は残念ながら中止となってしまったが、面接のためだけではなく英語のスピーキング力向上にもつながる良い習慣だったと自負している。

○最後に

今年の教員採用試験は、一次は筆記のみ、二次は個人面接のみという異例尽くしの年だった。来年以降もこれまで通り実施されるとは限らず、予測不能な出来事が起こる可能性も十分ある。そういう不測の事態が起きたときには慌てず、今までの頑張りを信じて自分のできる力を出すだけでと割り切ることが大切だと思う。また周りの友人が就職活動を終え、どんどん内定が決まっていく中で、教員志望者は教員採用試験に向け、ひたすら勉強をしていかなければならず、とても不安になることがあるかもしれない。そんな時は、決してずっと気を張っている必要はない。自分の中で鉛と鞭を上手に使い分け、友達と気分転換のために外へ出かけたり、趣味の時間を作ったりしながら自分の中の目標を達成させられるよう頑張ってほしい。

楽しく学ぶ工夫をすること

18121119 湯沢 陸人

受験区分：静岡県公立学校中学校（英語）

受験状況：一般合格

学習期間：3 年次 8 月～

学習時間：一日 10 分～4 時間

その他準備（面接等）：基礎教育センター（週 1 回）、藤枝教師塾

【3つのポイント】

- ・楽しむ工夫をすること！
- ・頼れるものは必ず頼る！
- ・ノルマを決めて毎日行う！

【学習の取り組み方】

教員採用試験の勉強をするにあたって、まずは楽しむことが大切であると考え

Ⅲ. 1. 教員採用試験合格者

ている。私は、これから教員を目指すものとして、学ぶことの楽しさを伝えていくことが教員の使命だと考えている。そのためには、まずは自らの学習を楽しんで行うことを目指し、様々な工夫をしていくことが後にも先にも大切になると考えた。苦しい時期もあったが、勉強仲間や先生方と楽しみながら学習出来たことが私の中では大きかったように思う。

【教職教養の学習】

教職教養は問題集を開いたときにあまりの量の多さに衝撃を受けた。それでも何か行動に移さなければと、最初に学習を開始したのは教育心理の分野であった。夏休みから始めたと言いたいところだが、実際には、よくある暗記シート付の問題を、毎日4ページをノートにまとめただけで、本格的に学習を始めたのは3年次の10月からであった。特に、YouTubeの「きょうさい対策ブログ」を中心に学習を進め、問題集をひたすら繰り返し、模試を受け、友人と問題を出し合い、楽しみながら学習を進めた。

【一般教養の学習】

一般教養も教職教養で感じた通り、その量の多さに衝撃を受けた。文学や歴史などは、高校で理数科に所属していたため日本史等を学んでおらず、学習開始時は、知識の乏しさを感じざるを得なかった。しかし、友人と問題を出し合って、面白い覚え方等の共有を繰り返すことで、より効率的に学ぶことが出来た。また毎日、前日に間違えたものをホワイトボードに書き、集中力が切れたときには、それを音読するという方法も効果があったと感じている。アニメ好きな人であれば、『文豪ストレイドッグス』、『働く細胞』、『Dr.STONE』（ドクターストーン）は、大いに勉強になるといえる。漫画やアニメを活用することも楽しみながら学習する方法である。いずれも、学習としてだけでなく、作品としても面白いので興味のある方にはぜひ読んでもらいたい。

【専門教養の学習】

基礎教育支援センターの眞木先生には大変お世話になった。心より感謝している。

基本的に、過去問を中心に学習を進めた。長文は英検準一級と似ているため、英検の学習も、非常に役に立った。私は、英語があまり得意ではないため、語彙力を強化しようと考えた。

具体的には、『ターゲット 1900』と『ユメタン』シリーズの 2 冊を全て暗記できるまで、学習を繰り返した。最初の一週間で分からない単語のすべてに付箋を貼り、毎日付箋のついている場所を確認するようにし、三回答えることができた。付箋を捨てるようにした。

また友人と共に、英字新聞を読んでその内容についてディスカッションを行った。それは、教員採用試験合格後も続けている。

英語を学ぶことの楽しさを伝えるのが教員の使命だと、私は思う。将来、生徒に英語を学ぶことの楽しさを伝えられるようにまずは自分らが楽しむことが大切である。

【面接対策】

面接は本学の基礎教育センターの眞木先生と藤枝教師塾でお世話になった。練習に際し、自分の面接練習の動画を撮影することは、自分を客観的に見ることができるためおすすめしたい。面接練習のポイントは、まずは「暗記しないこと」が大切である。暗記して言おうとすると、棒読みになってしまう恐れがあるからである。自然に、本当の気持ちを伝えることが大切である。次に重要なのは「スマイル」である。ポジティブな印象を与えるという点で、笑顔で受け答えが出来ることは非常に重要である。最後に、面接の解答の中で、一人の人間を作るイメージを持つことが重要である。面接の中での質問に対し、自分が目指している教師だったらどのように対応するかを考えることが大切であると私は思う。

【最後に】

私は教員採用試験の学習をするにあたって、先生方や友人など沢山の方に技術的な面や精神的な面でもお世話になった。教職教養や一般教養は暗記すべき量がとても多いので途方に暮れてしまったことも度々あった。しかし、最後まで熱心に英語や面接指導をしてくださった先生方や、いつも楽しく気持ちを高めあえた友人がいたからこそ最後まで諦めずにやり遂げることが出来たと思う。心より、

Ⅲ. 1. 教員採用試験合格者

感謝申し上げたい。

これから教職を目指す方にとっても、そうでない方にとっても人間関係は切っても切れないものだと思う。何か目標が出来たときや、困難にぶつかったときに周りの人に助けを求めることは必ず大きな成長につながると思う。

夢を叶えるために努力した 1 年間

18121068 永倉 純

<受験状況・結果> 静岡県 中学校 英語 最終合格

<学習期間> 3年の夏休みあたりから（3年の12月あたりから本格的に）

<学習時間> 平日：2時間

土日祝：3～7時間

<学習場所> 家、図書館、レストラン

<教職を目指したきっかけ>

私は中学生の頃から英語の先生になりたいと思っていました。その理由は中学時代に出会った恩師とフィリピン出身で小学校のALTとして働く母の二人の先生の影響を受けたからです。この二人の先生の共通点は、常に子どもたちの為に全力だったことです。その姿を見て、私も子どもたちの為に全力を尽くすことができる教育者になりたいと思いました。それに加えて、英語が好き、教えることが好きという思いから教職を目指しました。また、教育実習で、多くの生徒たちと関わったことや授業をさせて頂いたこと等、実際の教育現場で体験させて頂いたことで、より教員になりたいという思いが高まりました。

<試験日程と試験内容>

1次試験：7月3日は大雨により中止、7月4日は実施

試験内容：教職教養、一般教養、教科専門（英語）、適性検査

2次試験：8月18日

試験内容：個人面接のみ（日本語）

*試験の日程が変更になったり、実技試験が中止になったりなど、今年の教員採用試験は例年とは大きく異なりました。

<学習について>

● 一般教養、教職教養：『らくらくマスター』、『セサミノート』、

『静岡県・静岡市・浜松市の教職、一般教養過去問』

* 基本的な学習法は『らくらくマスター』で用語を勉強し、『セサミノート』や『静岡県・静岡市・浜松市の教職、一般教養過去問』などでテストをして、自分がどこを理解していて、どこを理解できていないかを明らかにしました。問題を解くノートと間違えたところを書き出すノートの2つのノートを使っていました。「単語を知る」→「テストする」→「間違えたところをノートに書き、理解できるまで向き合う」という流れを繰り返していました。また、『らくらくマスター』や『静岡県・静岡市・浜松市の教職、一般教養過去問』の冒頭に静岡県ではどのテーマが頻繁に出題されているのかが解説されています。それらを参考にし、最終的には全てのテーマを学習しました。出題傾向が高いテーマを特に優先的に勉強を進めました。

● 教科専門（英語）：『静岡県・静岡市・浜松市の英語科過去問』、

『英検準一級 出る順パス単』

教科専門に関して、私は苦手である長文読解に特に力を入れていました。主な学習は『静岡県・静岡市・浜松市の英語科過去問』の長文読解の問題を繰り返し解いていました。解いた後に解説を読み、それでもわからない場合は母に聞いていました。

<面接>

面接シートは教職支援センターの先生方やゼミの先生にできるだけ早めに添削してもらうことが大切だと思います。いくら自分が上手く書けたと思ったとしても、最初はどうしても志望動機の内容や日本語など直して頂ける点がたくさんあると思います。また、自分が書いた内容をいつでも言えるぐらいに練習しておくことも大切です。

<試験当日>

私はとても緊張をするタイプで、学校での小さなプレゼンテーションや目上の人と話すだけでも緊張してしまいます。試験当日は絶対に緊張することを予想していましたが、予想外に緊張することはありませんでした。振り返ると、おそらく、それは、学習期間で自分が取り組んできたことに自信があったからだと思い

Ⅲ. 1. 教員採用試験合格者

ました。また、試験会場に早めに着いておくことも重要だと思います。試験会場に、余裕をもって到着し、十分に時間を過ごすことで、「場慣れ」ができたのだと思います。その結果、落ち着いて試験に取り組むことができました。

＜来年度、受験される皆様へ＞

正直に言うと、私は他の人よりも学力に劣りがあると感じていました。しかし、教員採用試験合格は学力だけでなく、教員になることへの情熱がどれだけあるのかだと思いました。私の場合、中学時代には既に「絶対教員になる」という意思が固まっていました。その思いがあったからこそ、日々の学習で、「今、頑張れば、夢が叶う」、「もう少し頑張れる」と自分に言い聞かせ、合格することができたと思っています。学習期間中は、終わりが見えず、くじけそうになってしまうこともあると思います。そんな時こそ、「1年後に教員になり充実した毎日を過ごしている自分自身の姿」を想像してみてください。教員になることへの情熱が高ければ高いほど、その思いが自分に火をつけてくれると思います。他の人のことはあまり気にせず、自分のペースで進んでいって下さい。皆様の合格を心から応援しております。

夢に向かって突き進むこと

18121122 吉村 祐豊

【受験状況】静岡県 中学校（英語）→最終合格

【学習期間】大学4年4月中旬から

【学習時間】自分に合ったペースで

【学習場所】学校、自宅、カフェ

●教職を目指したきっかけ

教師は、生徒の成長に関わることのできる魅力的な職業であると思っている。これまでに出会った多くの先生方が私の夢への道筋を示してくださり、サポートしてくださった。私も、そんな先生方のように生徒の成長を支援し、彼らが抱く

夢や目標を実現できるよう全力でサポートしたいと考え、教師を目指した。

●一次試験対策について

(使用した参考書)

- ・教職教養 / 一般教養 30 日完成 (時事通信社)
- ・教職・一般教養 過去問 (協同出版)
- ・専門科目 英語 過去問 (協同出版)
- ・教職教養過去問 全国版 (時事通信社)
- ・教員養成セミナー (時事通信社)

(動画編: YouTube)

- ・教員養成大学 (教職教養の一問一答形式)

- ・きょうさい対策ブログ

(面接の答え方や教職教養のポイントを細かく教えてくれる)

→過去の出題傾向を含め、毎年新たな解説動画を投稿している

【勉強法の例】

- ① 30 日完成で一般・教職教養の基礎知識を蓄える
- ② 静岡県 of 過去問を解く (傾向を知る)
- ③ 全国 of 過去問を何度も解く (知識の応用)
- ④ 教養セミナーで足りない知識を補う (復習)
空いている時間に動画を見る

(面接関連) ①面接シート ②面接練習 ③英語実技試験 (※本年度実施なし)

- ・基礎教育センター 眞木先生
- ・教職支援センター 笛木先生 (数回だけ指導を受けました)
- ・柴田 里実先生 (面接シート指導)

●二次試験対策について

※本年度 集団討論は実施せず、個人面接 30 分のみ

- ・基礎教育センター 眞木先生
- ・教職支援センター 笛木先生
- ・友人との練習 (質問内容を予想しながら練習した)

(参考書選択理由)



Ⅲ. 1. 教員採用試験合格者

- ・『30 日完成』 →わかりやすく、最低限の知識を蓄えることができる。
- ・全国の過去問題集 →他県で出題された問題でも、静岡県で出題されることもある。
- ・静岡県の過去問題 →静岡県の出題傾向を知ることができる。
- ・『教員養成セミナー』 →押さえておきたいポイントを公開している。
(試験の直前期には、予想問題や最重要項目を発表している。)

※全国の過去問を解くことや、教員養成セミナーを読んでおくことをお勧めしたい。

(筆記試験・面接対策について)

- ・間違えた部分はまとめる等自分なりのノートを作成する。
- ・問題を覚えてしまうくらいの勢いで勉強する。
- ・『教採ガイド』に掲載されている質問を聞かれる場合が多い。
- ・面接ノートを作成する（教採ガイドに掲載されている質問の答えを箇条書きで書く。）
- ・自分にしか語れないストーリーを取り入れる。
- ・学習指導要領や静岡県教員育成指標等に記されていることをそのまま伝えない。
→自分の言葉でしっかりと伝えること。

(教員採用試験を受験する皆さんに伝えたいこと)

教員採用試験は、「どれだけ本気になって取り組めるか」が合格のカギを握っていると思う。誰が何と言おうと関係ないのである。自分に自信を持って、本気で、全力で、取り組んだ者だけが合格を手にすることができると思う。

●最後に

- ・試験の直前は、何があるかわからない。
- ・大雨の影響で予定されていたはずの試験が中止になることもある。
- ・諦めない気持ちが最後まで走り抜ける大きな力となるはずである。



- 教員を目指す全員が教員採用試験に合格することも可能なのだ。
- 仲間と支え合い、時には競いながらお互いを高めあうことが重要である。
- 質問等あれば、遠慮なく先輩方に聞くことをお勧めしたい。

→疑問が生まれるということは、知らないことや知りたいこと等、有益な情報を得るチャンスになる。

教員採用試験を受験する人には、悔いのないように頑張ってもらいたい。

2. (英米) 学内外での教職員や学生の取り組み

オリンピック休戦ムラール署名式～平和を祈念して～

21121007 池田 真理奈

1. はじめに

私はこの夏、オリンピック休戦ムラール署名式に参加し、英語で平和についてのスピーチを行った。私は高校時代にオリンピック組織委員会が主催した英語スピーチコンテストで最優秀賞を受賞したことにより、この機会をいただいた。パッハ会長、小池都知事、橋本会長、国連事務総長もが出席したこの式典で、世界に平和の尊さを伝えた。私にとっての東京 2020 オリンピックは、選手たちの激闘を楽しむとともに、平和について深く考える機会となった。

スピーチの原稿作成にあたり、新聞やインターネット等で情報を収集した。平和。調べれば、調べるほど、世界にはこの言葉の持つ意味とはほど遠い、とても深刻な現状があることを思い知らされた。今この瞬間にも、民族や宗教などの違い、資源の奪い合いなどによって起こる紛争で、多くの命が奪われている。自由と人権を求め、国外脱出を図っている人たちがいる。紛争がなく安全に暮らせるここ日本でも、差別に苦しみ、耐えている人達がいる。

この世界を平和にするために、私たちは、他者を理解し、リスペクトすることが必要であると私は考え、メッセージに込めた。相手の違いを理解し、尊重することで、他者との差異によって起こる争いや差別は消えていく。相手を尊重することによって、両者が抱える対立を、話し合いによって平等に解決することができるはずである。1964年の日本で初めて行われたオリンピックでは、国境を超え、肩を組み合って行進する閉会式が印象的だった。そして東京 2020 大会では、オリンピック前より、ホストタウンなどで、世界各国について理解し友情を深める取り組みがあった。また、試合後に、互いの選手を称えあう場面をたくさん見ることができた。選手たちが、互いに「より速く、より高く、より強く」なるために励まし合う。真の平和な光景がそこにあった。私たちは、違いを超え、他者を理解しリスペクトすることができる、そして、平和を作ることができる。このようなことを私たちに確信させてくれることこそがオリンピックの持つ真の価値で

あると思う。

今回のオリンピックが平和のためのものとなるか否かは、私たち次第だ。まずは自分ができることから始めることが大切だ。助けを必要とする人に声をかけ、自分の身の回りの社会が平和的になるにはどうするべきかを一人一人が考えることができるのなら、世界平和が実現する日はそう遠くはないだろう。

2. オリンピックでのスピーチを終えて、学んだこと

前述したように、高校2年生の時に東京2020高校生英語スピーチコンテストで最優秀賞を受賞した副賞でこのような身の余る貴重な体験ができた。オリンピックのスピーチが無事終わった日、私は周りの方々への感謝の気持ちでいっぱいになった。スピーチコンテストは中学2年生から高校2年生までの4年間出場し続けた。この4年間の努力が実ったという実感があった。しかし、4年の間には、思うような結果が出せず、何度も挫折を味わった。そして、スピーチを辞めようと思うこともあった。そんな中クラスメイトや先生の励ましやサポートがあった。そのお陰で、全国大会出場という自分の目標がぶれずに続けることができた。また、私と関わってくれたすべての人たちが、スピーチの根幹となる価値観や考えを確立させてくれた。これまでの経験を通して学んだこと、それは周りの人の大切さだ。出会うことのできた一人一人のお陰でこの貴重な経験ができたと思う。これからも私は大切な人たちへの感謝の気持ちを持って生きていきたい。

3. スピーチ本文（原文）

最後に、オリンピック休戦ムラール署名式において私が行ったスピーチの内容を日本語訳とともに紹介する。

オリンピック休戦ムラール署名式～平和を祈念して～

I am honored to have this opportunity to share my message of peace. The Olympic Truce resolution is about "Building a peaceful world through sport." This is still very important for us today. Many people – even young people my age – are suffering from war, and some become refugees.

Ⅲ. 2. (英米) 学内外での教職員や学生の取り組み

私は、「平和のメッセージ」を皆様と共有する機会を頂きましたことを光栄に思います。オリンピック休戦決議は、「スポーツを通じて平和な世界を構築すること」を目指しています。これは、今日においても、とても重要です。私と同世代の多くの若者たちも戦争に未だ苦しんでいます。そして、難民となってしまう人々もいます。

So, what can we do about these problems? I think we need more mutual understanding and respect. And I believe we can learn these things from Olympians.

それでは、こうした問題に対して私たちにできることは何でしょうか。今以上に相互理解を深め、相手をリスペクトする必要があると考えます。そして、これらのことをオリンピック選手から学ぶことができると信じています。

Recently, I watched video of the Tokyo 1964 closing ceremony. The announcer became emotional as he described the scene. Olympians marched together happily in friendship even though they had been rivals. They showed us that with mutual understanding and respect, we can overcome differences to become friends. I saw how wonderful peace and friendship can be.

私は、最近東京1964大会の閉会式のビデオを見ました。当時のアナウンサーは、ライバル同士であった選手たちが、友情と幸福に包まれた中で行進する姿を見て、感極まりながらその様子を伝えていました。相互に理解し、リスペクトすることによってあらゆる違いを乗り越え、友人になりうることを、彼らは私たちに教えてくれたのです。私は、友情と平和がどれほど素晴らしいかを知りました。

At the Olympic Games Tokyo 2020, we are already working for peace. Countries and regions around the world are now connected to local Japanese towns through the Host Town Initiative. Some have written letters to athletes; others have met athletes online. Strong friendships like these will continue to make a peaceful world.

時を経て東京 2020 大会。すでに私たちは平和へ向かって動いています。ホストタウンの取組を通して、今も世界の国や地域が日本各地とつながっています。選手へ手紙を送り、激励する地域もあれば、オンラインでの交流を行っている地域もあります。こうして築かれた深い友情は、平和に貢献し続けるでしょう。

In this way, let's imagine extending the spirit of the Olympic Truce. Let's allow people who are suffering to know peace. Instead of continuing the arms race, let's create more fields where children can enjoy sport.

想像してみましょう。このように「オリンピック休戦」の精神を広めることを。争いの中、苦しんでいる人々に平和を示しましょう。軍拡競争をやめ、子どもたちがスポーツを楽しむことができるような場所を作りましょう。

I will not give up my efforts for such a bright future, and I hope you won't either. I believe that the Tokyo 2020 Games will be a time for creating long lasting friendships and peace.

私は、決して諦めません。明るい未来への努力を。そして、皆さんもそうであってほしいと私は願います。この東京 2020 大会が、長く続く友情と平和を築く大会になることを心より祈っています。

IV グローバルコミュニケーション学科

1. 海外事情談話会 (GC 学科コロキウム)

海外事情談話会

グローバルコミュニケーション学科では有志の教員を中心にして、毎月、海外事情談話会の開催を目指している。いわばグローバルコミュニケーション学科のコロキウムである。そもそもは、学内共同研究「外国語学部グローバルコミュニケーション学科の教学内容の向上のための比較地域研究」(平成 27 (2015)-29 (2017) 年度) の一環として、2017 年度より始まった。目的は、学科教員が近年の出張内容を報告し、自身の関心を参加者と共有するところにある。2017 年度は 5 回、2018 年度は 3 回、2019 年度は 1 回、2020 年度は 2 回というふうに参加してきた。

2021 年度は谷誠司学科長のイニシアティブの下、3 回開催できた。来年度は、より多くの教員がより多く開催できるように尽力したい。(若松大祐)

第 1 回

日時: 2021 年 6 月 2 日 (水) 17 時 00 分から 18 時 00 分まで

会場: 静岡草薙キャンパス A305 室

講師: 福島みのり (グローバルコミュニケーション学科准教授)

題目: 若者世代のジェンダー意識～日韓の社会意識の比較を通して

要旨: 本報告は、世界的な大ヒットとなった『82 年生まれ、キム・ジョン』の受容のあり方について、日韓若者世代の観点から報告を行った。韓国の場合、1990 年代以降における軍加算点制度の廃止とともに、数々の女性活躍推進政策が推進される中で 20 代男性の被害者意識が顕在化されていた結果、『キム・ジョン』の大ヒットは男女葛藤をもたらした。一方、日本の場合、女性自らが男女差別に基づく女性の生き方を内面化し日常を歩んできた点で、『キム・ジョン』の大ヒットはジェンダー差別の発見へとつながり、メディアや SNS を通じて女性差別の問題が言説化されていた。日韓ともに『キム・ジョン』がヒットした背景として、ジェンダーギャップ指数が日本は 121 位、韓国は 108 位 (世界フォーラム 2020) と最下位に

位置づけられている共通点が見られる。だが、韓国では me too 運動が活発化する一方、日本で活発化しない背景として、政治から距離をおくべきだという風潮や社会運動の不在があるといえる。

第 2 回

日時：2021 年 7 月 7 日（水）17 時 30 分から 18 時 15 分まで

会場：静岡草薙キャンパス A305 室

講師：若松大祐（グローバルコミュニケーション学科准教授）

題目：同じ民主主義？：日台中の常識の比較

要旨： 本報告は、7/8（木）に開催する令和 3 年度静岡市生涯学習センター×常葉大学共催公開講座の予行演習である。内容は、現代の国際社会において最良の政体だと思われる民主主義を、東アジアの近代史の中で概括的に比較する試みである。報告後に参加者からアドバイスがあり、「こっちの常識、あっちの非常識」という副題を得た。

第 3 回

日時：2021 年 11 月 10 日（水）17 時 30 分から 18 時 15 分まで

会場：静岡草薙キャンパス A305 室

講師：若松大祐（グローバルコミュニケーション学科准教授）

題目：ロベルト・オエスト教授提供の現代中国関係史資料

要旨： 本報告は、報告者が 10/10（日）にロベルト・オエスト（Roberto H. E. OEST）氏から提供を受けた資料について、その存在を概略的に報告する試みである。オエスト氏は常葉学園大学教授であり、在職中と退職後に北京や洛陽で教鞭を執った。そのため、例えば愛新覚羅溥儀夫妻やかつての学生からの書簡や写真が残っている。こうした資料の持つ意義や価値を見出すためには、まずは資料の整理や保管を急がなければならない。

2. 多言語レシテーション大会

第8回多言語レシテーション大会

若松 大祐

多言語レシテーション（暗唱・朗誦）大会が、2021年12月18日（土）に本学静岡草薙キャンパス A 棟 2 階 A201 教室で開催されました。目的は、古今東西の詩歌を詠みあげて、その詩歌を生み出したその時その場所を、今ここ静岡に再現することにあります。大会で登場した詩歌はいずれも、それぞれの言語を持つ時間の長さや空間の広がりを私たちに伝えてきたことでしょう。

この大会は、常葉大学外国語学部グローバルコミュニケーション学科が主催するものです。そもそもは外国語学部創設 30 周年を記念して 2014 年に始まり、今年で第 8 回を迎えました。学部創設以来の伝統と定評ある英語やスペイン語の教育だけでなく、中国語、韓国語、ポルトガル語の教育をも加えた外国語学部でのグローバルな学びを、参加者が互いに励み共に楽しむことのできるイベントとして、毎年 12 月に実施されています。出場者は中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の課題文（詩歌や文学作品の一節）を暗唱・朗誦し、発音や表現力を競います。

今年の第 8 回大会は、新型コロナウイルス感染症への感染を避けるために、無観客の対面形式で実施しました。こうした開催形態の変更があったにもかかわらず、スペイン語、中国語、ポルトガル語、韓国語の四言語をあわせ、のべ 76 名（Level I が 56 名、Level II が 20 名）の出場があり、うち 7 名はグローバルコミュニケーション学科のカリキュラムである二言語学習を反映して、二言語のレシテーションに挑戦しています。さらに参加者の内訳を見ますと、外国語学部グローバルコミュニケーションの学生のみならず、英米語学科の学生（1 名）も参加しています。さらに、静岡県内の高校生（29 名）の参加もありました。昨年と同様に、「コロナ禍であっても外国語を学び続ける」という気持ちが、出場者と主催者に共有されていたのでしょう。

ちなみに、今年の第 7 回は出場者が暗唱動画を投稿するというオンライン形式で実施し、出場者がのべ 95 名（Level I が 65 名、Level II が 30 名）でした。また、

審査の対象にならないエキシビジョン出場が 2 名ありました。

常葉大学に集い外国語を学ぶ若者たちの熱演に対し、審査員が暗唱力、発音、表現力を審査します。会場では約 70 名の出場者、そして主催者が大きな拍手を送ります。また、グローバルコミュニケーション学科の在学生の多くが、インターネットを通じて暗誦の様子を見守りました。なお、1 月 12 日（水）には草薙キャンパス内で表彰式を開催し、上位入賞者に賞状と賞品を授与しました。

本誌には、ポルトガル語レベルⅡで 1 位に輝いた赤堀虹花さん、二言語入賞 1 位に輝いた小井麻央さんの感想をそれぞれ収録しました。来年度はさらに多くの投稿があるのをお待ちしております。

< 入賞者一覧 >

スペイン語レベルⅠ 課題：Misuzu KANEKO “CAPAS DE NIEVE”

- 1 位 オルタ ブライアン 静岡県立吉原高等学校 2 年
- 2 位 内山 佳修 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年
- 3 位 ガリエゴス 葵 静岡県立静岡城北高等学校 2 年

スペイン語レベルⅡ 課題：Violeta PARRA “GRACIAS A LA VIDA”

- 1 位 松下 香凜 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 4 年
- 2 位 藤波 啓佑 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 4 年
- 3 位 亀井 直樹 外国語学部英米語学科 4 年

中国語レベルⅠ 課題：鲁迅《故乡》结尾

- 1 位 山本 艶恵 静岡県立吉原高等学校 1 年
- 2 位 柏木 亜美 静岡県立静岡城北高等学校 2 年
- 2 位 小井 麻央 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

中国語レベルⅡ 課題：王维《送秘书晁监还日本国》

- 1 位 高橋 南海 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年
- 2 位 高仲 純怜 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年
- 3 位 斎藤 千愛 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年

IV. 2. 多言語レシテーション大会

ポルトガル語レベルⅠ 課題：Vinícius de Moraes “Soneto da Fidelidade”

- 1 位 遠藤 帆乃香 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年
- 2 位 浅沼 芳華 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年
- 3 位 芹沢 友華 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

ポルトガル語レベルⅡ 課題：Bráulio Bessa “Cordel”

- 1 位 赤堀 虹花 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年
- 2 位 奥田 琉華 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年
- 3 位 水口 奈々子 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年

韓国語レベルⅠ 課題：나태주 「외롭다고 생각할 때일수록」

- 1 位 細沢 千尋 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 2 年
- 2 位 大代 美空 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年
- 3 位 小井 麻央 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 1 年

韓国語レベルⅡ 課題：나태주 「듣국화・1」

- 1 位 伊川 亜祐菜 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 4 年
- 2 位 中村 真那 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 3 年
- 3 位 杉山 慎之佑 外国語学部グローバルコミュニケーション学科 4 年

二言語入賞者：二言語を学ぶというグローバルコミュニケーション学科のカリキュラムの特徴を踏まえ、二言語の暗唱にチャレンジした学生の中から、合計得点の高い順に入賞者を決定しました。

- 1 位 内山 佳修 スペイン語レベルⅠ+ 中国語Ⅰ
- 1 位 小井 麻央 中国語レベルⅠ+ 韓国語レベルⅠ
- 3 位 ガリエゴス 葵 スペイン語Ⅰ+ 中国語Ⅰ

審査員奨励賞：高校生を対象とした賞です。

- 1 位 1 言語（中） 杉山 実乃梨 静岡県立静岡城北高等学校 3 年

2 位 2 言語 (韓) 黒澤 優芽 静岡県立静岡城北高等学校 2 年

3 位 1 言語 (西、中) 鈴木 れいな 静岡県立吉原高等学校 2 年

< 審査員 >

スペイン語：岩崎 ラファエリーナ (常葉大学非常勤講師)、

増井 実子 (常葉大学教員)

中国語：盧 思 (画家・京劇俳優)、戸田 裕司 (常葉大学教員)

ポルトガル語：ホザンジェラ 岩瀬 マルチンス (常葉大学非常勤講師)、

江口 佳子 (常葉大学教員)

韓国語：福島 みのり (常葉大学教員)、崔 慶原 (常葉大学教員)

< 学生実行委員 >

[実行委員長] 斎藤すみれ

[実行委員] 安形ももの、内野圭悟、江塚光太郎、関晴香、村田圭花、森下莉紗

[ボランティア] (2 年) 黒沼マユミ、大長優人、谷崎遙

(1 年) 秋山ひより、佐藤多代、佐野綾香、清水理那、山田美紗希、

山根彩佳

(以上、本学外国語学部グローバルコミュニケーション学科生)

< 教職員 >

市川真矢 (審査、編集)、江口佳子、谷誠司 (統括)、崔慶原、戸田裕司、福島みのり (統括、学生補助)、増井実子 (高校)、三村友美 (会計)、若松大祐 (編集)

< 共催 >

フローリスト花便り まるそ花店 (曾根田成、GC 学科 2019 年卒)

< 公式サイト >

<https://sites.google.com/site/tokoharecitation>

常葉大学多言語レシテーション

パンフレット巻頭言より再録

世界が終わるわけではない

外国語学部長 戸田 裕司

2019年度に新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まって以来、私たちのくらしは先の見えないものになっている。経済的損失を被った方も数多くおいでであるし、実際に感染して苦しい時を過ごした方もおいでである。これは紛れもなく災禍である。

だが、この2年間弱を振り返って、「良かったこと」が少なくとも1つあったと思う。

それは、計画したことがその通りに実現することは無いし、それで世界が終わるわけでもない、ということが人々に徹底されたことである。

私たちは物事が思い通りにならない事に大きなストレスを感じる。私たちのこのような気質は、社会や組織を成り立たせるためには非常に有効である。美点であると言ってもよい。しかし、この気質は私たちを非常に窮屈にもさせ、時としてかなり追い詰められた気持ちにさえさせる。

昔「約束は守れる間だけ守ればよい」というアラビアの箴言を読んだ。

まだ若くて純粋であった私は、これを読んで極めて不誠実なことばだと感じた。しかし、2019年度末以来、私たちはみんな色々なところで約束を破っている。仕方がないのである。そして、心ならずも約束を破ってしまったとしても、実は世の中はそれなりに回っていくことにも気づいた。

改めてアラビアの箴言を見ると、約束は守れる間は守るべきだが、守れない状況になったら無理をする必要はない、という今の私たちを支えてくれる言葉だと思われてきた。

ここに課題文として提示された各国の詩文は、いずれもあなたの心の拠りどころとなり得るものである。皆さんがより美しく伝えてくれることを期待している。……が、上手く行かなかったからと言って世界が終わるわけではない。

想像の翼を広げてオンラインの向こう側へ

グローバルコミュニケーション学科長 谷 誠司

本年度も無事に、「第8回多言語レシテーション大会」を開催することができ、本当に嬉しく思っております。コロナ禍の中で参加を決めてくれた出場者、引率者の高校の先生方、聴衆としての参加者や運営スタッフの皆様には心から御礼申し上げます。

昨年度は動画投稿形式での実施でしたが、今年度は感染状況が昨年度より良いこともあり、対面開催（ただし、観客は zoom によるオンライン参加）としました。それはたとえ、観客は zoom によるオンライン参加であったとしても、できるだけ場を共有したいと考えたためです。

「オンライン」と聞くと「対面」ができない時の代替案と思われがちですが、私自身のオンラインでの講義を体験してみて、改めてオンラインならではの良さを実感しました。皆さんも相手の顔が見えないからこそ安心できる、本音を話せる、自分らしく振舞えると感じたことはありませんか？そして何より、見えないからこそ「自由に想像すること」ができます。オンラインの向こう側にいるのは、家族、友人、先生、恋人…もちろん BTS でも構いません。どうぞ心を込めて発表してください。

出場者の皆様、そして聴衆の皆様にとって実りの多い時間になることを切に願っております。

入賞者より

ポルトガル語レベルⅡ 1位

諦めないことで得られる結果

19122001 赤堀 虹花

多言語レシテーション大会に出場するのは今年で3回目だ。今までは1度も、思うような結果を残すことができずにいた。そして今回、やっとの思いでポルト

IV. 2. 多言語レシテーション大会

ガル語レベル II の部門で 1 位を獲得することができた。本稿では、3 回の大会を振り返り、得たことを記そう。

1 年生の時は、先生の勧められるままに出場した。出場が決まってからは毎週、先生や FLSSC の TA に発音の指導を求め、それなりに頑張った。当時の発表順はポルトガル語レベル I から始まったため、緊張する間も短く暗唱を終えることができた。しかし、レベル II の先輩たちの暗唱を聞いて動揺した。どうしてそんなに頑張るのだろう。本気の度合いが違いすぎる。大会を軽視していた自分に気づいた。ミスなく一通りきれいに暗唱できた時に得た安心感と満足感が、一気に焦りになる。追い打ちをかけるように 2 位という惜しい結果を突き付けられ、自分のパフォーマンスの物足りなさを痛感した。この時には既に何が足りないのか分かっていた。表現力だ。「暗唱大会」と称しているのだから、暗記した上での成果を求められるのは当然だろう。来年、絶対リベンジすると自分に誓った。

2 年生の時は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大会の開催方式が動画投稿による審査になる。週 1 回のペースで先生から指導を受け、自分なりに表現力をつけた。完璧な動画を撮ろうと思い、2 時間以上を録音に費やしたけれども、入賞することさえできなかった。はじめはとても悔しくて、結果を残せなかった自分に自信がなくなっていた。しかし、入賞者の動画を見ると、いつの間にか闘争心が燃えてくる。そして、ポルトガル語にもっと触れる環境を作りたいと思い、3 週間のオンライン・プログラムに参加した。毎週 5 日間、毎日 4 時間、ネイティブ講師によるポルトガル語の授業を受けた¹。また、ポルトガル語の YouTube を見たり²、父親の仕事での関係者（フィリピン出身であり、その配偶者がブラジル出身）とポルトガル語で会話をしたりして、自分のポルトガル語に自信をつけていった。何となく始めたレシテーション大会参加は、気づけば自分の中の一イベントになっていった。

3 年生の現在、今回のレシテーション大会を申し込んだ。本番の 1 か月前から週 1、2 回の頻度で、2 人の先生から指導を受ける。どちらの先生との練習でも、

¹ 常葉大学の提携するリスボン大学ポルトガル言語文化センターで、ポルトガル語オンライン・プログラムを 2021 年 2 月 15 日から 3 月 5 日に受講した。

² 主な YouTube チャンネルは、「Disney Brasil」(<https://m.youtube.com/user/BRdisneychannel>) と「OlaGUTI」(https://m.youtube.com/channel/UCG2Zgy_atWmyl39L_KWiq9w) である。

もう発音に対してほとんど指摘を受けなかった。正確に暗記した上で、詩歌の内容に沿って詠み方を工夫し、さらにジェスチャーをつける。このように順調に練習を重ねた。家では、暗唱している自分を録画して見直す。登下校中、入浴中、就寝前にも繰り返し練習する。大学の授業では、多くの人々が集まる場所で発表(暗誦)するという機会を得、緊張に打ち克つため練習も行う。

そして、大会本番は会場を見る余裕があるほど、落ち着いて発表できた。正直なところ、100%のパフォーマンスを披露できなかったものの、結果は1位。最高のハッピーエンドを迎える。同じクラスで学ぶ人々からも、「授業で聞いた時より、良かったよ」という声があり、うれしく思った。

さて、多言語レシテーション大会を通し、2つことを学んだ。1つは、努力を継続する大切さである。2年生の時はこれ以上の努力はできないと思い、心が折れかけた。しかし、悔しいという気持ちをバネにして多方面からポルトガル語に触れ、自信をつけた。諦めずに努力できたことが、今回の1位獲得へ道を開いたのだろう。

もう1つは、緊張に打ち克つことの大変さである。実のところ、今回の大会ではいつもなら間違えない個所で噛んでしまった。緊張して活舌が悪くなっていたせいだ。しかし、動揺せずにその後も引き続き暗唱できた。緊張している時はついパニックに陥りやすい。その時に重要なのは、冷静に間違いを認めて心を切り替えることである。

今回学んだことは、多言語レシテーション大会以外でも活かせる。何事に対しても、緊張に打ち克つほどの努力を継続していきたい。

二言語入賞1位

(中国語レベルⅠ 3位+韓国語レベルⅠ 3位)

何かを得る一步

21122024 小井 麻央

今回、二言語部門に挑戦し、入賞することができました。まず、このような結果を得られるまで、直接的、間接的に私に良い影響を与え、力になってくださっ

たすべての方々に感謝を申し上げます。

当初、私は二言語部門での出場に迷っていました。発音が難しく、要領よくできるかわからない不安から、今はまだやめておくべきではないかと考えたからです。非常に優柔不断な私は、大会へ関する情報を得るために、『とこはことのは』に投稿された先輩方の文章を読むことにします。やはり、出場すると得られることもあるし、思いがけないこともある。何より外国語学習に拍車がかかるだろう。私は挑戦することを決めます。しかし、必ず入賞するのだという気持ちを強く持ったわけではありません。ただ、いつもなら取り組まないことに対して、一步踏み出して自分も何かを得たいという気持ちの方があったのです。

やはり、大会に出場すると得られることがありました。練習では、モデル音声に忠実に覚えるようにし、先生に発音を指導いただきました。自分の発音の問題点に指摘を受けて、足りない部分を知り、向上するために必要なことを認識できたのです。そして、より良く表現するためには、詩の意味を理解することが必須でした。その際、「なぜ外国語を学ぼうと思ったのか」と改めて考え、原点に戻って自分の外国語学習へのモチベーションを維持できるようになります。本番では、出場者たちの素晴らしい表現に感銘しました。特に、先輩の暗唱には経験や熱意といった面で自分との差を感じ、私は引き続き外国語学習を進めたいと強く思いました。

また、大会に出場すると思いがけないこともありました。自分が大会に出場する人間となり、大会を開催するために準備する人々の姿に多く触れます。機会を作ってくださる方々がいなければ、そもそも出場者は大会に出場できません。私は大会の準備のように他者へ機会を提供することにも新たに興味を持ちました。

大学では、自ら学ぶという姿勢が重要です。このたび、現在の自分が取り組めるギリギリまで挑戦することで、人生における財産を得ました。あなたが出場に少しでも興味を持っているなら、ぜひ挑戦してみましょう。

3. 社会人基礎力養成

PBL (Problem-Based Learning) で学ぶ「多文化共生」

崔 慶原

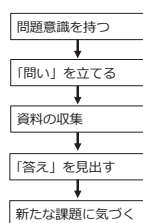
今年度の協働研究セミナー I A は、今の日本社会が直面している「多文化共生社会をどう作るか」という課題に取り組む形式で実施した。担当教員 5 名（谷口茂謙、増井実子、谷誠司、若松大佑、崔慶原）は、会合を重ねながら、学生の「課題解決力」が高まる授業となるよう、中身を組み替えていった。その試みについて簡単に紹介させて頂く。

社会的課題に取り組むー「多文化共生社会をどう作るか」

「多文化共生社会をどう作るか」という課題を設定したのは、外国人とどのように付き合い、どのように共生社会を築いていくかが喫緊の課題であると考えたからである。令和 2 年の国勢調査によれば、静岡県人口に占める外国人人口の割合は 2.5% であり、全国的に見ても高い水準とされている。このような中、グローバルコミュニケーション学科では 4 言語を学ぶことができ、将来日本語教師になることを目指す学生も多い。また、毎年多くの学生が、地域の草の根国際交流を支えるイベント「はあとふる Yaizu」の実行委員として活動している。「多文化共生」という社会的課題に取り組むことは、学科の学びに直結するだけでなく、学生がグローバル視点に立って地域に貢献する人材として成長する上で欠かせないと考えた。

PBL の導入ー「問い」を立てる

全過程において PBL (Problem-Based Learning) という学習法を導入した。PBL とは、学習者が自ら課題を設定しそれを解決していく過程で、知識や体験を得ながら学んでいくという「課題基盤型学習」である。課題解決そのものよりも、解決にたどり着くまでの過程をより重視する学習法である。



IV. 3. 社会人基礎力養成

このPBLで肝要となるのが、「問い」を立てる作業である。学生が「多文化共生」というテーマに対して自分なりの問題意識を持ち、自ら問題・課題を発見していくことが、学びの出発点になるからだ。受講者は自ら設定した「問い」をもとに、授業での議論や自己学習を通して情報収集し、それらを取捨選択しながら、「答え」を見出していく。

過去の協働研究セミナーでは、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な社会人基礎力の育成に力を入れてきた。チームで働く協働力を重視してきたのである。そこに「問い」を立てる作業を加えることで、「問題解決力」も高まる授業となるよう試みた。

2段階の学習

(1)第1段階－「多文化共生」の理解

受講者は、まず事前課題として『データでよみとく 外国人“依存”ニッポン』（NHK取材班、2019）のレビューを行った。日本社会における移民問題の全体像を素早く把握し、これから取り組む課題の社会的背景を理解することを目指した。

その上で、授業①は、教員から提示された記事（「移民の夢、育めますか」『朝日新聞』2019年4月16日）を読んで、知らない用語や概念をチェックして、自分で調べる作業からスタートした。記事は、ペルーで生まれ、1996年に兄弟とともに来日し、現在は大学教員として働くオチャンテ・村井・ロサさんのインタビューであるが、多文化共生社会の実現には、どのような課題・論点があるのかを考える材料にした。メンバーから出た意見を幾つかのキーワードでカテゴライズし、学習目標を立てた。

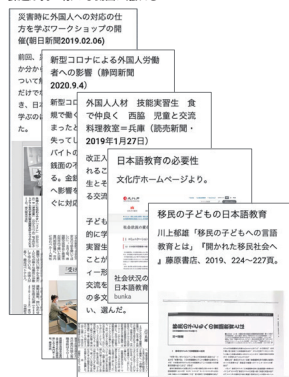
授業後の自己学習では、大学図書館の新聞検索機能を利用しながら、授業で立てた学習目標が、社会でどのように取り上げられているのかを調査した。また、設定した学習目標の「答え」を担当教員が提示した文献から探し、「答え」が得られたものと、得られなかったものとに分けて整理を行った。

こうした自己学習の内容をもとに、次の授業②では、グループでの協働作業を進めた。まず、調べて来た新聞記事の内容と文献閲読を通して学習目標が解決できたかどうかを共有した。その上で、それぞれの問題意識をもとに、複数の「問

い」を立てた。そして、どのような結論を見出したいのかを踏まえながら、一つの「問い」に絞りこむ作業を行った。以下は、外国人の教育格差を無くするために必要なことは何かを考えたグループの活動をまとめたものである。

調査した文献、新聞記事の共有

課題が持つ様々な側面に触れる



複数の「問い」から、一つの「問い」を選ぶ

絞った「問い」の「答え」を見出していく



次の授業③では、「問い」に対する「答え」をメンバーで共有し、必要に応じて「問い」の修正を行いながら、プレゼンテーション準備を進めた。授業④でのプレゼンテーションでは、各グループが立てた「問い」に対し「答え」が得られているのか、論点や根拠提示は正しいか、という点に特に留意しながら、クラス全体で質疑応答を行った。

(2)第2段階：地域の多文化政策の理解

第2段階では、第1段階で得た知識をもって、焼津市の多文化共生担当者が提示する課題に取り組んだ。学んだ「問い」の立て方や協働を応用するためである。本来であれば焼津市に出向いてフィールドワークを行うべきであるが、新型コロナウイルスの影響により、担当者の清水愛子さんが来校して下さった。清水さんは焼津市が実際に企画している事業の中から、「外国人住民への効果的な情報提供の仕方」、「日本人と外国人の交流機会の提供」、「日本語教室の運営」の三つの課題を提示して下さった。これら三つの課題に対して、受講者たちからは主に以下のような質問が出た。いずれも焼津市が取り組んでいる事業の現状や課題をつかもうとする質問となっている。

- Q. 外国人住民間では、他地域の情報の共有が行われているようだが、焼津市の方では他の団体と情報の共有ができているのか？
- Q. 他の団体とはコミュニケーションを取って連携するというよりは、一方通行な情報収集をしているのか？
- Q. 日本語教室を増やすことを考えているとあったが、実際に地域の外国人住民からそういった依頼や相談があったのか、どのくらいのニーズがあるのか？
- Q. 日本人向けの日本語教室や多文化共生の意識講座の情報はどのように発信しているか、またどのような媒体で発信しているのか？
- Q. 日本語教室をボランティアに頼らないで、日本語教師資格を持っている若者を採用したほうがよいと思うが、市の計画は進んでいるのか？

この授業⑩でのやり取りをもとに、各グループは多文化共生を実践するためのプランを立て、4週間後の授業⑭では、それぞれのプランを焼津市の担当者の前でプレゼンテーションを行い、フィードバックをもらった。そして、最後の授業⑮では、フィードバックを念頭に、それぞれのグループのプランを企画書として仕上げた。

学生の実際の感想・活動

事前課題から企画書の作成まで、受講者たちは熱心に取り組んでくれた。ここでは受講者の感想や活動から印象に残った2点について述べたい。第1に、「問い」を立てることの重要性に気づいたという感想である。「問い」があることで、問題意識を固め、収集した資料を取舍選択することが可能だったという。「問い」を立て、それに修正を加えながら課題を解決していくことは、何かを学んでいく上で原動力になることを改めて学ぶことができた。

第2に、課題解決に挑む受講者たちの積極的な姿勢である。受講者の多くは焼津市の多文化共生担当者に熱心に質問し、自分たちのプランをより完成度の高いものにしようとしていた。質疑応答は授業後の昼休みまで続き、講演者を驚かせるほどであった。企画した担当教員らにとっても、アクティブに学ぼうとする学生たちの姿が大変嬉しかった。

今後も、協働研究セミナーでは社会的課題に取り組んでいきたいと考えている。受講者の学ぶ意欲を刺激し、積極性を引き出せるような授業設計にさらに力を注ぎたいと思っている。

社会人基礎力を身に付けて成長した学生たち

谷口 茂謙

現在のグローバルコミュニケーション学科が始まって以来、社会人基礎力の養成が教育の1つの柱となっている。その中心となる科目が協働研究セミナーである。1・2年次は必修で、全員に他学部や他大学の学生より高い社会人基礎力をつけさせることを目指す。この力をさらに伸ばして就職活動でアピールできる「武器」としたい学生のために、3年次には選択科目としても設けている。協働研究セミナーでは、チームで課題に取り組む訓練をする。他者の考えを尊重しながら自分の考えもしっかり伝える。そして、チームとして最善の結果を出すために妥協点を探る。その過程で、相互理解を深めるためのコミュニケーション能力が大きく向上する。それが、就職活動でも高く評価されている。

2021年は、GC学科の教育が実を結んだ証しとなる成果を得ることができた。1・2年次で養った力を試そうと、3年生の女子学生2名が、学外のプレゼンテーション大会に応募した。佐野恭香さんと杉山明日香さんである。2人が協働した結果、静岡県内の他大学から応募したチームに競り勝ち、見事に優勝を収めた。

その大会は、静岡県産業振興財団が主催する「第6回学生知財活用ビジネスアイデアプレゼン大会」である。静岡県内企業の知的財産（特許技術）を、大学生のアイデアで活かした新しい商品を考案し、プレゼンテーションをする。静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、そして本学から13チームがエントリーし、11チームがプレゼンテーションを行った。課題となる特許技術は、①保護性、断熱性、防湿性にすぐれた次世代梱包技術「air-BOX」、②紙製で軽量かつ高強度で防音性と換気性に優れた「ハニカムパネル」、③電力を使わない乾燥技術「からっとスルー」、④伸縮自在で形状の自由度が高い「ストレッチャブルLEDディスプレイ」の4つであった。①は1つ、②は4つ、③と④はそれぞれ3つのチームが選択した。佐野さんと杉山さんは②「ハニカムパネル」を選んだ。実はプレゼンテーションを断念した2チームも②を選んでいて、アイデアを出しやすいように見える反面、それだけ競争がより激しくなる技術でもあった。

彼女たちから、今回のプレゼン大会に参加するので、アドバイザーを引き受け

IV. 3. 社会人基礎力養成

てほしいとの依頼があったのは、7月上旬であった。光栄なオファーであり、前向きに検討すると伝えながらも、二人の決意がどの程度のものか不明であった。大会での勝敗はどうでもよかった。問題は、途中で「やはり私たちにはできません」といって投げ出される恐れであった。もしそうなると、彼女たちばかりではなく、GC 学科としての社会的信用にも関わる。拙くとも投げ出さず、最後までやり抜く覚悟があることを確かめるメールを送った。

彼女たちからの返事は「二人の考えをまとめるために、しばらく時間を下さい」というものであった。このメールを見た時点で、彼女たちが私を納得させるだけの返事を考えようとしていることが十分に感じられた。わずか3時間ほど後に返事が届いた。添付ファイルを見るようにとの依頼があり、開いてみると、2000字以上に渡って返事が述べられていた。自分たちの決意をわかってもらいたいという気持ちが、はっきり伝わってきた。もちろん、その日のうちに、喜んで協力させてもらうとのメールを返した。

7月中は、アイデアの検討について、何度もメールのやりとりをした。彼女たちが立派であったことは、考える主体は自分たちであり、あくまでも私にアドバイザーとしての助言を求めてきたことである。協働研究セミナーの授業をはじめ、私の授業では「これはどうしたらよいかわからないので教えて下さい」という趣旨の質問はするなと指導している。自分で考えることをせず、教えてもらうことだけを望んでいるからである。「これはこうしたらよいと思うのですが、それではよろしいでしょうか」というように、自分の考えを述べた上で助言を求めるよう教えている。私に限らず、GC 学科の先生方も異口同音の指導をなさっている。二人のメールには、必ず自分たちの考えたことがまず報告されており、何か助言をしてほしいという趣旨の依頼が加えてあった。私たちの指導の趣旨を理解して実践してくれている学生がいるとわかって喜ぶとともに、最後までしっかり支援する気持ちを強くした。

前期末試験が終わり、夏季休暇に入ると、二人からは何の連絡も来なくなった。結局、9月の初めになってやっと連絡があった。「ハニカムパネル」の技術を選択して、現時点でのアイデアの方向性について主催者に確認をしているとの報告であった。残念ながら、コロナ禍のため、9月中はオンライン授業となり、彼女たちに会う機会がなかった。10月初旬に再開された対面授業の後、やっと二人

から直接に進捗状況を聞くことができた。本番の発表まで、あと1ヶ月半を残すのみであった。何も進んでいないのではと心配していたが、彼女たちなりに着々と準備を進めていたことがわかって安心した。私はあくまでもアドバイザーであり、「すべてをを考えて進めるのは自分たちである」という意識で取り組んでいることを改めて態度で示してもらい、とても頼もしく感じた。

10月下旬になって、プレゼンテーションの草稿が送られてきた。聞き手の心により訴えるようにするためには助言の余地があったものの、企画会社の社員が新商品を考案し、それを実際に商品化することを訴える内容であり、大変にしっかりした中身のプレゼンテーションになっていた。できる限り具体的に助言を書き加えた草稿を返送するとともに、大教室でのリハーサルを提案した。11月初旬に大教室でリハーサルを行い、私自身もそこで初めてプレゼンテーションの全体像を見た。原稿は、私の助言の多くを取り入れて修正されており、聞き手の心を動かすことができるものになっていた。驚いたのは、プレゼンテーションの途中に、動画の説明があることと、ミニチュアの模型まで用意されていることであった。動画では模型によって、どのように技術が機能するかがわかりやすく提示されていた。わかりやすい動画の作成も、協働研究セミナーで学んだ事柄である。スライド資料と同様にスクリーンに大きく映し出される動画は、商品の機能が目で見てわかるように作られたもので、聞き手の理解を深めさせるには極めて効果的であった。残された問題は、わかりやすい速さで語った場合に、制限時間の8分に収まらないことであった。後日、最終的に完成した原稿とスライドが送られてきた。本番を想定してスライドを操作しながら原稿を読んだ。8分丁度に近い時間で発表になっており、二人が確かに完成させたことを実感した。

迎えたプレゼンテーションの当日は、主催者からリハーサルの30分前に会場入りするよう指示されていた。それに従えば、彼女たちは午前10時10分が集合時間であった。ところが、彼女たちは「少しでも練習したいので」という理由で、受付開始の9時30分に一番乗りで会場に入った。主催者から指示された観客席に荷物を置くと、まだスタッフの方々が奔走するステージに立たせてもらい、本番で自分たちが見る観客席を見せてもらっていた。予め指定された順番のリハーサルでは、ほぼ制限時間で終わられることを確認できた。私自身は、もうこれで本番に臨むだけと思っていた。これ以上に助言することもなかった。それでも、

二人は「もう少し練習してきます」といって、ステージの裏手に向かった。一方ならぬ情熱の注ぎ方であることに驚愕するばかりであった。

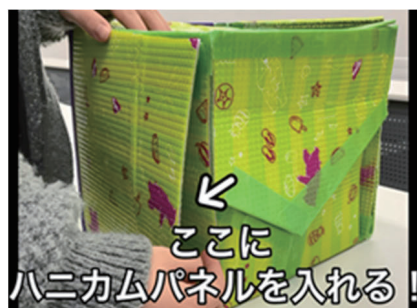
彼女たちがリハーサルを終えた時点でもまだ私は、できれば入賞させてやりたいという願いを持っているだけであった。プレゼンテーションは素晴らしいものに仕上がったが、商品化するには明らかな問題があったからである。彼女たちがステージ裏で練習する間、私は観客席で他のチームのリハーサルを見ていた。少なくとも9チームは見たはずである。その段階で、最悪でも入賞はできると確信できた。その理由として、まず、学生ではなく、社会人としてプレゼンテーションをするという設定をしたチームは、彼女たち以外になかったことである。他大学は、学生としての研究発表という形をとるものばかりであった。そのためだとも思われるが、スーツではなく普段着で出場したチームも複数あった。私が心の余裕を持つことができた最大の理由は、提案されたアイデアがいずれも、商品化されそうになかったことである。つまり、佐野さんと杉山さんは、プレゼンテーションそのもので勝負でき、それなら勝機は十分にあると確信できた。

本番が終了し、審査員の協議が終わるまでの休憩では、二人とも「やれることはすべてやった」という心地よい疲労感に包まれながらリラックスしている様子であった。表彰の準備でステージ上に並べられたトロフィーを見ながら「一番小さいのでいいから欲しいよね」と二人が言い合うのを聞いて、「もうちょっと大きいのがもらえるとと思うよ」という言葉が出なかったが、ぬか喜びをさせないように思いとどまった。

審査が終わり表彰式を迎え、まず、同点で4位の2チームの名前が呼ばれた。3位のチームが発表された時点で、「ここまでは呼ばれなくてよかった」と私は思った。2位の発表前には、「ここで呼んでほしい」と願っていた。実は、すべての発表を聞いて、1つだけ商品化されそうなアイデアがあった。彼女たちが負けるとしたらこのチームしかなかった。ところが、そのチームが2位として呼ばれたのである。その瞬間、私は「勝ったかも」と思い、隣に座っていた杉山さんの肩を危うく叩きそうになったが、これもなんとか思いとどまった。1位の発表を待つ間、私は「これまで呼ばれていない他のチームに彼女たちが負けたはずはない」という九分九厘の強い思いはありつつ、「下駄を履くまでは…」という一厘の懸念を払拭できなかった。だが、結果は幸い、私が信じた通り、彼女たちの

優勝であった。彼女たちも、期待した以上の結果を得て、歓喜に包まれていた。

二人の優勝は、GC 学科で社会人基礎力を身につけた成長の証しである。すべては、協働研究セミナーをはじめ学科の授業に真摯に取り組み、結果として社会人基礎力を身につけた彼女たちの勝利である。学内にとどまらず、社会に出て自分の力を試そうとしたことは、前に踏み出す力である。課題の技術を具体的な商品の形にして提案したことは、考え抜く力である。信頼し合える間柄とはいえ、与えられた条件の中で結果を出すには、しっかりコミュニケーションをして、お互いの妥協点を見出す努力が必要であったに違いない。それはまさにチームで働く力である。GC 学科で身につけた力を社会で試すことに挑戦し、他大学の学生にも優る成果を手にした。GC 学科の教育の成果を、佐野さんと杉山さんが証明してくれたのである。彼女たちに心から感謝している。



佐野さんと杉山さんが考案したハニカムテントの模型
(実際の発表で使われたスライド資料より)

4. キャリア開発

企業と学生の接点を設ける工夫についての一考察

谷口 茂謙

1. はじめに

2021年2月に、グローバルコミュニケーション学科2年次の専門科目「現代の産業」の課外特別講義を開催した。静岡県内の優良企業から10社を招いてGC学科の学生のために特別講義をしてもらった。2年生の課外授業という形ではあるが、3年生にも参加を促した。3年生が企業と接する機会を設け、就職活動をより有利に進められるよう支援することを狙いとした。この小論では、実施した成果を報告して問題点を明らかにする。また、その対応策を考えることを通して、企業と学生の接点を設けることの意義について考察する。

2. 課外特別講義の概要

まず、なぜ課外特別講義を企画したのか、その動機について報告する。GC学科2年次の専門科目である現代の産業では、前期と後期にそれぞれ3社ずつ企業を招聘して特別講義を開催している。2020年度は、コロナ禍で業績の大幅なダウンを余儀なくされたために、新卒学生の採用を抑える企業が増えることが予想された。それだけ、学生たちの就職活動が厳しくなることが十分に見込まれたのである。2020年度前期は、オンライン授業のために企業の特別講義を開くことができなかった。後期はなんとか3社を招くことができた。それらの企業からは、学生と接して自社の魅力をアピールする機会も減ったので、そのような機会があればありがたいという趣旨の要望も聞いていた。企業が参加してくれる見込みがあったことと、例年に比べて厳しい状況の下で就職活動をする3年生を支援するために、企業と接する機会を設けたいと考えたことが、企画の動機である。

一番の目的は、3年生の就職活動をより有利に進めさせることである。本学のキャリアサポートセンター(CSC)に相談したところ、就職協定の関係で、3月に入るまでは「企業説明会」という形で開催することは避けるべきとの助言があった。そのため、現代の産業の課外特別講義という形式で、各社に90分の講義を

依頼した。内容は、その企業が属する業界の現状と将来の展望について、その企業を代表例として説明してもらうこととした。

開催の時期は、後期末試験の終了後から、学内で開催する合同企業説明会よりも前の時期が適切と考えられた。具体的には1月末から2月中で、本学の諸行事の日程と重ならない日時である。また、あくまでも授業の課外特別講義であるため、依頼、交渉、日程調整、準備はすべて担当教員が1人で行う。CSCに支援は依頼できない。日程が限られることと、担当教員が負担出来る業務量とを勘案して、10社を目処に招聘することとした。

3. 実施結果の報告

2020年12月下旬に、12社にメールで講義依頼状を送った。そのうち、10社から承諾を得た。コロナ禍のため、4社はオンライン講義となった。各社の講義日程と学生の参加状況は表1のとおりである。3年生と企業の接点を設けることが一番の目的であったが、実際には2年生の参加の方が多く、3年生はいずれも若干名であった。3年生の参加が少なかった原因はいくつか考えられる。多くの企業がインターシップを実施していること、CSCの講座と日時が重なる講義があったこと、教員が選んだ企業と3年生が興味を持つ企業が一致していなかったことなどである。実際には本格的にと言ってよいほど、3年生はすでにかんりの就職活動を行っており、3年生の興味を引くことができなかったことは否めない。

表1 2020年度「現代の産業」課外特別講義 日程

2021年2月	参加企業	参加者数		2021年2月	参加企業	参加者数	
3(水) 午前	A 食品商社	3年2名	2年6名	10(水) 午前	なし		
	午後	なし			午後	G 警備社	3年1名 2年4名
4(木) 午前	なし			16(水) 午前	なし		
	午後	B 鋼材社	3年3名 2年2名		午後	H ホテル	3年1名 2年7名
8(月) 午前	C ホテル	3年1名	2年12名	17(木) 午前	なし		
	午後	D 公務団体	3年0名 2年5名		午後	なし	
9(火) 午前	E 物流社	3年5名	2年9名	18(木) 午前	I スーパー	3年1名	2年3名
	午後	F 広告社	3年4名 2年8名		午後	J 海運社	3年4名 2年3名
午前：2限 (10:45 am ~ 12:15 pm)				午後：3限 (13:15 pm ~ 14:45 pm)			

IV. 4. キャリア開発

その一方で、A 食品商社、B 鋼材社、C ホテルには、参加した 3 年生から内定を勝ち取る者が出た。内定の実績としてはわずか 3 名だが、このような形で企業と学生との接点を設けたことに、意義があった証しと考えられる。視点を変えると、2 年生が積極的に参加した事実は大きな収穫であった。まだ就職活動が始まっておらず、単位や成績に影響しない課外の講義にもかかわらず、これほどの人数が参加してくれている。当初の企画の趣旨は 3 年生の支援であったが、就職活動を本格的に始める前の 2 年生と企業が接する機会を設けられたと見ることができる。2 年生に需要があることも、今後は考慮する必要がある。

4. 開催についての問題点とその対応

実際に開催した結果、大きな問題点が 2 つ現れた。第一に、授業科目の課外特別講義という形式で開催をせざるを得ない制約である。CSC の支援を頼ることができず、担当教員が 1 人で準備の実務をすべて行う。そのため、招く企業に限られる。また、CSC が同時期に開催する就職準備講座と重ならない日程に限られることもあり、招聘する企業数は 10 社を目処に継続せざるを得ない。より大きな問題は、10 社では、学生と接する機会を求める採用意欲の強い企業と、学生に人気がある企業とが必ずしも一致しないことである。新卒の採用に苦しむ企業からは、こうした機会を強く求められることさえあるので、是非とも招きたい。しかし、そのような企業は、学生に人気がないという見方も当てはまる。

実は、参加してくれた企業から感謝をいただくことはあっても、学生が少ないことに対する苦情はなかった。参加した 3 年生は、少数ながらその企業を志望する熱意が明確であった。また、自社に興味を持つ有望な 2 年生が、他の企業に接する前に自社の魅力をアピールすることができたからである。担当教員が 1 人で業務を担当する限界を考えると、招聘する企業数を増やすことは難しい。だが、少数でも強く興味を持つ学生と企業を結ぶという点を重視するべきであることが明らかとなった。学生にとっても企業にとっても貴重な機会となるように、数よりも質の高い機会とする必要がある。

第二の問題点は 3 年生の就職活動の実状である。詳しい実数は不明だが、3 年次の 2 月の段階で、すでに内定を取得している学生がかなり多く存在するのである。CSC からの情報によると、就職協定があり、表立って内定を出すことはし

ないものの、多くの企業が、水面下で内定を出しているとのことである。しかも、それは通年採用が一般化した近年に著しくなった傾向ではない。以前からこの動きは見られたらしい。そのような現実がある理由は、企業と3年生の双方ともに、「保険をかける」という意識が働くからである。若年層の人口が減少している現代の日本では、有名企業といえども、優秀な若い人材を確保することは、昔のように簡単ではなくなっている。知名度が低いとか規模が小さいといった見かけ上の欠点を抱える企業はなおさらのことである。そのため、どの企業も優秀な新卒の人材を確保するために、水面下でより早く内定を出すようになっている。

もう1つ興味深い情報をCSCから得た。それは、3年生も企業もこの時期の内定を「保険」と割り切っているとのことである。3年生は、1つ内定を取得していれば、いくつもの企業を受験する必要がなくなる。その後の活動で、安心して、志望する企業だけに絞って準備できる。つまり、この時期に内定を得た企業に決めて、就職活動を終える学生は少ない。むしろ、より強く志望する企業を絞り込んで、十分に対策を練って活動する。企業の側も、内定の辞退は織り込み済みなのである。通年採用が珍しくなくなった昨今では特に、企業は年間の採用人数を、時期によって分けている。すでに出した内定は、その時期の枠内で出している。後の時期には、それなりの人数の採用枠が別に存在するのである。

このような実状があり、3年生は志望する企業を絞り込んでいる。そのため、狙っている企業でなければ課外特別講義にまで参加しない。参加学生を増やそうとする対応は方向性を誤っている。3年生は就職活動を継続し、企業も採用活動を継続するのである。多くの学生が志望する企業を招くことと、見かけ上の欠点を抱えるために魅力をアピールしないと学生に興味を持ってもらえない企業、すなわち、採用意欲が旺盛な企業を、バランス良く選定することが、やはり効果的な対応策となるはずである。

5. 終わりに

1月末から2月にかけて、現代の産業の課外特別講義を開催している。その目的は、GC学科の学生が企業と接する機会を設けることである。これには、諸事情で課外授業の一環として行わざるをえないという制約と、この時期にすでに内定を取得している3年生が多く存在するために、3年生の参加が少ないという問

IV. 4. キャリア開発

題点がある。そのいずれにも、共通する対応策がある。それは、学生が志望する企業と採用意欲が旺盛な企業を、担当教員がバランスよく選定して招聘することである。3年生がすでに内定を持っていても、企業との接点を設けることが決して無駄にはならない。これはCSCからの情報でも確認できた。この時期に課外特別講義として企業を招くことには十分に意義がある。その意義をより大きくするには、参加学生を増やす必要はない。志望する熱意のある学生だけが参加する場、企業にとっても学生にとっても貴重な接点とする必要がある。担当教員の采配が重要な鍵となる。



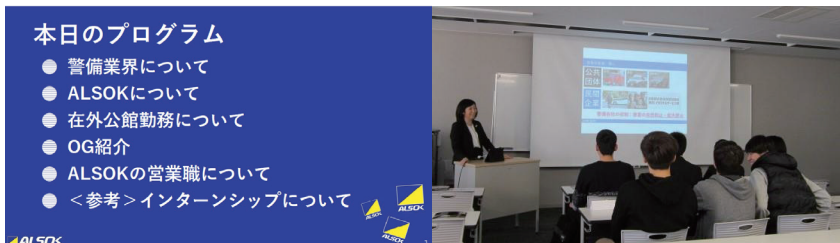
はじめに

本日のテーマ

**警備サービス業界の現状と
将来の展望**

人に優しい街は、
勇気ある人に守られている。

TOKYO 2020
ALSOK
TOKYO 2020



本日のプログラム

- 警備業界について
- ALSOKについて
- 在外公館勤務について
- OG紹介
- ALSOKの営業職について
- <参考> インターンシップについて

ALSOK

※資料および写真は 2019 年度のもの

5. 臨地実習

「臨地実習」は、学外で実施されるプログラムへ主体的・積極的に参与することを通じて、到達点と課題を自ら明確にし、グローバルコミュニケーション学科での学びを統合的に運用する科目である。実習先と活動内容によって、「臨地実習 A」「同 B」「同 C」の 3 科目が用意されている。2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、実習先が国外である「B」「C」は実施できなかったが、実習先が静岡県内である「A」は焼津市市民協働課・環境課の協力を得て実施することができた。以下にその活動記録を記す。

(増井実子)

「焼津市に転入してきた外国籍住民を対象とした ゴミ分別方法説明動画(英語版・日本語版)」の作成

今年度の「臨地実習 A」は「地域の多文化共生推進」をテーマに、焼津市市民協働課・環境課と協働しながら「焼津市に転入してきた外国籍住民を対象としたゴミ捨て方法説明動画」を作成した。完成した動画は焼津市役所において公開される予定である。

●作成日程

8 月(火) 焼津市市民協働課・環境課とオンライン打ち合わせ (zoom)。焼津市の外国籍住民のゴミ捨て問題の現状を学ぶ。

9 月 焼津市のニーズ確認、絵コンテ作成、市民協働課への絵コンテプレゼンテーション (zoom)。

10 月 2 グループに分かれて動画作成。

11 月 市民協働課・環境課への動画プレゼンテーション (焼津市役所)。

12 月～1 月 動画の修正、英語版の作成、海外・学外活動報告会での報告。

●担当学生

グループ 1：大石健太郎、田中 一成、松丸奈央、内野圭悟

グループ 2：赤堀虹花、鈴木悠人、高橋南海、片山イザベラ、木田裕也

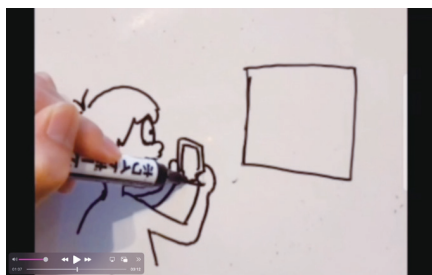
IV. 5. 臨地実習



焼津市役所での動画プレゼンテーション(11月)



海外学外活動報告会でのプレゼンテーション(1月)



グループ1の動画(ホワイトボードアニメーション)



グループ2の動画(ナレーション付き)

担当：増井実子

6. (GC) 学内外での教職員や学生の取り組み

木宮泰彦の墓所

若松 大祐

昨年の晩秋に来客を、木宮泰彦の墓所へ案内した。木宮泰彦は臨済寺に眠る。残念なことに、学校法人常葉大学の諸学校の関係者でも墓の所在地を正確に知る人が少ない。そこで自身の備忘録を兼ねて、墓所について記録することにした。

自身の備忘録と書いたのは、実のところ私は 2018 年 5 月 19 日（土）に訪ねたのに、所在地を忘れてしまったからである。臨済寺は戦国大名の今川家の菩提寺であり、境内は一般人も自由に参観できる。しかし、僧堂などの建造物や庭園は、普段は公開していない。ただし、今川義元の命日の 5 月 19 日と、摩利支天祈禱会を行う 10 月 15 日との 2 回だけ特別公開の機会がある。そこで私は天野忍氏の案内の下、臨済寺を参観し、ついでに木宮泰彦の墓所を訪ねたのである。天野忍氏は日本史学者であり、静岡県立中央図書館長、常葉大学教授などを歴任し、『大龍山臨済寺の歴史』（臨済寺史研究会編、臨済寺、2000 年）の編著者の一人である。最近掛川市の事任八幡宮の翻刻や整理を行っていると聞く。

常葉大学が 2021（令和 3）年度に公開講座を開催するにあたり、学外から講師として石曉軍氏（姫路獨協大学教授）を招聘した。石曉軍氏は、木宮泰彦『日華文化交流史』とゆかりのある人物である。『日華文化交流史』の中国語訳の訳者胡錫年の高弟に当たり、日中関係史の研究を志した際、最初に手に取った研究書が胡錫年訳『日中文化交流史』だったという¹。石氏は静岡へ来るのが初めてであり、このたびの機会に木宮泰彦の墓を訪ねようと考えた。そこで、若松が案内することになったのである。ところが、若松は墓の所在地を忘れてしまったので、木宮暎子氏（常葉大学教育学部附属橘小学校教頭、木宮泰彦令孫）に尋ねた。墓所は下記の通り。

¹ 詳細については、常葉大学共同研究報告書の若松大祐編『おもしろい木宮泰彦初稿』（2021 年 3 月）の pp.168-178 を参照されたい。→ <http://doi.org/10.18894/00002224>

IV. 6. (GC) 学内外での教職員や学生の取り組み

〒 420-0885 静岡県静岡市葵区大岩町 7-1 臨済寺

<https://goo.gl/maps/X5hey9xiYuQG2iBA8>

34°59'31.1"N 138°22'29.5"E

木宮暁子氏の解説を借りれば、まず臨済寺正面玄関を左折すると、駐車場がある。一番左側の手すりある通路（階段）をずっと上がっていく。頂上から3、4段下がったあたりに水道がある。そこを右に曲がり、3番目が木宮家の墓である。ちなみに左横に海野家の墓があり、ここは木宮泰彦の次女の田鶴の嫁ぎ先である。

11月25日（木）には「中国語会話 IB」の受講者（14名）とともに、石暁軍氏を木宮泰彦の墓所へ案内した。静岡駅で石暁軍氏を迎え、大学のマイクロバスで臨済寺へ向かった。現在の常葉大学には、創立者木宮泰彦について解説する機会がほとんどない。そのため、学生のみならず、教職員も創立者について知らないことだらけである。かく言う私も同じであり、例えば木宮泰彦の雅号である「之山」の謂れも知らない。こういった背景があるから、自身の学校の創立者の墓にまでわざわざ訪ねてくる研究者がいるということに、学生はさぞ驚いたようだった。石暁軍氏は学生に向けて、「日中関係史研究の大家である木宮泰彦の創った学校で学ぶものとして、皆さんには中国語を始めとする学業を修めてほしい」と語った。



2021 (令和 3) 年度 常葉大学 公開講座

人生 100 年時代 - 教養を深める

M 歴史家・木宮泰彦はおもしろい? (草薙キャンパス)

学校法人常葉大学の創立者木宮泰彦の著作を通じて、日中関係や日本文化を歴史的に振り返り、そしてささやかながら将来を展望します。

M1 11 月 18 日 (木) 18:30-20:00

教育者の顔と研究者の顔 (外国語学部・准教授 若松大祐)

「静岡女子高等学院設立趣旨」(1946)の原本を読み、創立者資料の概要と現状を解説します。また、『日華文化交流史』(1955)を概説します。

M2 11 月 25 日 (木) 18:30-20:00

二つの中国語訳 (姫路獨協大学国際言語文化学類・教授 石 眺軍)

『日華文化交流史』には中国語訳が2種類あります。そこで、中国において『日華文化交流史』の果たした影響を概説します。

M3 12 月 02 日 (木) 18:30-20:00

日本における印刷文化 (短期大学部日本語日本文学科・助教 中野直樹)

『日本古印刷文化史』(1932)を概説します。中国との交流に着目して、日本における印刷文化の歩みを眺めます。

◇定員…各 30 名 ◇受講料…無料 ◇対象…どなたでも

◇会場…草薙キャンパス ◇常葉大学地域貢献センター主催

課題解決に挑むー第6回学生知財活用 ビジネスアイデアプレゼン大会に参加してー

19122042 佐野 恭香

19122047 杉山 明日香

私たちは、公益財団法人静岡県産業振興財団が主催した第6回学生知財活用ビジネスアイデアプレゼン大会に参加し、最優秀賞を獲得した。同大会は、県内企業等が発明した7つの「特許技術」を基に、学生たちが1つの特許技術を選択し、製品アイデアやビジネスプランを考案し、8分間のプレゼンテーションで競い合うものである。



今年は、県内の4大学、11チームが参加した。中間発表から本番での発表までの約半年間、私たちはコーチの方と谷口茂謙先生から助言をいただきながら、準備に励んだ。私たちは、自分たちなりのプレゼンテーションを行うことの意義とどんなことにも積極的に挑戦することの大切さなど、多くのことを学んだ。その中でも、特に課題解決力の成長を実感することができたのが最大の収穫である。

この大会への参加のきっかけは、3年間履修している「協働研究セミナー」で身につけた知識・能力を試したいと考えたからある。「協働研究セミナー」ではプレゼンテーションを通じて、タスクの成果を報告する授業であるため、私たちとプレゼンテーションは切っても切り離せないものになっていた。他に履修している授業でも、私たちは40分間、皆の前であるテーマについて発表するという経験をしていたため、プレゼンテーションをすること自体が好きになっていた。このようなことから、「他大学の学生と比べて、私たちはこの3年間でどの程度のプレゼンテーション能力を身につけることができたのか」と疑問に思い、この大会に出場することに決めた。

私たちは、「ハニカムパネル」という防音性や通気性を備えた軽量のパネルをテントのポケット部分に入れた災害用テントを企画した。同パネルは段ボールよ

りも優れた性能を持っていた。中間発表の際には、「被災者のプライベート空間を守ることができる」という点を、1 番のポイントとして発表した。この発表に対して審査員の方から、「商品の具体性が欠けていること」や「アイディアのきっかけの説明が長いこと」という 2 点を指摘された。

このことから、私たちは、中間発表で指摘された点を改善することができれば、良い結果を残せるのではないかと思った。中間発表から本番の発表まで、1 ヶ月程度しかなかったため、学校の空きコマを利用するだけでは時間が足りず、ZOOM を活用して積極的に 2 人で話し合い、アイディアをさらに深めていった。

ここで、私たちが心がけて行ったことは 2 つある。1 つ目は、疑問を思ったらすぐにコーチの方に問い合わせ、アイディアをまとめて再度確認をすることである。2 つ目は、私たちらしいプレゼンテーションを行うことである。この 2 点を意識して、準備に取り組んだ。まず、中間発表で指摘されたアイディアのきっかけ部分の修正を行った。徹底的に災害を取り巻く環境を調べた結果、「災害関連死」というものがあることを知った。あまり、テレビや新聞でも報道されていないため、知らない人も多いであろう。これは、エコノミークラス症候群のようなものであり、阪神淡路大震災から 2018 年までで約 4900 名がこれにより亡くなっていたのだ。私たちはその原因を「プライベート空間の確保」ができなかったこと、そして「被災者同士のコミュニケーションが十分に行える空間の確保」ができなかったからだと突き止めた。私たちが提案する商品によって、こうした社会的課題を改善できるという点を強調しようという考えに至った。この点を詳しく説明すれば、発表により説得力が生まれると考えた。この点を詳しく説明することにした。そして、商品の具体性の面では、コーチの方にお力添えをしていただきながら、ハニカムパネルをについてどのようにテントに組み込むかを考えた。また、類似商品を調べ、私たちの商品の魅力を伝える発表にした。

何よりも、受賞につながった 1 番の要因は「私たちらしいプレゼンテーションを行うことができたからだ」と私たちは考えている。私たちらしいプレゼンテーションをするために意識したことは、2 つある。1 つ目は、実際に私たちが企業になりきり、新商品のお披露目会を行うという設定で審査員や聴衆の方に向かってプレゼンテーションを行ったことである。実際に私たち以外のチームは「～大学、チーム〇〇です。よろしくお願いします。」という始まりであったが、私た

IV. 6. (GC) 学内外での教職員や学生の取り組み

ちは「株式会社 Flower Road」というものになりきって発表をした。2つ目は、商品説明を動画で行ったため、後ろに座っている方にも私たちの商品の魅力が伝わるようにしたことである。実際に他のチームは模型をステージで見せていたが、ステージから遠いと良く見えなかった。しかし、私たちは動画内で模型を使って説明していたため、比較的わかりやすかったのではないかと考える。また、私たちの商品は災害用テントであり、日常的にも軽い運動スペースとして利用できることを発表内で伝えたため、審査員の方からもお褒めの言葉を頂くことができた。

このようなことを意識して取り組んだ結果、最優秀賞を頂くことができた。私たちは、この経験から、自分達の課題解決力が成長したことを実感した。また、プレゼンテーションに対する自信がついた。「協働研究セミナー」で身につけた力を試すことができただけでなく、積極的に物事に挑戦し、取り組むことの大切さを学ぶことができた。取り組むうえで、辛いことがないとは言いきれない。しかし、達成した時に感じるやりがいはそれ以上のものを与えてくれる。これからどんなことにも積極的にチャレンジする姿勢で課題解決力を高めていきたい。



韓国語会話サークル도코하 de 한사동의活動紹介

19122087 武藤 真実

韓国語会話サークル『도코하 de 한사동 (トコハデハンサドン)』は、昨年12月に活動を開始した。サークル名の『도코하 de 한사동』とは、한국어를 사랑하는 동아리 (韓国語を愛するサークル) から頭文字である한・사・동を取り、常葉で韓国語を愛するサークルという意味が込められている。このサークルは「授業以外でも韓国語で話す場所が欲しい」、「もっと会話の練習がしたい」といった要望を基に設立した。そのため会話活動に重点を置き、なるべく日本語を使わないことを目標に、スピーキング力の向上を目指している。また学生同士教え合う

ことで生まれる新たな学びや、刺激による更なる成長も目的としている。所属メンバーは1年生から4年生の計10名である。韓国語の実力は多少個人差があるものの、サークル名通り韓国語を愛して止まない人が集まっている。活動内容はある程度話すことができる人はフリートーク、初心者の方は勉強会と分かれている。月に3回程度、木曜日5限の時間に行っている。

1回目の活動では、「韓国語の勉強を始めたきっかけ」、「好きな俳優やアイドル」、「お勧めの韓国ドラマ」などを題材にし、フリートークを行った。メンバーのほとんどがK-POP好きやドラマ好きなため、ものすごく話が盛り上がった。好きなことや関心がある話題には、韓国語でも積極的に話すことができると分かった。

2回目は「冬に聞きたい韓国語の曲」を題材にし、フリートークを行った。「なぜその曲を選んだのか」、「歌の魅力や意味」などを質問し合った。韓国語で説明することが難しい時は、すぐに日本語にするのではなく、自分たちがわかる韓国語を使うように心がけて話した。

サークル活動が開始したばかりで、手探り状態ではあるが、これからも楽しみながら韓国語で会話する機会を増やしていきたい。この掲載を読んで気になった方や興味をもった方は、気軽にお声掛けください。待っています。



説明会後 (2020年11月24日)

V 各言語圏での活動

1. スペイン語圏（長期、短期、語学研修、その他）

大航海時代における奴隷貿易

19122058 田村 梨華

1. はじめに

16 世紀、セビーリャはリスボンと並びヨーロッパ最大の奴隷貿易都市となった。奴隷貿易とは、国家間で奴隷を目的物として取引する貿易のことである。セビーリャはポルトガル商人によってアフリカ西海岸からリスボンへ集められた黒人奴隷を受け取り、インドiasへと運んだ。私はこの事実を知って奴隷貿易のルーツというものに興味を持った。何故大航海時代に入ると貿易において奴隷が欠かせない存在とまでなったのか疑問に思ったからである。貿易以前の各地域の情勢、奴隷貿易が開始されるようになった経緯、そしてどのように発展していったのかを今回入手できた文献をもとにまとめていく。

2. 奴隷貿易開始以前のイベリア半島とアフリカ

まず、奴隷貿易が開始される以前のイベリア半島の情勢は、他のヨーロッパ諸国よりも奴隷制度において優位に立っていたことが考えられる。イベリア半島特有の活動、それはレコンキスタである。約 800 年もの間、イベリア半島ではキリスト教徒による「国土回復」運動が行われたが、その多くの戦闘が奴隷獲得を主な目的として行われた。レコンキスタの進展に伴いキリスト教支配地域に多くのムスリム奴隷が存在するようになった。このような歴史があるからこそ、イベリア半島では身近に奴隷が存在し、生活に根付いていたことが伺える。

一方、アフリカでの情勢はどのようなものであったか。奴隷貿易開始以前のアフリカでは、人々の間で争いが絶えなかった。今回はその経緯までは調べきれなかったが、おそらく食料や土地の奪い合いで起こったものであると考えられる。例として、日本では弥生時代から沢山の集落が生まれ、多く食物の採れる土地を所有する集落とあまり食物の採れない集落に分かれ、最終的に食料をめぐる争ったとされている。これを踏まえて考えると、アフリカのそれぞれの地域でも同じような理由により絶えず争いが起きていたと考えられる。争いの結果、敗戦

した人々は勝った人々に奴隷として仕えていた。これが分かるのは、布留川(1988)の「1444年にポルトガルのアンタン・ゴンザルヴェズを船長とする船がアフリカ北部に上陸し、当地に住むアゼネゲ族という民族12名を捕らえた」という記述である¹。その12名のうち3名はアゼネゲ社会において身分が高く、自分たちを当地に連れ戻してくれるならば、それと引き換えに黒人奴隷数名を引き渡すことが出来るという旨を伝えたというのだ。実際、ゴンザルヴェズたちは現地で黒人奴隷を獲得し、しかも少量の金も手に入れた。これにより、アフリカでは奴隷は存在し、日常的に使役されていたことを確認できたのである。また、金も手に入れたので、経済目的のために貿易に乗り出そうという動きが強まったことが読み取れる。

3. 黒人奴隷貿易の制度化と影響

ではイベリア半島で確立していた奴隷制であるが、なぜ貿易をしてまで奴隷を獲得する必要があったのか。もう奴隷が身近にいたのなら、わざわざ奴隷を獲得するために大西洋を渡らなくても良いのではないか。しかし、貿易まで至る経緯を調べると、ヨーロッパの人々の持つ思惑が、当時世界規模で人々を脅かした出来事に繋がってくることが分かった。

ヨーロッパの人々は富と豊かな暮らしを求めて海を渡った。これは、17世紀初頭にイギリスが新大陸における英領植民地を開始した頃の出来事から伺える。森田(2008)は「そもそも新大陸における英領植民地の開始は、華やいだ生活を楽しむ英仏の宮廷関係者を核とする西欧上層階級に向けたタバコ貿易のヴァージニアでの成功に端を発していた。重商主義を国家政策として推進しようと模索していたイギリス人に、西インド植民を動機づけたといえる」と指摘している²。つまり上層階級のより良い生活に向けてタバコを売るために、政策として商人は奴隷を扱い、連れてこられた彼らが西インド諸島で強制的に働かされるという構図が出来上がったのである。同じようにポルトガルの商人はまず富を得るために

¹ 布留川 正博 (1988)「15, 6 世紀ポルトガル王国における黒人奴隷制 (1)―近代奴隷制の歴史的原像―」、『経済学論叢』40 巻 2 号、p.57-p.84 同志社大学経済学会 p.70

² 森田 英之 (2008)『強固な黒人奴隷制の構築過程 (上) ― アメリカにおける人種主義の起源 ―』『国際文化論集』3 巻 1 号、p.117-p.125 ページ 西南学院大学 p.118

アフリカに上陸し、奴隷を購入、そしてリスボン王室によって創設されたリスボン奴隷局で奴隷はオークションで売り捌かれた。つまり、ヨーロッパの人々の利益が何よりも重視される社会が構築されたと考えられる。今述べた内容が、ヨーロッパの人々の持つ思惑である。

次に、世界規模で人々を脅かした出来事であるが、それは黒死病である。14世紀中頃ヨーロッパ中に蔓延した感染症であるが、この出来事が後々に黒人奴隷貿易を増加させる要因ともなった。感染症蔓延により、ヨーロッパ全体で多くの命が奪われた。それには奴隷も含まれており、各国で奴隷の枯渇が問題になった。よって国外からの奴隷の輸入が必要になったのである。

しかし奴隷貿易が始まったのはこれらの理由だけではない。先ほど述べた通り、イベリア半島ではレコンキスタによって大勢のイスラム奴隷が供給されたのだが、後に変化が起きる。布留川 (1988) は「15 世紀中葉になると、(中略) イベリア半島のレコンキスタが終幕を迎えつつあったために、奴隷の供給が枯渇するというヨーロッパの事情もあった」³ と指摘しており、レコンキスタの完了の時期が重なったことで奴隷獲得のための争い自体が無くなり、より奴隷の需要が増えたことが分かる。

ところで、ヨーロッパは植民地を獲得するのだが、これは双方に大きな変化をもたらした。きっかけとなったのが、商人の行動によるものがある。ポルトガル商人や犯罪などによる国外追放者の中には、アフリカの内部に深く移り住み、黒人部落に移り住む者がいた。これにより現地の人々と結婚する者がおり、子孫を残すことで黒人たちとの繋がりを深くした。それにより彼らはポルトガルをアフリカとの間の貿易の仲介役となり、貿易を加速させる重要な役割を果たしたのである。

4. 発展要因と三角貿易の成立

それではなぜ黒人奴隷貿易が発展していったのか、その理由を探っていく。きっかけは砂糖プランテーションである。森田 (2008) によると、「1540 年ポルトガルはブラジルのペルナンブコで砂糖生産に成功し、スペインは 1606 年にキュー

³ 布留川 (1988) p.70

バにカリブ最大の黒人奴隷制植民地を作った」⁴とある。ヨーロッパではコーヒーに砂糖を入れる習慣が広まり、砂糖消費ブームが起こったからである。何故黒人奴隷が砂糖生産に大きく関わったのかというと、砂糖生産にはかなりの重労働が伴い、屈強な黒人奴隷が必要不可欠となったからである。また、南米に進出した理由は、気候が好条件であったことが考えられる。日本では沖縄のサトウキビが有名だが、亜熱帯の気候であるため栽培しやすい。南米でも同じような気候であるため多くの黒人奴隷が南米に運ばれたのである。

また、スペインでは砂糖プランテーションとはまた違ったものを用いて類似したことを行っていた。それはカカオプランテーションである。主な拠点となったのは、ベネズエラのカラカスである。布留川 (1988) によると、「1528 年にスペイン王室はアウグスブルクのウェザー家と奴隷供給の請負契約を結んだ際、ベネズエラの征服と植民地開拓の権利を付与した。」⁵とある。そして当地に住むインディオを奴隷化した。メキシコでは聖なる儀式や薬用、飲料など様々な用途でカカオが用いられていたので、スペインはカカオ輸出による利益を追求するようになった。しかしスペイン人との接触で伝染病が起き、免疫を持たないインディオは大幅に人口減少した。そしてスペインはカカオプランテーションで稼いだお金で黒人奴隷を多く輸入した。また、ヨーロッパの間でも飲料として消費されるようになったこともあり、急激にカカオの需要が高まった。よってこちらも同じように、アフリカでの黒人奴隷が南米に送られ、出来上がったカカオがヨーロッパに運ばれるといった三角貿易が確立したのである。

先ほど述べたように、17 世紀に入るとイギリスは新大陸における英領植民地を開始した。そして西インドで大小の島々を取得していった。当初はタバコ生産に力を入れたのだが、品質が劣っており不評となったため、砂糖生産に切り替えた。北アメリカ最初の英領植民地として、1670 年創設されたヴァージニアにおいては、基幹作物であったタバコ生産の主要労働力は、その後 70 年以上にわたって白人奉公人によってまかなわれていた。しかしヨーロッパにおける戦乱の影響

⁴ 森田 (2008) p.119

⁵ 布留川 正博 (1985)「アシエント奴隷貿易史 (2) —イギリス南海会社のスペイン領アメリカへの奴隷貿易を中心に—」『経済学論叢』36 卷 3・4 号、p.150-p.191
同志社大学経済学会 p.180

もあり、1680 年以降ヴァージニアへの彼らの流入は減少し始め、それを補うための黒人奴隷が輸入されはじめた。結果的にこちらでも黒人奴隷が導入され、後に主として砂糖生産に従事させられ、三角貿易の発展に繋がったのである。

5. 終わりに

奴隷貿易より以前に、それぞれの地域で奴隷制が確立していた。イベリア半島でもアフリカでも、戦闘による敗者が奴隷の対象となっていたことで奴隷を確保していた。しかし、ヨーロッパでの奴隷の減少とアフリカ内部での敵である人達を排除したいという思いから利害が一致し、奴隷貿易へと発展していった。私は奴隷貿易においてアフリカの人々は一貫して搾取される側だと考えていたが、部族対立によってアフリカの人々自身が奴隷を送り出すことに一役買っていたことが今回わかった。ヨーロッパとの貿易で得られる利益が非常に大きかったからであろう。また、ポルトガルの武力が遥かに上回っていたため、否応なく貿易に応じ、奴隷の売買に手を出したという可能性も考えられる。

奴隷貿易の発展には、新大陸のプランテーションが大きく関わっていた。これはヨーロッパの人々の暮らしを豊かにするために行われたものであるが、大きな利益を得たのが植民地でのプランターであると考ええる。何故なら植民地では安価で土地が手に入る上に、黒人奴隷も同じく安価で手に入ったからだ。現在ほどには政府が厳重に監視できなかった時代、不正で多額の資金を受け取ることも可能だったのではない。

ただ、ポルトガルがアフリカに進出した際、何故スムーズに奴隷取引を行うことができたのか疑問に思った。当地に住むアゼネゲ族はポルトガルに対して黒人奴隷を差し出すといった旨の話をしたといい、コミュニケーションが取れていたからである。そうすると双方のどちらかが相手国の言語を理解できたことが推測できる。ではどのようにして言語の壁を乗り越えられたのか、言語コミュニケーションの観点でも今後奴隷貿易を調べていきたい。

参考文献

- (1) 布留川 正博 (1988) 「15, 6 世紀ポルトガル王国における黒人奴隷制 (1) - 近代奴隷制の歴史的原像 -」、『経済學論叢』40 卷 2 号、57-84 ページ 同志社

大学経済学会

<http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000001097>

- (2) 布留川 正博 (1988) 「17 世紀カラカスにおける黒人奴隷制 カカオプランテーションの成立」『経済學論叢』40 卷 1 号、95-124 ページ 同志社大学経済学会

<http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000001093>

- (3) 森田 英之 (2008) 「強固な黒人奴隷制の構築過程 (上) - アメリカにおける人種主義の起源 -」『国際文化論集』3 卷 1 号、117-125 ページ 西南学院大学

<http://repository.seinan-gu.ac.jp/handle/123456789/382>

- (4) 布留川 正博 (1985) 「アシエント奴隷貿易史 (2) - イギリス南海会社のスペイン領アメリカへの奴隷貿易を中心にして -」『経済學論叢』36 卷 3・4 号、150-191 ページ 同志社大学経済学会

<http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000000985>

- (5) 柳生 智子 (2008) 「南部奴隷取引の発展及びその拡大と支持の背景」慶応義塾大学アメリカ経済研究史学会、21-40 ページ

<http://aehaj.org/journal7/yagyu2008.pdf>

追記：本レポートは「スペイン・中南米地域主題講義 A」課題である 4000 字レポートを改稿したものである。

2. ポルトガル語圏（長期、短期、語学研修、その他）

ポルトガル語学習に関する所感

江口 佳子

本年度もコロナ禍による行動制約が継続した。ポルトガル語は他の三言語に比べると国内におけるポルトガル語の検定制度が十分整っていないため、学習到達目標を段階的に設定することが難しい。このため、学習者の関心や意欲を高めるための工夫が必要になるが、非常勤講師のホザンジェラ岩瀬マルチンス先生と安藤アリッセ先生の多大な協力を得て、学生は関心を持ち続けて学習に取り組んでくれた。

外国語を習得し、その国の社会や文化の理解を深めるためには、留学や語学研修でその国に滞在することが望ましいが、コロナ禍においては困難な状況であった。しかしながら、オンラインによる学習環境の整備が進んだことで、物理的に遠いポルトガル語圏の学習アクセスも従来とは異なる変化があった。

春休みに実施されたリスボン大学オンライン語学研修に6名の学生が参加した。研修後のアンケートでは、「コロナ禍で留学ができない中、ポルトガル語の授業を受ける機会を得られた」というコメントがあった。村田圭花さんが参加者を代表して研修の感想を執筆してくれた。

10月から11月には、3年生のポルトガル語履修者がブラジリア大学文学部外国語・翻訳学科日本語専攻科の学生（向井裕樹ブラジリア大学院応用言語学専攻科長の指導学生）とSNSを利用したオンライン交流会を行った。参加学生からは「自国の文化や言語について興味を持ってもらえると嬉しい」、「教科書や辞書にないことを知ることができた」という声があった。松丸奈央さんが交流会の体験についての感想を寄せてくれている。さらに、12月には、ブラジルから一時帰国中の向井裕樹先生を本学にお招きし、「マイノリティとジェンダーとセクシュアリティの多様性について」と題する特別講義を実施した。講義に参加した学生の多くが、ブラジリア大学の学生と交流をしていたこともあり、ブラジルの大学におけるマイノリティや多様性の問題について親近感を持ちながら授業に臨み、向井先生の問いに対して、グループ・ワークで熱心な意見交換を行った。講義を

聴講した感想を秋山莉子さんが代表して執筆した。

11 月 20 日 (土) には、京都外国語大学で「第 39 回全日本学生ポルトガル語弁論大会」が開催された。今回の大会には、全国 8 大学 (関西学院大学、神田外国語大学、京都外国語大学、拓殖大学、天理大学、同志社大学、常葉大学、南山大学) から 15 名が出場した。本学からは村田圭花さんが“Encontro com um estudante de intercâmbista”「留学生との出会い」と題して発表した。大学内で中国人留学生と一緒に中国語を学習して発音に自信をつけたことや、学習へのモチベーションを高めたことをポルトガル語で発表した。惜しくも入賞には至らなかったが、村田さんは聴衆を前に、堂々と練習の成果を発揮し、本人自身が納得のいく発表を披露できたことを後日述べていた。村田さんがその経験を記している。

12 月に行われた「第 8 回多言語レシテーション大会」では、ポルトガル語部門のレベル 1 とレベル 2 に多くの学生が出場した。課題の詩「誠実のソネット」(ヴィニシウス・ジ・モライス) と「コルデル」(ブラウリオ・ベッサ) には、発音が難しく、覚えにくいフレーズもあるが、出場者それぞれの工夫と努力が感じられた。レベル 2 で第 1 位を受賞した赤堀虹花さんが寄稿している。

ポルトガル語の学習方法や学習環境において、ドラスティブな改善をすることは難しいものの、少しずつ工夫や改善を積み重ねることで、学生のポルトガル語学習の意欲向上とポルトガル語文化圏への関心を高めてゆきたい。

とも 朋有り遠方より来る、亦^{また}楽しからずや

19122088 村田 圭花

授業で使うプリントを事前に印刷して、パソコンの電源を入れて授業が始まる。画面越しの先生が“Boa noite!” (こんばんは)、「早上好!」(みんな、おはよう)と言う。私たちも先生に挨拶をする。オンライン授業は毎回決まった始まり方だ。私は 2 年生の春休みにポルトガル語のオンライン語学研修に、そして 3 年生の夏休みに中国語のオンライン語学研修に参加した。現地の時間に合わせているため、ポルトガル語は午後 6 時から、中国語は午前 9 時から授業が始まる。週に 5 日、

1日4時間学習した。

今回はポルトガルの語学研修について述べたいと思う。私にとっての初めての語学研修が、リスボン大学主催のオンライン語学研修であった。オンラインということもあり、授業の進め方や、先生の指示が聞き取れるのか不安であった。不安な気持ちを楽しみに変えてくれたのが江口先生である。江口先生は語学研修が開始する3週間ほど前から個別に語学研修の対策授業を開講して下さいました。完全過去、不完全過去、目的格人称代名詞など、重要な文法の確認をするため、研修参加者にオンラインで教えてくれた。普段の授業よりも進んだ文法を学習し、少しずつ不安は解消された。しかし、いざオンライン語学研修が始まると、最初の1週間は授業についていだけで必死であった。当たり前であるが、先生はポルトガル語しか話さなかった。先生の言葉は耳に入るが、頭に残らなかった。集中して耳を傾けないと、雑音のように聞こえてしまう。オンライン授業は自宅から一人でパソコンを通して授業を受けるため、周りの友人と確認し合うということができなかった。この点が普段、学校で受ける授業と大きく異なった。先生の指示が分からないとき、困ったときに確認し合う友人が近くにいなかった。

オンライン授業が始まって1週間が過ぎた。授業の流れにも慣れてきた頃、一緒に語学研修を受けていた日本人の友達ができた。神田外国語大学ポルトガル語学科の3年生であった。授業の課題をきっかけに仲良くなった。その日の宿題は、“レストランでの会話スキットをペアで考える”というものだった。一人が店員、もう一人が客になった。宿題を進めるためにオンラインで話した。この時に初めて、日本語で会話をした。授業中は日本人同士もポルトガル語を使うからだ。「どうしてポルトガル語を学んでいるの?」、「大学のポルトガル語の授業はどんな感じ?」と、ポルトガル語に関することで話が広がった。大学はもちろん、住む場所も違うため、聞くことすべてが新鮮だった。一緒にレストランの会話スキットを考えているときに、その友達は辞書を引かなくても、すぐに単語が出てきた。同じ3年生とは思えなかった。

Keika: Bom dia
Empr(Keigo): Bom dia, posso ajudar!?
Para quantas pessoas !?!?
Keika: Duas pessoas. Tenho a amiga Nao. 🍷
E.: Onde vocês querem sentar-se!? No restaurante, tem dois tipos de mesa, a mesa ao lado de janela e a mesa de canto
Keika: Quero sentar-se na mesa de janela. Porque fora está ensolarado lá fora. ☀️
E.: Pois não, vou trazer.
Keika: Obrigada!

（レストランでの会話スキット）

4週間のオンライン語学研修を振り返ってみると、半分は困っていて、半分は

笑っていた。間違えて別の文章を音読してしまったこともあったけれど、ポルトガル語を学ぶ友達ができたことや、ポルトガル人の先生が私のポルトガル語を聞き取ってくれたことは良い経験だった。“読む”だけでなく、“話す”、“聞く”というポルトガル語の運用力を身につけることの重要性を体感した。これからもっと、様々な人と「生きたポルトガル語」で話す機会を作っていきたい。



(リスボン大学日本語学科の学生との交流会)

背伸びをしたら、見える世界が変わった

19122088 村田 圭花

タイトルは、弁論大会の出場を終えた帰路に、心で感じたことである。私は2021年秋に京都外国語大学で行われた「第39回全日本学生ポルトガル語弁論大会」に出場した。40年近く行われている長い歴史のある大会である。審査員は、駐日ポルトガル大使、在名古屋ブラジル総領事、カモンイス院代表等、こうした機会でないとは会うことのできないような人たちであった。出場者は15名で、京都外国語大学をはじめ、神田外国語大学、天理大学、拓殖大学、南山大学など8大学のポルトガル語を学ぶ学生が集まった。

ポルトガル語弁論大会を知ったのは大学1年生の冬である。私は1年生のとき

に、「第6回多言語レシテーション大会」に出場した。この大会の中で、「全日本学生ポルトガル語弁論大会」に出場して、第2位を受賞した3年生の先輩が、スピーチを披露したのだ。当時1年生だった私の目に、先輩の姿は輝いて見えた。聴き取ることのできた単語は少なかったが、先輩の熱意が伝わってきた。自分の経験や考えていることをポルトガル語で聴衆に伝える先輩の姿は私の目標となった。

そして今年、私は3年生になった。昨年は弁論大会が新型コロナウイルスによって中止となったが、今年は対面で開催されることを7月に知った。私は憧れの先輩と同じ舞台に立つために、その日から原稿作りを始めた。弁論大会のテーマは自由である。そこで私は、もう一つ学んでいる中国語についてスピーチをしたいと考え、中国人留学生との出会いを発表することにした。そして、先生方や先輩、周りの友人の助けを借りながら、2ヵ月間かけて原稿を完成させた。

「ポルトガル語弁論大会」は学外であるため、「多言語レシテーション大会」よりもステップアップした挑戦であると言えるかもしれない。会場、審査員、出場者、どの風景も新鮮であった。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場に入場できたのは、出場者、審査員、運営関係者に限定されていた。しかし、当日は盛大な印象を受けた。常葉大学からの出場者は私一人であった。どこを見渡しても、知らない顔ばかりであった。しかし、初めて会う人でも、“ポルトガル語を学んでいること”は共通している。私はなんとなく親近感を感じ、他の出場者と積極的に交流した。「ポルトガル語の授業は週何回ありますか」、「授業ではどのようにポルトガル語を学んでいますか」と訊いてみた。また、卒業論文に取り組んでいる人からは、テーマの決め方や、調査方法を教えてもらった。4年生の特別研究でサブレポートを執筆するときに役立てたいと思った。

弁論大会では学内のレシテーション大会とは別の経験をすることができた。スピーチの時間は5分間であったが、出場者全員に特色があった。「東京2020オリンピック・パラリンピックでボランティア活動をして得たこと」「外国語としての日本語教育」「日本における外国人労働者の問題」など様々であった。“ポルトガル語”という共通の言語と、それぞれのテーマを通して、世界が広がるように感じた。私の5分間の弁論はあっという間に終わった。しかし、練習の成果を十分に発揮できたと満足している。憧れの先輩と同じ舞台に立つことができ、忘れ

られない日になるだろう。

弁論大会が終わる頃、仲良くなった他大学の学生が私に話しかけてきた。「今度はポルトガルで会えるといいね」私は笑顔で答えた。「そうだね、“発見のモニュメント”で写真を撮ろうね！」

学外の弁論大会に出場することで見える世界が変わった。少し背伸びしすぎたかもしれないけれど、この見えた世界は私だけのものだ。



ブラジリア大学の学生から学んだ自己表現力

19122084 松丸 奈央

グローバルコミュニケーション学科3年生のポルトガル語履修者とブラジリア大学日本語学科の学生と交流会を行った。オンライン交流は10月と11月に2回開催され、コロナ禍の貴重な経験となった。

私たちはオンライン交流会前にSNSを通じた動画メッセージによる交流を行った。動画は2～3名で作成したが、私たちのグループは、日本の食文化を紹介することにした。代表的な日本料理であるお寿司を紹介することで、話題のきっかけを作りたいと考えた。そこで、実際に回転寿司に食べに行った。ネタが皿に載って回っ



V. 2. ポルトガル語圏（長期、短期、語学研修、その他）

てくる様子や、タッチパネルの操作を映し、臨場感のある様子を演出をした。ブラジリア大学の学生からは、“Quero comeeeeeerrrr sushi!”（寿司食べたー!!!）、“Achei muito legal o jeito que o sushi chega na mesa”（流れてくる様子がすごい）などのコメントがあった。「カニカマのお寿司や手巻き寿司を食べたことがある」と書いてくれた学生もいて、日本独特だと思っていたネタがブラジリアにもあることに驚いた。

オンライン交流会では、ブラジルの人の陽気な性格が伝わってきた。ネイティブの先生のポルトガル語の授業で、私には Gema（ジェマ：ポルトガル語で卵黄、宝石を意味）というあだ名があるが、ブラジリア大学の学生が、Gema と呼んでくれたことがとても嬉しかった。交流の途中で沈黙になることもあったが、彼らから新しい話題を出してくれた。中でも驚いたのは、日本とブラジルでは、同じキャッサバを使った料理でも食べ方が違うという点だ。日本では粒状であり、タピオカドリンクとして飲み物に入っているのが一般的である。一方、ブラジルでは、その用途は多様であるが、キャッサバ粉を使ったポンデケージョ（チーズパン）やパンケーキを家庭で作り、朝食やおやつに食べる日常的な食材である。また、ブラジルの市販のお菓子はかなり甘いということなので、ぜひ食べてみたいと思った。

交流会の最後にブラジリア大学の向井先生が「皆さん、交流会はどうでしたか？」と問いかけると、ブラジリア大学の学生は楽しそうに話し始め、そのまましばらく先生を交えて会話を



していた。日本では特定の人が発言をし、その他の人は指名されないと話さないもので、国による違いがあると感じた。彼らの自己表現をする様子は、SNS のアイコンでも見られた。彼らは自分の顔写真をアイコンにし、これが自分であると主張しているように思えた。私はブラジル人の積極的で活発な様子に憧れた。この交流会を通して、言語を学ぶ向上心と自分に自信を持ちたいと思う気持ちが高まった。このような機会を設けてくださった江口先生、向井先生に深く感謝をして、これからの学びの力にしていきたい。

マイノリティや多様性について考える

19122002 秋山 莉子

ブラジリア大学で教鞭を取られている向井裕樹先生のマイノリティやジェンダーの多様性に関する特別講義に参加した。ブラジルの大学の状況を聞いて、ジェンダー問題を理解することの重要性や今後の課題について学ぶことができた。

ブラジリア大学を含むブラジルの大学ではアファーマティブ・アクションという措置がとられている。この措置は、社会的に少数派で差別の対象となる人々を積極的に救済する是正措置である。例えば、大学入試において、社会的少数派であるマイノリティの人達も大学で学ぶ機会を得られるようクォータ制と呼ばれる制度が導入されている。ブラジルの大学では、黒人や障がい者が毎年一定数入学できる枠が設けられている。私たちはこの政策についてグループで意見交換をした。意見を出し合って考えたことは、クォータ制のメリットとデメリットである。一見すると、マイノリティの人達にとって良い制度であるかもしれない。しかし、マイノリティの人達に優先枠を設けることで、マイノリティであることが明らかになるため、更に差別を引き起こす可能性もある。また、優先枠で入学した学生には中退者が多いという問題もあるそうだ。一般入試よりも合格ラインが低いことから、入学後の学習が困難になっているのではないだろうか。学力の差を補えるような対策の必要性などの課題についてもグループで話し合うことができた。多様化する日本でもアファーマティブ・アクションのような措置が必要となるかもしれない。正しく取り入れることで、少しでもマイノリティの人達が学習できる社会制度を作っていくべきだと感じた。

ジェンダーとLGBT。これらは日本においても日常的に耳にする言葉になっている。向井先生がブラジリア大学で実施したLGBTに関する調査では、回答したLGBTの学生全員が、クラスメイトにLGBTだと認知されているそうだ。おそらく、現在の日本では難しいであろう。ブラジルではLGBTに対して比較的オープンなようである。一方日本では、LGBTへの理解や認知は進んでおらず、自己承認はできたとしても、周囲や社会から受け入れられる環境は整っていない。それ故に、知らないうちに差別的な発言によって傷つけてしまうこともあるはず

V. 2. ポルトガル語圏（長期、短期、語学研修、その他）

だ。LGBTであることをカミングアウトすることは難しいことを念頭において、人と接するときの言動や行動にはより注意を払う必要があることを学んだ。

グローバル化した現代社会では、マイノリティやジェンダー、セクシュアリティの多様性の問題は国を越えた共通課題であると確信する。一人一人が幸せに、生きやすい社会を作ることが望まれる。課題は容易ではないが、解決策を考えていきたい。



3. 中国語圏（長期、短期、語学研修、その他）

中国語圏での研修の実施報告

若松 大祐

昨年度に続き、2021 年度も新型コロナウイルス感染症の蔓延のために、中国語圏での活動はほとんど実施できなかった。しかしながら、on-line や学内で関係する活動をなんとか実施できた。

(1) 中国語圏での研修

下記の中国語圏での研修は、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために 2021 年度は全て実施できなかった。

- ・海外中国語研修：銘伝大学、2021 年 8 月の 3 週間
- ・海外留学：銘伝大学、2 ヶ月間から 8 ヶ月間
- ・臨地実習：閩南師範大学、2022 年 3 月の 10 日間

とはいえ、on-line で下記の研修を実施した。

	研修先	時期	内容	参加者
海外中国語研修 (担当：若松大祐)	銘伝大学華語訓練中心	2021 年 8 月 9 日(月) -20 日(金)の 2 週間 授業時間(台湾)： 9:30 ～ 12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間数：2.5 時間 / 日、週 4 日。 ・別に、金曜日にバーチャルツアー 5 時間。 ・総学習時間：30 時間。 ・レベル：初中級 	1 名
課外活動 (担当：戸田裕司)	閩南師範大学日本語学科の「中国文化」	2021 年 4 月 20 日(火)のキック・オフ・ミーティング以降、グループ毎に、前期と後期に SNS でオンライン交流を行った。		40 名

V. 3. 中国語圏（長期、短期、語学研修、その他）

（担当：戸田裕司） 課外活動	閩南師範大学日本語学科の「中日異文化コミュニケーション」	2021年11月3日（火）の説明会以降、グループ毎にSNSでオンライン交流を行った。		17名
-------------------	------------------------------	--	--	-----

台北での中国語研修は、2022年度も銘伝大学にオンラインで語学研修を実施する計画である。

(2) グローバルコミュニケーション学科の報告会

グローバルコミュニケーション学科では、人間力セミナーの時間を使い、「海外語学研修報告会」と「学生海外活動報告会」を毎年実施している。2021年度は年度内での海外渡航がほぼ実施できなかったため、下記のような報告を実施した。

・海外語学研修報告会

日時：11月10日（水）3時限

場所：C302教室

銘伝大学の提供するオンライン語学研修に参加した村田圭花が報告を行った。関連情報は、本誌所収の「海外語学研修報告会」（p.151）を参照されたい。

・学生海外活動報告会

日時：1月19日（水）3時限

場所：C302教室

題目：台湾留学報告

報告者：紅林花織

紅林花織は、下記(3)で言及しているように、国費留学生として台湾で中国語研修を行っている。生活環境のみならず、留学を通じて体感した日台の生活習慣について紹介した。関連情報は、本誌所収の「海外語学研修報告会」（p.155）を参照されたい。

(3) 国費留学とワーキングホリデー

南部文香が、2021 年 2 月からワーキングホリデーで台湾に滞在し、国立台湾師範大学国語教学中心 (Mandarin Training Center, National Taiwan Normal University) で中国語の研修を行っている。2022 年 2 月 27 日に日本へ帰国する予定である。なお、2021 年 4 月 14 日 (水) には、若松が「南部さんの話を聞く会」を on-line で実施し、在学生 1 名が台北での生活や中国語学習について話を聞いた。

紅林花織が、2021 年 10 月から台北の国立政治大学華語文教学中心 (Chinese Language Center, National Chengchi University) で中国語の研修を行っている。紅林花織は 2020 年度教育省華語文奨学金の対象者に選抜された。(奨学金合格体験記が『とこはことのは』34 号に掲載されている。) しかし、2020 年秋から台北の政治大学で学ぶはずが、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために台湾へ渡航できず、待機したままになっていた。2021 年 8 月末より華語文奨学生にビザの発給が可能になり、10 月 7 日に台湾へ入国した。2022 年 2 月 27 日に日本へ帰国する予定である。

4. 韓国語圏（長期、短期、語学研修、その他）

日韓オンライン交流会の実践報告

福島 みのり

2年前に突如現れた covid19 は、収束するどころか先行きの見えない状況をもたらしている。語学研修、長期留学ともに実施が延期され、学生も「今年こそは」「来年こそは」と期待を持つことで、失望が倍以上に跳ね返ってくることを自覚している。このような状況の中で、今年度、オンライン語学研修、オンライン日韓交流にあらたな語学学習の可能性を見出し、自発的に交流を楽しんだ学生が多く見られたことは幸いである。今年度は日韓オンライン交流に、春学期（32人）、秋学期（42人）と約70名以上の学生が参加した。何よりも、韓国の友達ができただけで韓国語の学習にモチベーションを持ちはじめた学生が見られたことが印象的であった。「顔の見える関係」は、相手国に対する関心と理解へとつながり日韓の友好関係にも大きく寄与するといえる。日韓オンライン交流に参加した学生が、近い将来、互いが対面で会える日が来ることを願っている。

オンライン語学研修、オンライン日韓交流の詳細は以下のとおりである。

1. 慶熙大学国際教育院オンライン語学研修

（「2021年度語学研修実施報告」を参照のこと）

2. 水原－静岡大学生オンライン交流

時期：春学期（5～7月）／秋学期（10～12月）

参加校：韓国（水原市の大学）／日本（常葉大学）

参加者数：春学期（水原市の大学生12名・常葉大学の学生12名：グローバルコミュニケーション学科10名、英米語学科1名、教育学部1名）

秋学期（水原市の大学生12名・常葉大学8名：グローバルコミュニケーション学科6名、英米語学科、1名、教育学部1名）

形式：zoom 使用／毎回1～2時間程度（共通テーマ2回／自由テーマ3回実施）

内容：共通テーマ：

春学期：① with コロナ時代の国際交流促進に関するアイデア

② グリーンニューディール政策

秋学期：① 静岡、水原の紹介したい所、大学生活 ② 日韓のジェンダー葛藤

3. 日韓エクスチェンジ

参加校：慶星大学×常葉大学：春学期（各大学 20 名）・秋学期（各大学 14 名）

漢陽女子大学×常葉大学：秋学期（各大学 20 名）

期間：春学期（5～7 月）／秋学期（10～12 月）

形式：zoom 使用／毎週 1 回、各グループ、関心テーマに基づき韓国語・日本語で会話、1～2 時間程度実施）

今できる挑戦

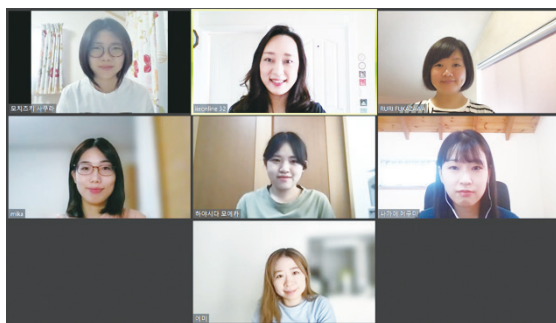
19122090 望月 咲良

私は 2021 年 6 月末から 12 月にかけて、慶熙大学の韓国語オンライン課程を受講した。私がオンライン語学研修をするきっかけとなったのは、新型コロナウイルスの影響である。大学一年の時、韓国現地での語学研修に参加し、次は長期留学に挑戦しようと考えていたところに蔓延した新型コロナウイルス感染症は、私の計画を一変させた。

現地での語学研修の経験は、現地の人と触れ合い生の韓国語を肌で感じ、もっと韓国語を理解したいという言語学習への刺激とモチベーションにつながったと同時に、今よりもっと韓国語の実力をつけて現地の方と交流し、自分の意志や想いを伝えたいという思いを高まらせた。長期化するコロナ禍、海外への渡航規制も長引く中で、現地の人とのコミュニケーションや生の韓国語にも触れる機会も難しく、韓国語学習への意欲も低下していた。このような状況下でも何かできることはないかと思い立った時、挑戦しようと思ったのが、オンラインでの語学研修である。大学の授業との両立に少々不安はあったものの、韓国語に触れる機会を少しでも増やそうとの思いで挑戦した。

V. 4. 韓国語圏（長期、短期、語学研修、その他）

実際の授業は、毎週土曜日 zoom を通じて 3 時間みっちり文法を学んだ。クラス 8～9 人程の少人数で、先生との会話や質問もしやすい印象にあった。何よりも、対面ではなく画面越しという限られた中でも、分かりやすく、面白く、楽しい授業をしようと努力くださる先生にとっても感動した。分からないところがあれば、画面上に簡単な絵や図を書いて理解しやすく整理してくださったり、言い訳するときに使う表現では、恋人同士での口喧嘩の場面でよく使われていると韓国ドラマの映像を見せてくださったりした。「今週はどんなことをしましたか。」と近況や今日あった出来事などを話題にしながら話を振ってくれ、「韓国では、一度に対面できる人数が 4 人までになった。」など韓国のコロナ禍での最新情報も教えてくださった。文法が主な授業の中で少しでも多くの会話表現が使えるよう授業を工夫してくださった。



【オンライン授業の様子】

韓国のトウミ（トウミとは、韓国語でヘルパー、助っ人などの意味があり、慶熙大学では、韓国人学生を紹介してもらえるトウミ制度がある）の方との交流活動は、オンライン研修の中でも行われた。現地研修の際には、紹介してもらったトウミの学生と実際に会って、大学の近くにある食堂やカフェで一緒に食事や会話をしたり、遠出をして街を案内してもらったりした。その中でも特に印象に残っている思い出は、漢江の見える公園でピクニックをしたことである。公園でチキンの出前を取って、漢江を見ながら好きな音楽や家族の話、たわいも無い話で盛り上がった事を鮮明に覚えている。公園には、私たち以外にもピクニックをする若者たちで溢れていた。「どうしてこんなに人が多いの？」と聞くと、「最近では友達同士でどこか特別なところへ行って遊びに行くよりも、公園で出前を取ってピ

クニックをしながら会話を楽しむことが人気だよ。」と教えてくれた。簡単にピクニックができるように、出前を取るとレジャーシートが付いていることやテーブルやランタンなどの小物が借りられるレンタルショップも増えていることなど最近の韓国の流行りも教えてくれた。当時は習いたての韓国語で、うまく伝えられないことにもどかしさをも感じながらも、なんとか伝えようと必死に喋っていた。トウミの学生も私の拙い韓国語を汲み取ってくれながら楽しく話してくれたことがとても嬉しく、温かさを感じた。

今回のオンラインでのトウミ活動は、カカオトークのチャットを通じての交流が主であった。お互いの趣味や好きな映画の話などをチャットで話し合い、写真や動画も送りあった。現地研修の時のように、実際に会って交流することはできないため、オンラインでも何かできることは無いだろうかと思い挑戦したことが、自分の住んでいる町を紹介する動画を作成することだった。ちゃんとした動画を撮ることも、編集することも初挑戦ではあったが、地元である富士宮の風景や観光地を自分の足で巡りながら撮影をし、動画に音楽をつけたり、授業で習った文法を使いながら韓国語での字幕をつけたりと、トウミの学生に少しでも楽しんでもらえたらという思いで臨んだ動画作成は、難しさもあったがとても楽しかった。

動画では、私のお気に入りの場所である富士山本宮浅間大社を紹介した。敷地内にある湧玉池は、富士山からの湧水が流れており、透き通った水面に反射する草木や太鼓橋が美しい。トウミの学生は「ジブリ映画の『千と千尋の神隠し』の世界みたい。」「海外旅行ができない今、旅行気分を味わえてとても嬉しかった、面白かった。」と動画の感想を述べてくれた。「韓国語字幕の文章も分かりやすかった。」と言ってくれ、日々の学習が身に付いていると感じられたことが自分にとっ



【韓国人トウミとの交流】



【地元紹介の自己作成動画】

でも嬉しかった。

今回オンライン語学研修に参加してみて発見だったことは、オンラインでも質の高い授業を受けられ、授業での学びが身についたという実感とその学びをアウトプットできる機会は多いということである。もちろん、実際に現地へ行ってそこで生活し、たくさんの人と関わりコミュニケーションをとることでしか得られない経験や学びもあるが、学習という面で、新しい表現の習得や実際に使ってみるという場面は、想像していたよりも多く、満足いくものだった。何よりも、実際に韓国人の先生や学生と韓国語を使って会話したり文章を送り合ったりしたことで自分の韓国語力が上がっていると実感できたこと、これまで勉強してきたことは身になっていたのだと感じられたことは、自分の言語学習への安心感とこれからのモチベーションにつながったと思う。

自分の願いが100%思い通りに叶わなかったとしても、何か今の自分を変えてみよう挑戦することは、新しい発見ともっとやってみよう、今度はこうしてみよう自分のやる気を奮い立たせる出会いの連続だった。自分の置かれている状況を理由に挑戦しないことは勿体無い。今できることをまずはじめてみる挑戦心を大事にしていきたい。

自分から動く一步の大きさ

20122009 内野 圭悟

自分から動きだすことで、人はより成長できると考えている。私にとっての成長とは、過去の自分よりも何かができるようになったことを言う。大学生活の中で、いくつかの自分にとってのそれを体験してきた。

私が韓国語を学習し始めたのは、大学一年生の夏休み明けからだ。家族が韓国好きだった影響と、四言語の中で最も自分に近い言語だと感じたため履修した。履修者の中には、K-POPが好きだという人が多いが、私は韓国の音楽やドラマ、アイドルには関心が薄かった。授業外の自己学習でもテキストでの学習がメインだった。そのため、私には聞き取りや、会話の自信というものがほとんどなかった。力をつけるため一年生の終わりごろからは、エクスチェンジ交流会やレシター

ション大会といった、文字だけでなく音に触れる機会を増やすようにした。その機会の一つが、オンライン語学研修だった。

常葉大学の提携学校である慶熙大学が行っている夏季オンライン語学研修。レベル別でクラスが分けられる。私は週末クラスの初級コースをとった。授業は毎週土曜日の午前中に ZOOM で行われ、10 名程度の少人数クラスだった。複数のグループに分かれて会話練習を行ったり、指名されて答えたりすることもあった。また、文法の説明も、雑談も全て韓国語で話される。状況を示すイラストや教科書の指差しで内容の補完はされるが、それらの情報を汲み取り続けながら学習を進めていくことに、大きな疲労感を覚えた。この時、私は自分の現状と、直面した壁を知ることになった。だが、過去の自分と比較すれば、内容理解に厳しさを感じたものの、その内容を理解することはできた。そして学習を進めることもできたことを考えれば以前よりも成長したといえるだろう。それと同時に、この時点の自分は、スムーズな理解ができなかったという壁に当たった。これは伸びしろだ。また、いずれ過去となり成長の比較対象となる貴重な気づきだ。

自ら申し込んで受講した語学研修。自ら動き出すことで一歩外に出る経験と現状の実力について知ることができた。過去よりもできることが増えたこと、まだできないことが分かった。韓国語のレベルも上がったが、それ以上にこの気づきを今後の自分の発展のために大事にしたい。

日韓を比較して気づく問題

20122051 藤原 櫻

私は 10 月から 12 月の 2 か月間、全 5 回に渡る、「水原—静岡大学生オンライン交流」に参加した。これは韓国人 2、3 人、日本人 2 人で 1 つのグループになり共通テーマ、自由テーマについて Zoom 上で発表、意見交換をしながら交流していくというものだ。

1 回目は「大学生活 / 水原・静岡の見どころ」、2 日目は「日韓のジェンダー 이슈（原因と解決方法）」という共通テーマについて話した。3 回目以降の自由テーマは「日韓の文化について（音楽、伝統、若者文化）」、「流行語・若者

V. 4. 韓国語圏（長期、短期、語学研修、その他）

言葉について」、「日韓の食べ物について」を話し合った。それぞれのテーマごとに韓国の流行を知り、日本との共通点を見つけながら韓国の学生と楽しく交流することが出来た。

今回の交流で私は「日韓のジェンダーイシュー」について話したことが1番印象に残っている。韓国の学生の発表から男性嫌悪、女性嫌悪の表現があること、日本同様に男女で賃金の差があることを知り、日本も韓国も似たようなジェンダーイシューを抱えているのだということを学んだ。私たち日本人は日本のジェンダーギャップ指数が政治の分野で特に低いという問題点と男女で歩み寄りお互いのジェンダーイシューについて理解するという解決策を発表した。発表が終わると韓国の女子学生の1人から「日本人女性は結婚して夫の姓を名乗ることが嫌ではないのですか？」という質問があった。夫婦別姓の韓国の方からしたら、日本では夫の姓を名乗ることが多数派であることに違和感を覚えたのだと思う。私はこの時衝撃を受けた。自分が「結婚したら夫の姓になること」を当然であると考えていたからである。確かに姓を変える手続きは面倒だがそれは仕方ないと感じていた。韓国の学生が韓国側の視点から意見を聞き、「確かに！」と思った。新たな視点により日常に潜んでいたジェンダーイシューに気づくことが出来たのだ。同時に、夫の姓を名乗ることに疑問を感じ、自分の姓を変えないという選択をしてもいいのだと心が軽くなった感覚があった。客観的に物事を考えるには新たな視点からの意見が必要だ。ジェンダーイシューに限らずどの問題でもいえることだと思う。だからこそ比較し共に考えることが大切なのだ。

今回の交流では韓国語を学ぶだけでなく、新たな視点から問題に気づくという貴重な体験が出来た。留学が難しい状況の中、焦りや不安を感じていたが、このオンライン交流はコロナ禍だからこそできた経験だと前向きに捉えることができた。今回の経験を言語学習だけでなく、他者の視点も参考にして考えるということを今後の生活に活かし、実践していきたい。

若者にとっての社会問題

20122021 倉島 あい子

水原市の韓国の学生とのオンライン交流を通して、彼らの意識の高さに非常に驚いた。言語面においても日本語が上手であったため、交流の大部分は日本語で行った。そこから、韓国人の日本語学習に対する意識の高さを感じた。しかし、私が特に驚いたことは日韓の学生間での時事問題に対する意識の違いである。コロナウイルス流行のテーマで話し合った際、韓国の学生が自国のコロナ対策の移り変わりについて具体的に話をしてくれた。その後、日本の政策について尋ねられたが、うまく説明できず戸惑ったことがあった。また、動物福祉について各国の対策を話し合った時のことも忘れられない。日本での悪質ブリーダーの問題や生体販売などについて発表し、韓国の殺処分や犬の肉を食べる理由や現状などについての発表を聞いた。中でも印象的だったことは、野良猫のケアについてである。最近では、市役所の前に「野良猫の家」を作り、ご飯を定期的におき、きちんと栄養摂取ができるようにしている。また、ドイツでは犬税があり飼育環境も厳しく取り締まっていることなど、動物保護のための法律があることを学んだ。同年代の学生が自国だけでなく、世界の国の状況をきちんと把握していることに驚いた。同時に、勉強に関する意識の違いだけでなく、社会問題に関する意識の差も大きかったことを痛感し、恥ずかしくなった。

韓国の学生に比べ、日本の学生は、全体的に社会問題への関心が低いと感じた。私はその要因として、メディアの問題であると考え。韓国のドラマや映画では社会問題や国内問題について触れているものが多い。それに対し、日本のドラマや映画には社会問題を扱ったものがあまり見られない。そのため、若者に社会問題について興味を持ってもらう為には、若者自身がもっと普段からニュースや社会問題に関心を持つ必要があると考える。

また、日本国内だけでなく世界の状況を知り、日本を客観的に捉えることも重要だと考える。日本の若者は、大学受験をゴールと捉え、卒業後のビジョンを持つ学生が少なく、社会問題にも関心を持たない傾向がみられる。

私は、交流会に参加してからは、毎日新聞を読むようにしている。今後は様々

なニュースに触れ、積極的に社会問題に対する意識を高く持ち続けていきたい。

韓国人の意識の高さと積極性

20122039 関 晴香

私は大学2年生の時、1年を通して静岡・水原オンライン学生交流会に参加した。これは韓国の学生数人とグループになり、月に2回ほど決められたテーマに沿ってPPTを作り、発表しあうというものだった。ガイダンスに参加した当初は、韓国語を話すことができない状態で参加して、本当に大丈夫だったのだろうかと不安に思っていたが、実際に交流が始まると日本語が上手な韓国人が沢山おり、緊張も徐々に溶けていった。

私は、この日韓交流会に参加して大きく2つのことを感じた。1つ目は、韓国人の日本語勉強に対する意識の高さだ。私が所属していたグループの韓国人は全員が日本語を理解し、話すことができる状態であった。共通テーマの一つである「日韓政府のコロナ対策とそれに対する考察」について話し合った際、自国の感染対策についてどう感じるかということについても話し合った。韓国政府はコロナ禍当初、インターネットワークを駆使しCCTVやクレジットカードの利用履歴から感染者の動向を突き止めるなど、徹底したコロナ対策を行っていた。感染拡大防止に従事する一方、プライバシーが損害されることが懸念事項ともなっていた。これに対し、私は個人情報を利用されるということに少し恐怖を覚えたが、韓国人も同じように感じている人は多いと教えてくれた。反対に、日本政府のコロナ対策は遅かったということを韓国人の学生から指摘された。他国の政策に関しても自分の意見を持ち、発言することができる韓国人学生の姿勢に感心したと同時に、他国のコロナ政策に対する関心が薄かった自分に羞恥心を感じた。そして、改めて韓国政府と日本政府の対策を比較してみると、その原因は日韓政府間で国民に対する強制力に差があったからなのではと感じた。今までは自国の対策に目を向けることで精一杯であったが、比較して分かることもあるということを実感した。またコロナ禍ではあるものの、韓国の学生の中には将来日本で就職を考えているという人もおり、先のことまで見据えて勉強しているという部分に意

識の高さを感じた。そして、実際に韓国人と対話することで自分の韓国語レベルと韓国語学習の意欲がまだまだであることを痛感した。交流会を通して、改めて自分自身の韓国語勉強へのモチベーションを上げることができた。

2 つ目は、韓国人の積極性だ。自由テーマでは様々なことについて話し合ったが、中でも印象的だったのは、「日韓の大衆文化」というテーマで話し合った時である。韓国人学生の一人が K ポップ文化についての発表をしてくれた。日本人学生は私を含め、皆 K ポップアイドルが好きだったので、“アルバム開封式”や“トレカ”、“硬質ケースのデコレーション”など、K ポップアイドルが好きなオタクならば知っているような言葉が沢山登場し、大いに盛り上がった。その際、積極的に話を広げてくれたのは韓国人の学生だった。例えば、私が seventeen という韓国アイドルが好きだと話すと、「いつから好きなの?」「推しメンバーは誰?」「好きな曲教えて!」など、積極的に質問を投げかけてくれた。自分の話に関心を持ち、積極的に質問をしてくれたことに嬉しさを感じ、自分自身もそのような活発な姿勢をぜひ見習いたいと思った。

最後に、今回このオンライン交流会に参加して、改めて今の自分に足りない“勉強に対する意識”と“積極性”という部分に気づくことができた。始めは参加をためらっていたが、今では勇気を出して参加して本当に良かったと思っている。今後もこのつながりを大事にして更にステップアップしていけるよう頑張りたい。

千載一遇の機会

18122036 久保山 舞子

今回、漢陽大学との日韓エクスチェンジに参加したきっかけは、もう一度語学研修のような韓国人と話す経験を増やしたいと考えていたことだ。2019 年の韓国語学研修に参加したとき、初めて韓国の街に触れ、韓国人を含む多くの外国人の友達ができた喜びを思い出した。しかし、コロナ感染症が世界中に拡大し、海外へ行くことは不可能になった。4 年生になり、韓国語の授業は週に一回のみ。そこで、私は韓国語を学ぶモチベーションを上げたいと思い、今回の日韓エクス

V. 4. 韓国語圏（長期、短期、語学研修、その他）

チェンジに参加した。私が所属するグループは、週に1回のペースでエクスチェンジを行った。事前に決めたテーマについて韓国語で紹介し、気になることや好きなことなどのフリートークの時間も設けた。以下では特に印象に残ったことを2つ挙げる。

まず1つ目は、日本語と韓国語が表す意味の違いである。韓国と日本の家の構造の違いについて話した。「ビラ(빌라)」は日本でいうアパートで、「アパート(아파트)」は日本のマンションの意味であることを知った。韓国語の発音が日本語のカタカナと同じでも、それぞれの意味が異なることが面白いと思った。また、日本でも有名な韓国ドラマ『トッケビ』の日本語訳は“鬼”であるが、ドラマに出てくるのは日本人がイメージする鬼とは異なり、朝鮮半島に伝わる精霊、妖怪であることを知った。エクスチェンジに参加する前に比べて、韓国語と日本語の単語の持つ意味により興味が湧いた。今後、韓国語を学習する際、単語のイメージを意味とともに学ぶことで、韓国語学習へのモチベーションにつなげたいと思った。

2つ目は、カメラ越しに釜山の街を散策したことである。韓国の学生がLINEのビデオ通話を使い、釜山を散歩しながら紹介してくれた。釜山で有名な広安大橋に向かいながら、釜山の街を堪能することができた。広安大橋に向かう途中に公園があるが、日本の公園に比べて街灯が多く、散歩している人も多くいた。また、以前韓国に行った時に不思議に思ったことを聞いてみた。それは、路上駐車のことである。日本は車を駐車場に止めなければならないが、韓国は路上駐車ができることを知った。朝になると路上駐車していた車は綺麗さっぱり無くなり、夜になると車が並んで止まっている光景は日本には無いため面白いと感じた。広安大橋に着くと、ライトアップされた綺麗な景色を見ることができた。これも日韓エクスチェンジの醍醐味であると考えられる。今は韓国へ足を運ぶことができないが、画面を通してリアルタイムで韓国の街を感じることで、韓国へ行きたい気持ちがより一層強くなり、韓国語をさらに上達させたいしたいという向上心に繋がった。

「배우는 것보다 익숙해진다(習うより慣れよ)」。大学の授業や自主勉強では教科書を読んだり、問題を解いたりするインプットのみであり、勉強した文法を実際に使うアウトプットの間機会は、コロナ禍になると急激に減少した。その中で

今回のエクステンジのような韓国語を使いながら文化や流行を知り、韓国語のスキルアップにつながる貴重な経験になった。そして、参加する目的であった“韓国語を学ぶモチベーションを上げたい”を果たすことができた。今後も機会があればこのような国際交流に参加したい。

“繋がり” から得たもの

19122087 武藤 真実

はじめに

私が漢陽女子大生との日韓エクステンジに参加しようと思ったのは、前回参加した水原・静岡大学生オンライン交流で悔いが残ったからである。水原・静岡大学生オンライン交流では韓国の方の日本語に頼ってしまい、韓国語で話すことができなかった。そのため今回の日韓エクステンジは、自分から積極的に韓国語で話してみることを目標にした。こうしてはじめは韓国語学習に焦点を当てていたが、交流をしていくうちにお互いの国の情報交換が楽しくなり、いつのまにか韓国語学習そっちのけで話をしていた。特に音楽やドラマなどの文化について話したときは、次から次へと話題が飛び交った。

異文化理解

文化といっても色々あるが、今回私が注目したことは、学校事情についてである。韓国の学校事情は、授業を通してある程度理解していたが、改めて彼女たちから聞くと、また違った捉え方ができると感じた。私たち日本人学生からみると、「韓国人学生は勉強に追われていて可哀そう」、「自由がなさそう」など、マイナスのイメージを持ちやすい。実際、日本は中学・高校生時代、どちらかと言えば勉強より部活動を優先する。それに対し、韓国は部活動がないため、放課後は塾に行き勉強すると話していた。この点だけ見ると、確かに日本の方が良いと思うかもしれないが、彼女たちが話している様子はいたって普通だった。その様子を見て、日本人学生も韓国人学生も変わらないと感じた。日本には日本なりの生活があり、韓国にも韓国なりの生活がある。違うのは当たり前で、どちらが良い

とか考えること自体がおかしいと考えた。

日韓で比較すると、どうしても違いに目が行きがちだが、今回の交流会では、校則に関して共通する部分を発見することができた。韓国は髪を染めたり、化粧をしたりすることを許されており、比較的自由度の高い校則のイメージがあった。しかし、ジャージ登校禁止やジャージを着るなら名札を付けるといった校則がある。日韓それぞれ校則の内容は違うものの、疑問に思う校則が多々あることが明らかになった。またこうした校則に対して「よく分からない!」、「必要な校則なの?」といった不満を、国に関係なくどの学生も持っていることが分かった。校則に対して疑問を持つことは、日本人も韓国人も同じなんだなと少し嬉しくなった。たとえ国や環境が違ったとしても、考えていることは似ていると気づかせてくれた。

おわりに

今回の日韓エクスチェンジを通じて学んだことは、他国を理解するためには、その国の友達を作ることが一番であるということだ。これまで授業やニュースを通して韓国について学んできたが、学んだものはごく一部の姿に過ぎないと感じた。友達を作ること、授業やニュースからは学ぶことができない、新たな一面を発見することができる。こうして今回得た貴重な知識は、韓国に限らず様々な国を理解する上でも役に立つと考える。近年グローバル化が進み、他国との繋がりを意識する中で、お互いを理解し認め合うことが重要になっている。今後も情報収集を怠らずに、客観的に物事を捉えられるようにしていきたい。

言語で繋がる輪

21122064 吉永 仁菜

今回、私は慶星大学との日韓エクスチェンジに参加した。本来なら、韓国語をある程度話せるレベルで参加したかったが、私が今できるのはハングルを読む、挨拶・自己紹介をする程度である。かなり不安がある中での参加だった。学年も年齢も分からない中グループ分けされた Zoom に入ると、韓国側の学生が挨拶

をしてくれた。私の予想では、「韓国の学生は、所々韓国語が混じる日本語を話すだろう。」と思っていた。だが、予想とは裏腹にとっても日本語を流暢に話していてとても驚いた。私の同年代の学生が日本語をペラペラ喋れているのに、私は何でこんなレベルなのだろう。初日からとても悔しかった。

2 回目のエクステンジで、お互いの国の食べ物を紹介する事があった。私は、正月に食べる雑煮について発表した。発表を終えると、「何でお餅が丸と四角があるのか。」と質問を受けた。当然、私はなぜ丸と四角い餅があるのかということ考えたこともなかったので、次回までに調べてもう一度発表をすることにした。エクステンジに参加して学んだことは、「なぜそうなのか」という疑問を持ち、自分で調べて発表することが大切であることである。日本語がペラペラに話せたとしても、日本の文化を全て知っているわけではないことは、他国の人との交流をする際に知っておく必要があると考えた。また、韓国側の学生は発表の仕方を工夫していた。ただ言葉だけで伝えても理解することは難しかったため、オンライン交流会だからこそできる画面共有を利用して、映像や写真を提示してもらうことで、その内容を理解することができた。

私は、発表を聞いている時に、「なるほど!」「確かに!」とよく相槌をすると話してくれた。では、韓国語では何と言うのだろうか。気になって聞いてみると、「なるほど」や「確かに」と言った相槌表現はなく、言うならば「맞나 (マンナ・釜山地域の方言で、そうなんだ~の意味がある)」ということを知った。疑問に思ったことを聞くことは、新しい発見と学びにつながることを知った。

回数を重ねていくうちに話題が見つからなくなってしまった。その時に韓国側の学生が、一緒に釜山を散歩しようと提案してくれた。コロナウィルスがなければ、夏休みに行きたかった場所だったのでとても嬉しかった。海に近づくにつれて、SNS で見たことのある風景を見ることができて、本当に韓国の人と話しているんだなという実感がわいた。看板のハングルを読んで「ここが広安里大橋だよ」と教えてくれたり、「ここはサーフィンやボートを借りることのできるお店だよ」と案内してくれたりしたので、旅行に行っている気分になりとても楽しかった。

全体の最終報告会が終わって2日後に、私達グループの最終エクステンジがあった。2日前は、「月曜日也会えるから!」と思っていたものの、実際その日

になってしまうと、とても悲しかった。「年が明けたら一回また会おう」と約束を交わしたので、その日まで韓国語を勉強して楽しく会話できるようにしたい。エキスチェンジに参加して、たくさんの友達と出会い、たくさんの思い出をつくることができた。来年もこのような機会があれば、今年よりも韓国語を話せるようになった状態で参加したい。

韓国人との交流を通して得た留学の意味

18122012 上野 琴音

語学留学する意味とは何だろう。私たちのように外国語学部に所属する学生は、大学で外国語の授業を受けることができ、分からないことがあればその語学に精通する先生方に質問しに行くことが出来る。そうでなくても今の時代、現地にいらなくてもオンラインでネイティブから言語を学ぶことができるし、SNSで外国人の友達を作ることもできる。YouTubeでは無料で質の高い動画が山ほど観られるし、インターネットで検索すれば詳しく文法解説をしているサイトが閲覧できる。日本に居ても外国語学習をすることは十分に可能である。

そんな便利な時代だからこそ留学を迷う人も居るであろうが、私はこの原稿を書いている今、韓国留学中である。その中で感じた留学のメリットを三つ述べる。一つは、様々な韓国人の韓国語が聞けること。授業は当然全て韓国語で行われ、先生も1人ではなく1クラス2人程の先生が交代で担当してくれる。授業以外の生活でも多くの韓国人と話すことになる。そうやって色々な韓国人と話していると、よく登場する語彙や文法が何となくわかるようになってくる。日本にいては、会話できるネイティブは限られてくるので、そういった感覚は掴みづらいように思う。

二つ目は、日本語にはない表現を日常的に知れることである。例えば、食堂でよく聞く「맛있게 드세요(マシッケドゥセヨ)」。直訳すると「美味しく召し上がってください」という意味の韓国語で、日本語に訳すと少し違和感がある。日本語ではあまり聞かない表現であるが、私が好きな韓国語の一つである。このフレーズは店員さんが料理を提供してくれる時や出前の配達員さんが料理を渡してくれ

る時などに、必ずと言っていいほど耳にする。韓国人からすれば定型文でしかないのかもしれないが、相手がそれを食べるところまでを想定したその表現に思いやりのようなものが感じられて、韓国に来て約5カ月経つ今も料理を受け取るとき少し嬉しい。同じ文法表現だと「재미있게 놀자 (チェミイッケノルジャ／楽しく遊ぼう)」という表現も友人と話していてよく登場する。このように、“日本語に訳すと少し違和感があるが、韓国人が日常で使っている”表現はその都度経験することでニュアンスを感覚で覚えるように心がけている。

三つ目は、モチベーションを上げることとアウトプットがしやすいということだ。私にとっての一番のモチベーションは、韓国人の友人と会って話して、いかに自分が韓国語を話せないか痛感することだ。韓国人と話すたびに歯がゆくて悔しくて、苦しい。その人ともっと話せるようになりたいという気持ちが勉強への意欲に繋がっている。そして、語学において重要なアウトプットにもなる。授業で習ったことを新鮮なうちに会話で使うことが出来るのは、ネイティブが近くにいるからこそできることである。

前述したのは私が留学に来てから感じたことであり、あくまで後付けだ。「こういったメリットがあるから留学に行こう」という考えからの留学ではない。私は韓国語を学ぶことが好きだ。だから、それにのめり込んで伸ばすためにはやはり留学だと思った。留学する際、「明確な目標がないといけない」「自分の将来において明らかに有用でなくてはいけない」と思うかもしれないが、そんなことはないと思う。「留学する意味とは」という趣旨でここまで書いてきたが、意味なんて無くていい。結果的に、自分にとって良い経験だったと思えたならそれが全てだ。私自身、留学にいくのなら何かそれなりの成果を出さなくてはとプレッシャーを感じながらここに来た。しかし、今は毎日韓国語で韓国語の授業を受けて、時々現地の友人と遊んでは自信喪失してまた勉強する、そういった毎日が非日常でかけがえのないものだと感じる。この生活そのものが私の留学の“意味”だ。もしこれを読んでいるあなたが留学に行くか迷っているのなら、ぜひ挑戦してみてほしい。一生懸命充実させようとするれば、意味なんて後からついてくる。

5. 上記 5 言語以外の言語圏

2021 年度語学研修実施報告

2021 年度は国内外の COVID-19 の感染状況を慎重に判断し、予定していた外国語部の海外プログラムは実施されませんでした。しかし、協定校が実施したオンラインプログラムへの学生の積極的な参加がありました。

【四言語オンラインプログラム】

言語	実施機関	研修内容	参加人数
中国語	銘伝大学／ 華語訓練中心	◆研修期間：2021 年 8 月 9 日（月）～ 20 日（金）の 2 週間 ◆授業時間数：2.5 時間 / 日、週 4 日。 別に、金曜日にバーチャルツアー 5 時間。総学習時間：30 時間。 ◆授業時間（台湾）：9:30 ～ 12:00 ◆レベル：初中級	3 年：1 名
韓国語	慶熙大学／国際教育院	◆講座名：ハングル入門クラス ◆研修期間：6 月 7 日～ 6 月 17 日 ◆総合学習時間：16 時間 ◆授業時間：月～木 19:00 ～ 20:50	1 年：1 名
	慶熙大学／国際教育院	◆講座名：特別週末コース(夏学期) ◆研修期間：6 月 26 日～ 8 月 28 日 ◆総合学習時間：30 時間 ◆授業時間：毎週土曜 9:00 ～ 11:50	1 年：1 名 2 年：1 名 3 年：1 名
	慶熙大学／国際教育院	◆講座名：特別週末コース(秋学期) ◆研修期間：10 月 2 日～ 12 月 4 日 ◆総合学習時間：30 時間 ◆授業時間：毎週土曜 9:00 ～ 11:50	3 年：1 名
スペイン語	アリカンテ大学／ 語学教育センター	◆研修期間：2021.2.8 ～ 3.31 ◆授業時間数：2.5 時間 / 日 週 2 日総学習時間：60 時間 ◆授業時間（日本）：20:00 ～ 22:30 ◆レベル：初級（A1,A2）	8 名 1 年：2 名 2 年：4 名 3 年：1 名 4 年：1 名

	アリカンテ大学／ 語学教育センター	◆研修期間：2021.8.2～9.24 ◆授業時間数：2.5 時間 / 日、週 2 日総学習時間：60 時間 ◆授業時間（日本）：19:00～21:30 ◆レベル：初級(A1,A2)中級(B1)	6 名 2 年：3 名 3 年：2 名 4 年：1 名
ポルトガル語	リスボン大学 / ポルトガル言語文化センター	◆研修期間：2021.2.15～3.15 ◆授業時間数：4 時間 / 日、週 5 日総学習時間：60 時間 ◆授業時間（日本）：18:00～22:00 ◆レベル：初級（A1+）	6 名 1 年：1 名 2 年：5 名

2021 年度語学研修報告会

実施日：11 月 10 日（水）第 8 回人間力セミナー

司会進行：18122087 林 倅多、18122093 細越 響

発表者：（スペイン語）18122089 藤波 啓佑、19122053 鈴木 悠人

（ポルトガル語）18122043 小林 瑞歩、19122088 村田 圭花

（中国語）19122088 村田 圭花

（韓国語）19122090 望月 咲良、19122087 武藤 真実

語学研修報告会を振り返って

18122087 林 倅多

18122093 細越 響

11 月 10 日、グローバルコミュニケーション学科内のイベントの 1 つである「語学研修報告会」が開催された。報告会の主旨は、昨今の新型コロナウイルスの影響によって実施が困難である「現地研修」に代わる「オンライン研修」の良さを伝えることであった。オンライン研修にはどんな良さがあるのか、「現地研修とは違った魅力とは何か」、これらをテーマとして企画をすることになった。「オンライン研修」の利点には、例えば、協定校のネイティブの先生から学べ、費用を抑えられることが挙げられる。「オンライン研修」が言語学習の新たなスタイルであることを 1 年生に伝えたいと考えた。

また、今回の報告会は、「学生中心による企画」であることも大きな変更点である。司会進行を学生が担当することになり、その初めての試みとして、林倅多と細越響の 2 人が務めることになった。ここでは、企画から報告会までの過程で、各々が考えたことを述べたい。

1812208 林 倅多

まずは報告会の企画に携わることになった経緯から説明したい。私は「スペイン特別研究」を履修している。今年はこちら数年の中でも履修者が多く、私はゼミ長として、11名の履修学生と担当教員である増井実子先生との架け橋である。そうした中、増井先生から語学研修報告会の司会進行を依頼された。私は「ぜひやらせてください」と即答した。それには2つの動機があった。

1つ目は他学年との“繋がり”を求めていることである。私は4月当初より、1年生から4年生までが交流できるようなイベントを開催したいと思い、増井先生をはじめ、後輩も巻き込みながら企画を進めていた。しかし、就職活動や、一緒に企画を進めていた学生との都合が合わず、企画が自然と流れてしまった。そこで、今回の司会進行という役目をぜひ引き受けたいと考えた。2つ目は“前例のないこと”に挑むことが好きだからだ。今回の報告会は、例年の企画とは形式の異なる「学生中心による企画」であることが大きな特徴である。「これまでにない報告会の開催」、そんな言葉を聞いたら挑戦しない理由はないと思い、参加することにした。

そして、司会進行役として、細越君にも声をかけた。その理由は、特別研究の副ゼミ長として、一緒に連携しているからだ。彼の存在は私にとって大きく、ゼミのあらゆる場面で協力しており、今回の報告会も、ぜひ細越君と協力して、その役目を担いたいと声をかけたのだ。

10月初旬から、参加者・司会進行・担当の先生方で隔週ミーティングを行ったが、グローバルコミュニケーション学科で2年間「協働研究セミナー」で培った「協働力」を活かすことのできる企画であった。登壇学生が各々主体的に動いてくれるのはもちろん、ミーティングやそれ以外の場においても「報・連・相」をしっかりと実践して、スムーズに企画を進めることができた。

また、今回の報告会を開催するにあたって軸にしていたことがあった。それは、「語学研修に対する不安の解消とワクワク感を生み出すこと」である。1年生の後期より各言語の学びが始まるが、私自身は3年前を振り返ると「語学研修」というものに対して関心がなかった。私が1年生の頃にも語学研修報告会は開催さ

れたものの、語学研修に参加してみたいという思いには至らなかった。現地へ行くことや語学力に対する不安が解消されなかったことと、語学研修に対して魅力を感じられなかったからである。そして、昨年から新型コロナウイルスの影響で現地研修が不可能となり、オンライン研修が新たな語学学習の方法となった。1 年生がどんな話を聞きたいのか、何を伝えたら研修に参加したいと思うのか、そのことを念頭に置いて企画を進めた。

そこで、登壇学生にはリアルな感想・現地でのエピソードを多く伝えてもらい、語学力を 1 年生に披露する機会を設け、「研修参加後の姿」をイメージしてもらえるような工夫をした。特にトークタイムの時間で活用した匿名型の質問アプリは、質問のしやすさが特徴であったため、登壇者に対して、1 年生からたくさんの質問出て、90 分間の充実した語学研修報告会を開催できたと感じている。

18122093 細越 響

今回、増井実子先生と林君から、報告会の司会進行を依頼された時、私は迷うことなく「やらせてください!」と返事をした。初めての試みに携わる不安よりも、1 年生の後輩と関わる機会ができること、また新しいことに挑戦できることへの喜びと期待があったからだ。

私はこの報告会を学生主体で行うにあたって、個人的な目標が 1 つあった。それは、学生はもちろん先生方も含め、全員が楽しめる会にすることであった。具体的には、聴衆の 1 年生や先生方も参加しながら、会を進めることであった。崔慶原先生から薦めていただいた Mentimeter というアプリを使用した。会の際中に参加者からの質問をスクリーンに匿名で映し出し、それに登壇者の学生が答えながら会を進行していくという方法であった。想像以上に学生の反応も良く、先生方にも喜んでもらうことができた。スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語という四言語を学ぶことができるこの GC 学科で、語学研修を通して語学力のスキルアップしてきた学生の体験談や感想などを 1 年生が楽しみながら聞く。そうすれば、言語学習に対するモチベーションは高まり、記憶に残ると考えた。

当日は、登壇者による「語学研修の報告」と「Talk time」という 2 部構成で行われ、私は 2 部の司会進行を努めた。初めての経験ではあったが、なるべく堅

苦しくないように聞き手に話しかけることを心がけた。もともと、人前で話すのは得意な方ではなかったが、自分も楽しんで行えたことが良かったと感じている。また、全体のスライド作成も学生主体で行った。振り返ると、「協働セミナー」の授業が自分のためになっていたことを実感した。プレゼンの仕方、ppt の作り方またグループ活動など、これまで学んだことを活かすことができた。

コロナ禍で、同級生の友達を作ることや、先生や先輩との繋がり持つことが難しかったであろう 1 年生と繋がりたいと思っていた。私たちは入学時、先輩方に新入生歓迎会を開いてもらったり、部活やサークルなどの活動をしたりする中で先輩方と仲良くなり、勉強のアドバイスを受けた。卒業する前に、こうした機会を私たちも行うことができて本当によかった。



第 7 回 GC 学科学生海外・学外活動報告会

崔 慶原

(1) 長期留学

紅林花織 / 政治大学 (台湾 台北市) 2021.10 ~ 2022.2

(中華民国 (台湾) 教育省華語文奨学生)

上野琴音 / 培材大学 (韓国 大田市) 2021.9 ~ 2022.2

(2) 臨地実習 A「焼津市転入外国人向けごみ分別動画制作」

赤堀虹花・鈴木悠人・田中一成・松丸奈央・片山イザベラ・木田裕也

(3) 第 6 回学生知財活用ビジネスアイデアプレゼン大会に参加して

佐野恭香・杉山明日香

2022 年 1 月 19 日於 C302 教室

今年度の学生海外活動報告会では、長期留学と臨地実習 A、そして第 6 回学生知財活用ビジネスアイデアプレゼン大会に参加した学生たちが報告をした。長期留学については、現在台湾と韓国に留学中の紅林花織さんと上野琴音さんがオンラインで現地からの報告である。COVID19 の感染拡大により海外留学が制限される中で長期留学しているが、学習に対する思いや現地に滞在しながら感じることを具体的に語ってくれた。

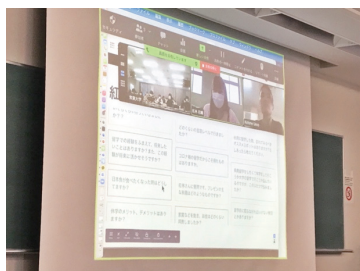
臨地実習 A では、「焼津市転入外国人向けごみ分別動画制作」について、赤堀虹花さんをはじめ 6 名の学生が報告をした。これまで毎年多くの学生が、地域の草の根国際交流を支えるイベント「はあとふる Yaizu」の実行委員として活動してきたが、COVID19 の影響により、今年は動画制作に切り替えた。焼津市役所の環境課・市民協働課と協働しながら制作した動画は、直接描いたイラストを交えた「やさしい日本語」でごみ分別方法を案内するものである。今後は、地域に住む多くのフィリピン人向けに英語版も制作するという。

最後に、第 6 回学生知財活用ビジネスアイデアプレゼン大会に参加した佐野

恭香さんと杉山明日香さんが、「課題解決に挑む」というタイトルで報告をした。同大会は静岡県産業振興財団が主催するものであり、県内企業等が発明した「特許技術」をもとに製品アイデアやビジネスプランを考案し、プレゼンテーションで競い合うという大会である。二人は「ハニカム構造のパネル」を使い、災害時に役立つ「家族と向き合う『密』なつながりーハニカムテント」を提案した。見事、最優秀賞を受賞した。今回の報告会では、同大会で行ったプレゼンテーションを改めて披露し、積極的に挑戦することの大切さや課題解決力の成長を実感したことを報告したのである。

今回の報告会に参加した1年生の感想には、私費留学について知っただけでなく、長期留学に臨んだ先輩の学びの姿勢に感心したという内容がたくさん見られた。また、協働研究セミナーで培ったプレゼンテーション能力が、学外での活動に大いに活かされていることに気付かされたという感想も多かった。

COVID19の影響で多くの活動が萎縮してしまいがちな時期ではあるが、そのような中でも海外・学外で新たな挑戦を続け、活動の幅を広げていくことの意義を改めて考えさせられる報告会であった。



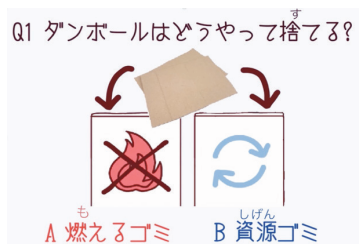
台湾と韓国現地からの報告



アイデアプレゼン大会に参加して



外国人向けごみ分別動画①



外国人向けごみ分別動画②

VI 卒業生

卒業生

再び卒業生の声を聞く

外国語学部言語文化研究会は、機関誌『とこはことのは』を発行している。目的は、外国語学部に所属する教職員と学生が、1 年間の活動を振り返り、考えていることや感じていることを自由に披露するところにある。実は卒業生も構成員に含まれているのに、これまで卒業生が機関誌に登場することはなかった。そこで、33 号 (2020 年 3 月) から卒業生に投稿を募り、33 号には 2 人の寄稿があった。残念ながら 34 号 (2021 年 3 月) には寄稿がなかったものの、このたびの 35 号 (2022 年 3 月) には 3 名の文章を収録できた。『とこはことのは』は、より多くの卒業生の投稿を待っている。

(若松大祐)

母校の教壇に立って

— 常大生の無限の可能性を感じた 15 週間 —

北川 和彦

1988 年 3 月卒業

2021 年度非常勤講師

2020 年 10 月に 2021 年度後期のグローバルコミュニケーション学科専攻科目「マーケティング」の講師の依頼をいただきました。目ごろから何らかの形で母校に貢献をしたいと思っていたので、即答で引き受けました。が、教員経験のない私、仕事上での講演会は何度もやってきましたが、15 週間という期間で将来のある学生にちゃんと教えることができるのか不安が広がってきました。

私は、1984 年度の外国語学部創設時英米語学科の第一期生として、当時の常葉学園大学に入学し 4 年間瀬名校舎でお世話になりました。卒業後は東京渋谷に本社があった留学を専門にする旅行会社に就職し、2 年後の 1990 年にインテル株式会社に営業として転職しました。当時では卒業後 2 年での転職は大変珍しかったと思います。その後 14 年間インテルジャパンで営業として勤めて、2004 年にはアメリカに移住し米国インテル本社へ転籍をして北米南米の Sales &

Marketing のリーダーをしてきました。2017 年に日本に戻り Adobe Japan のマーケティングディレクター、2020 年 11 月 Amazon Web Service のマーケティングへ転職をして現在にいたっています。

教師経験のない私ですが企業人リーダーとしての経験を活かして、実践に近いマーケティングの講義に加えて、リーダーシップや今後の学生のみなさんのキャリアデベロップメントなどを交えた内容の授業にすることを決めました。私自身のキャリアは米国系 IT 企業であるのと日米両国でのマネージメントの経験もあるので、日米のリーダーシップの違いや日本がグローバル社会からみた時にどのような立場になっているのかなど、学生が卒業後にすぐに役立ちそうな内容も講義の中にいれることにしました。また、現役のリーダーたちの声を聞かせたいと思い米系外資系企業で働く現役社員による講演も盛り込みました。授業は 90 分といえ、その準備には 3 倍以上の時間がかかり、これを毎日やっていらっしゃる先生方のご苦勞を再認識いたしました。

9 月 17 日から後期授業開始。最初の 4 回はコロナの状況もありオンラインでの授業。4 年生後期でさらに金曜日の 5 時限目にもかかわらず、35 名以上の 4 年生が受講してくれました。それだけで感謝です。ますます責任を感じてきました。10 月半ばから対面授業を開始。初めて新しい校舎へ登校させてもらいました。

我々の頃の学生と今の学生との違いにまず驚きました。その一つが学習に対する姿勢です。多くの学生が学食や図書館前のオープンスペースや図書館で勉強をしている。授業でも一人一人が真剣に取り組んでくれる。一人一人がうなずきながら講義を聞いてくれる。積極的な発言はないが指名すればすばらしい考えをシェアしてくれる。私が持っていた現代の学生に対するステレオタイプの認識を根底から覆されました。また、グループワークの発表でも学生たちからでてくるアイディアには創造力があり、新しいことへのチャレンジに対しても決して怯んでいない。また、講義で教えていないこともちゃんとリサーチして自分達のプレゼンに加えてくる。講義開始 3 週間で学生たちに大きな可能性を感じ、それが 15 週間で確信に変わりました。我々が普段企業で行っているマーケティングの活動はどうしてもある一定の予算の中で実施しなくてはならず、また必ず成功させなくてはいけない。そのような状況では面白い画期的なアイディアは出てきにくくなります。その制限がない分、学生のアイディアは非常に画期的で、さらに

VI. 卒業生

実行は可能なものが多く、私自身会社に戻り私のチームにも共有した程でした。

さらに講義を進めていくなかで、卒業後の学生たちの成長を妨げているのは我々の年代、つまり 40 代後半から 50 代の人達ではないかと感じ始めました。それが今の日本経済の体たらくをまねいてしまったのではないかと。学生が入社後、マニュアルに沿ったトレーニングを開始して同じような個性をもった人間に育て上げていく会社が多く、新卒の社員のアイディアを聞くこともせずに単純な仕事から始めさせていく。これを数年続けていると新卒社員もその会社の色に染まっていってしまう。これは就職活動から始まっています。同じ黒の服に身を包ませて、みんな同じ化粧、同じ髪型、ここでも学生の個性を殺してしまっています。ちなみに多くの外資系企業では面接の服装は自由です。私が卒業した 1988 年、日本経済は非常に強く、世界の企業も日本市場でのビジネスを常に模索していて、日本企業もどんどん世界に出ていった時代でした。その中で我々新入社員も入社直後から責任のある仕事を任されることが多く、その機会をくれたのがまさにその当時 40 代後半から 50 代の大人たちであったと思います。その環境で私も自分のキャリアを伸ばしていくことができました。21 世紀に入りグローバル社会における日本の地位は落ちてしまい、日本を市場としてみている世界の企業はほとんどなくなってしまっています。また残念ながら現在の日本的リーダーシップもグローバル社会では通用しないものになっています。その状況を打開するためには今の学生たち世代に頼るしかないのです。学生がもっている創造力とリーダーシップをもっと尊重し、それを積極的に活かせる場を提供していくこと、それこそが我々企業人が早急に対応しなくてはいけないことだと気づかされました。

常葉大の学生には大きな可能性があります。講義中にみせてくれた学生たちのアイディアがそれを証明しています。今私は企業側で採用の仕事にも絡んでいますが、将来ほしい人材がいっぱいいました。卒業後の学生達のキャリアをサポートしていく責任は、我々のような卒業生にもあると思います。学生の可能性をつぶさないように我々大人が変わる必要があることを、自分への反省も含めて再認識できた 15 週間でした。

学生の皆さん、皆さんの可能性は無限です。卒業後また進学留学後にはさまざまな仕事のチャンスがあります。自分の考えを信じていればなんでも実現できると思います。

最後にこのような機会を与えてくれたグローバルコミュニケーション学科の先生方にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

語学を身につけるために大切な 7 つのこと

牧野 智一

1990 年 3 月卒業

2021 年度非常勤講師

私は本校の外国語学部スペイン語学科を卒業し、現在は職業通訳と本校の非常勤講師をしています。学生時代はスペイン語と英語を身につけようと、本当にいろいろな勉強をしました。しかし、今思うともっと効率よく勉強し、もっと高度な語学を学生時代に身につけることができたのではないかと思うことが多々あります。そこで今回は、私が語学を使って仕事をしてきた中で気がついた、短期間でより高度な語学を身につける方法と考え方をお話ししたいと思います。

まず結論になりますが、以下の 7 項目が、語学を身につけるためにとても大切なポイントとなります。

- ① 教えてもらうのを待たず、自分から学びに行く！
- ② 「目的」「目標」「期限」を決めて語学は学ぶ！
- ③ 教養を深める！
- ④ 何にでも好奇心を持ち、経験・体験・挑戦してみる！
- ⑤ 誰にも負けない得意分野を持つ！
- ⑥ 「合わせ技」を意識する！
- ⑦ 何があっても語学を切らせない！

それでは、上記のポイントをひとつひとつ見ていきましょう。

- ① 教えてもらうのを待たず、自分から学びに行く！

大学は中学や高校のように「先生から教わる場所」ではなく、将来社会に貢献

VI. 卒業生

するために必要な「知識・技術・資格・人間性を身につける場所」です。そのため、将来自分がやりたいと思うことに関係することは、積極的に本を読み、先生に質問に行き、いろいろな情報を掴みにいかなければなりません。皆さんの本業となる語学も、教科書で習おうとするのではなく、自分で率先して身につける工夫と努力が必要になります。困ったときはいつでも先生たちが助けてくれるので、どんどん相談に行きましょう！

②「目的」「目標」「期限」を決めて語学は学ぶ！

語学にはゴールがありません。そのため、ただなんとなく「語学ができるようになったらいいな～」という気持ちで学んでも一向に先が見えず、やる気が削がれてしまいます。そのため語学を学ぶときには「目的（語学を使って何をしたいのか）」「目標（とりあえずどのレベルまで力をつけたいのか）」「期限（いつまでに身につけたいのか）」をハッキリと決めなければいけません。ひとつの指標としては、大学を卒業するときに「政治・経済・国際問題・時事問題などをディベートできるレベルに達する」ということをお勧めします。

③ 教養を深める！（歴史・宗教・文化・国民性・国勢 など）

「争い」は、必ず「寛容さの欠如」から派生します。相手の立場（相手の歴史観・宗教観・文化・国民性・国勢）を考えず、自分の理念が正義だと信じて相手に押しつけたとき、必ず「争い」が発生します。その「争い」を防ぐためには「相手の歴史観・宗教観・文化・国民性・国勢」などを学び、「相手を寛容できる人間性」を身につけなければなりません。物事を沢山知っていることが「教養」と思っている方が多いのですが、それは「教養」ではなく「知識」です。「教養」とは「多くの知識を基とした相手を寛容できる人間性」のことです。別の言い方をすれば「皆が平和で幸せに生きていくための知恵」と言ってもいいでしょう。ぜひ大学に在るうちに、自分が学んでいる言語地域以外のことも、深く学んでみてください。

④ 何にでも好奇心を持ち、経験・体験・挑戦してみる！

現代は、インターネットを使って瞬時に情報を得られる時代になりました。た

だインターネットの情報は、実際の「経験」や「体験」に勝ることはありません。例えばピカソの有名な絵画で「ゲルニカ」という作品がありますが、パソコンの画面で「見た」ゲルニカと、実際に美術館で「観た」ゲルニカでは、その印象も感動もまるで違います。そしてその感動こそが自分の教養と見識を広げ深める力になるのです。どうかみなさん、大いに旅行に行き、様々な歴史遺産を目にし、沢山文化に触れ、美味しいものを食べ、いろいろな人々と話をし、人間力を養ってください。

⑤ 誰にも負けない得意分野を持つ！

今まで通訳として世界中のいろいろな分野で様々な人を見てきましたが、共通して言えることは「仕事ができる人にはオタクが多い」ということです。ただ語学ができるだけでは、豊富な知識を持った相手と深い話をすることはできません。そのために、まず「絶対この分野のことは誰にも負けない！」という深い知識を持ちましょう。そして仕事は「その分野」に関係するものを選べば、とてもやりがいのある職につけますよ。ちなみに私は「ギター」オタクです。往年の名プレイヤーから名曲、ギターの構造から部品名まですべて知っています。そのため今では音楽業界から通訳の依頼が多く、楽しく仕事をさせてもらっています。

⑥ 「合わせ技」を意識する！

実は「語学力」だけで成立する仕事は、ほとんどありません。強いて言えば「通訳者」「翻訳家」「語学の先生」くらいでしょうか。実際に仕事の現場では「語学+ α 」の力を持っている人が重宝がられます。例えば「語学+心理カウンセラーの資格」「語学+動画編集ソフトを使える」「語学+取材能力がある」といった具合です。そのため、もしあなたが語学を使って仕事をしたいと思うのであれば、この「 α 」の部分に身をつけなければなりません。大学生のうちに「 α 」が見つかるのが理想ですが、社会に出てから見つけて勉強しても大丈夫です。まずは自分が興味を持って、さらにやりがいを感じられることを探してみてください。ちなみに私は語学の他に「歴史」と「政治」の知識が豊富なので、日本政府や行政からの仕事がよく入ります。

⑦ 何があっても語学を切らせない！

大学在学中は嫌でも日々語学に勤まなければならないので大丈夫なのですが、一旦社会に出てしまうと会社の海外事業部などに配属されない限り、なかなか語学を使うチャンスはありません。しかし、いつ何時「～君は外国語を学んできたんだよね。来月海外からお客様が来るから、通訳頼むね」とか「～君、4月から3年間メキシコに行ってくれ」なんて言われるかもしれません。（実際、よくある話です。）そんな時のために、普段は語学を必要としなくても、「週に1回にはスペイン語の本を読もう」とか「毎週オンライン英会話をやろう」ということを実行し、常に語学の感覚を温めておく必要があります。語学は1ヶ月もやっていないと、かなり力が落ちていきますので、気をつけてくださいね。

いかがだったでしょうか？「頑張っても自分なんてどうせそんな語学力はつかないし…」なんて、絶対自分を過小評価しないでください！語学の世界は完全なる「実力の世界」です。出身大学も TOEIC スコアも関係ありません。見られるのは、あなたの「語学力+ α 」、あなたの人より秀でた「専門的な知識・技術・資格」、「他人を寛容できる人間性」です！これからも大志を持って全力でまい進していきましょう！

コロナ禍の海外渡航

渡邉 美路

2017 年 3 月卒業

大学卒業時、私はこれからの人生に二つの目標を掲げた。そのうちの一つが生活の拠点を一度海外に移すことである。2021 年夏、コロナ禍ではあったがこの目標を叶えるためのスタートを切ることができた。中国への渡航が決定したのだ。

元々中国へは 2020 年の夏に行く予定だったが、新型コロナウイルスの影響で断念せざるを得なかった。中国で就労するには Z ビザと呼ばれる就労ビザを取得しなければならない。また Z ビザ申請のためには外国人就業許可通知かそれと同等の書類が必要であるが、それに加えて通常であれば必要がない省政府の招聘状がビザ申請書類に追加された。外国人就業許可通知には有効期限があるため、

招聘状を手に入れるまで結果として3度も外国人就業許可通知の取得しなoshiを強いられることになった。これには手間も時間もお金もかかったが、今現在も中国のみならず様々な国への渡航が制限されていることを考えれば、この時期に渡航できた私はとても運が良かったのだらうと思う。

多くの国がそうだが、中国も海外からの入国者には一定期間の隔離措置をとっている。中国の隔離政策は徹底していて、私は1か月ホテルと自宅で隔離された。この期間PCR検査7回、血液検査4回、CT撮影を1回行っている。非常に面倒でできればもう経験したくはないが、まあなかなか経験できることでもないのでもいい経験だったと思うことにした。

そんな面倒な隔離生活から始まった初の海外生活、中国生活だが、日本との違いに驚かされることも多い。中国では多くの場所で健康码（健康コード）や行程卡（行程カード）と呼ばれる新型コロナウイルスの接触確認コードを提示しなければならない。ほかにもお店やタクシーなどの支払いは微信支付（WeChatPay）か支付宝（Alipay）を使ったモバイル決済が多い。そのため、日本にいたとき以上にスマートフォンがなければ生活ができなと感じる。そしてそれらのアプリやサイトに登録するには、身分証明が必要であったり、中国の携帯番号が必要であったりして良くも悪くもとても管理されていると感じる。

外国人である私にとって中国での生活はまだまだ慣れないことも多く、日本に帰りたいという気持ちもあるが、しばらくここで日本語教師として仕事をする決めた以上頑張るしかない。今後の人生でこの経験を活かせるように日々の生活から多くのことを学びたいと思っている。とは言え、とりあえずは約2か月ある冬休みをどう有意義に過ごすかが目下の課題であらう。

VII 退職者

長年にわたって御指導くださり、
ありがとうございました。



幸田 明子 KODA Akiko

教授

所属：外国語学部・大学院国際言語文化研究科

学位：修士(英米言語文化)

学歴

1981年 津田塾大学 学芸学部 英文科 卒業

1999年 常葉学園大学 国際言語文化研究科 修士(英米言語文化)

主な経歴

1981年～1983年 常葉学園高等・中学校教諭

1984年～1996年 児童英語教室講師 通訳案内士

1999年～2002年 常葉学園大学 外国語学部 非常勤講師

2002年～2007年 常葉学園大学 講師 教育学部附属橘小学校 OC 科兼務

2007年～2015年 常葉学園大学 外国語学部 准教授

2015年～2022年 常葉大学 外国語学部 教授

専門領域(分野)

児童英語教育 小学校英語教育 比較児童文化・文学

研究テーマ

■ 既習文学作品の英語教材開発・CLIL を導入した小学校英語教材開発・児童英語教師論

主要な研究業績・社会活動実績

■ 『児童英語教育を学ぶひとのために』 共著 世界思想社 2001年

■ 『これからの小学校英語教育の発展』 共著 アプリコット 2010年

■ 「小学校英語から中学校英語への教材研究によるパイプ作り」『JASTEC 研究紀要 19 号』

■ 「小学校英語教育の到達目標に関する一考察」『中部地区英語教育学会紀要34号』

■ 「学習者の知的・精神的発達段階を踏まえた小・中連携のあり方」『中部地区英語教育学会紀要39号』

■ 日本児童英語教育学会 中部支部運営委員(2002年～2016年)

■ 中部地区英語教育学会静岡大会運営委員

■ 国際ソロプチミスト静岡 IFA シグマソサイエティのクラブ顧問(2002年～2014年)

■ 教員免許状更新講習講師(2009年～2020年)

■ 愛知教育大学・志田教育協議会・駿東地区教育協会・清水江尻小学校等小学校外国語活動教員研修会講師



福島 みのり

FUKUSHIMA Minori

准教授

所属：外国語学部

学位：博士(社会学)

学歴

2005年 韓国延世大学大学院 社会学科 博士課程 博士号(社会学)

主な経歴

2004年～2012年 フェリス女学院大学 非常勤講師
2005年～2018年 早稲田大学 非常勤講師
2009年～2010年 神奈川大学 外国語学部 特任助教、東京女子大学 非常勤講師
2011年～2012年 立教大学 兼任講師
2013年～2016年 常葉大学 外国語学部 専任講師
2016年～ 常葉大学 外国語学部 准教授

専門領域(分野)

社会学、現代韓国社会、韓国語

研究テーマ

■ 若者・世代・ジェンダーの日韓(東アジア)比較研究、若者と社会運動

主要な研究業績・社会活動実績

- 「日本社会における『82年生まれ、キム・ジョン』の受容－日本の女性は自らの生をどう言語化したのか」(『常葉大学外国語学部紀要』第36号、pp. 1-18 2020年3月)
- 「k-pop と日本の若者－トランスネーションとネーションの狭間で(韓国語)」(『文化科学(문화과학)』vol. 97(春号)、pp. 323-341、2019年3月)
- 「在日コリアンはどのように表象されてきたのか－多文化共生から排除されたオールドカマーをめぐる言説を中心に－」(『国際行動学研究』第14巻、pp. 51-66、2019年11月)
- 『現代韓国を知るための60章』、共編著、明石書店、2014年
- 『現代韓国の家族政策』共著(第7章、第8章担当)、行路社、2010年
- 『韓国語123』、単著、白水社、2013年

編集後記

2022年2月10日(木)9:00-16:00に草薙キャンパス A520 教室で、教員4名と学生4名が『とこはことのは』の編集(初校)を行いました。特に幸田明子先生は『Albion』以来、長らく本誌の編集に携わり、今年度で退職を迎えます。幸田先生からは、「最後に、学生が教員に相談しながら真剣に校正をしている姿を見ることができた。外国語学部の歩みを確認できる素晴らしい作品『とこはことのは』の今後に期待したい」というメッセージが届きました。



左から、米倉、脇田、幸田、那須野、佐野、市川、寺本、若松

外国語学部に来て3年が過ぎるが、そのうち2年をコロナ禍の下に過ごしている。留学や海外語学研修等が影響を受け、更にそれが『とこはことのは』の投稿数にも反映する。私自身、今回投稿した文章のテーマはオンライン授業であった。当たり前であったことがなかなか当たり前にできない状況が続くが、そのような中でも『とこはことのは』の編集参加に手を挙げてくれる学生があって、いろいろ意見を交わしながら校正の作業をともにできたことは喜ばしいことであった。参加してくれた学生諸君には、彼ら自身が考え書くことに今回の経験がいつか必ず生きてくると思う。

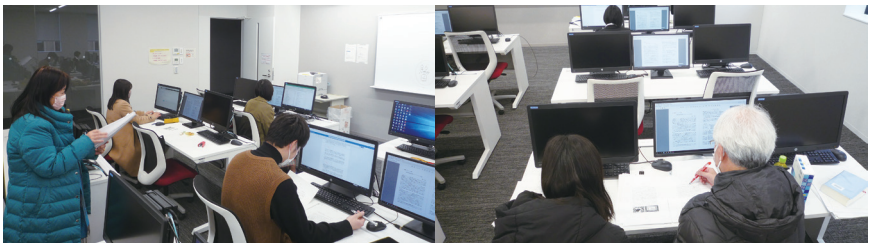
これは自分自身に向けての言葉でもあるが、どれほど制約ある状況でも自暴自棄に陥らず、思考停止せず、日々に美しいものを見だし、学びが自分を変えることを信じて生き残ろう。

(市川真矢)

今回、私は『とこはことのは』第35号の執筆と編集補助に携わることができ

ました。文章の校正を行うと、執筆者の体験だけでなく、それを通じて学んだことや感じたことまでもが、よく伝わってきます。残された学生生活で、様々な価値観に触れたり体験して、これまで以上に自分自身の学びを深め、成長していきたいと思います。（佐野恭香）

昨年4月に常葉大学に赴任し、はや一年が経つ。大方対面授業が実行されていたとはいえ、コロナ禍がもたらしたマスク越しでの学生とのコミュニケーションからは、感情認識の面において、少なからず影響を与えられたように感じる。そんな中、「とこはことのは」の編集作業に携わり、寄せられた学生たちのエッセイを熟読玩味できたことは大きな収穫であった。投稿者には顔を知る学生も知らない学生もいたが、そこには執筆者の思いが鮮明に表現されていた。自己の感情、考えは様々な方法で表現することができる。言葉、文字、絵、音楽などなど。表現することは己を伝えるための手段であるが、同時に己を知る好機にもなり得る。本誌は文章による表現ということになるが、来年度もエッセイの中で多くの体験、思索、逸話に出会えることを楽しみにしている。（那須野絢子）



人生初の校正作業のため、最初は不安や緊張の連続だった。だが、校正を始めた時は個人作業だったのが、よりよい文章表現を先生と相談するうちに共同作業になる。同じ内容でも様々な伝え方のあることを実感し、学ぶところがあった。執筆者は自ら体験したこと、感じたことを文章にする。文章を書くことによって、執筆者自身は自身の体験や感想を再認識できるし、読者は新しいことを知るきっかけになるだろう。そこで、今度は私自身も読み手の心を動かせるような文章を書いてみたい。そのためには、私自身が多くのことにチャレンジしておく必要がある。（米倉舞）

新型コロナウイルス感染症のために、2021 年も不完全燃焼の 1 年間だった。ただし、コロナ感染症が 2 年目でもあり、私自身も不完全燃焼な日常生活に慣れ始めている。今後の世界情勢を見通せず、自分自身の非力に呆れた昨年の日々のことを忘れがちになった。2021 年 11 月下旬に奄美龍郷に遊ぶ。町役場では、必ずしも国境を念頭に置いてインバウンドとアウトバウンドを考える必要はない、と教えられた。確かに内外の境界は、国境と同じとは限らない。

『とこはことのは』も前号 (34) と同じく、今号 (35) も投稿が少ない。34 号は 5 年ぶりに 200 ページを下回り、続く 35 号もさらに下回った。国境の外に出られなくても、外なる世界と触れ合う機会はあるはずだから、2022 年度はたくさんの投稿のあることを待ち望みたい。

(若松大祐)

大学 1 年生の終わりに新型コロナウイルスが急速に拡がり、日々の行動が大きく制限されました。2 年生や 3 年生になったら、語学研修に参加したいと考えていました。しかし、この 2 年間中止が続いています。同じ語学研修でもオンラインでパソコンの画面に向かうより、実際に外国へ行く方が、得るものも大きいと考えていました。しかし、『とこはことのは』に掲載された文章からもわかるように、語学研修でも「オンラインならではの良さ」をうまく活用している学生がいます。今できる経験や行動に何があるのかを考え、実践していきます。

(脇田七帆)



とこはことのは

第 35 号

2022 年 3 月 10 日

発 行：常葉大学 外国語学部 言語文化研究会

代 表：戸田裕司

編集委員：若松大祐（委員長）、有富智世、市川真矢、那須野絢子

連 絡 先：〒 422-8581 静岡市駿河区弥生町 6 番 1 号

常葉大学外国語学部『とこはことのは』編集委員会

TEL (054) 297-6100〔代表〕, FAX (054) 297-6101〔代表〕

<https://www.tokoha-u.ac.jp/language/publication/>

ISSN: 2435-8851

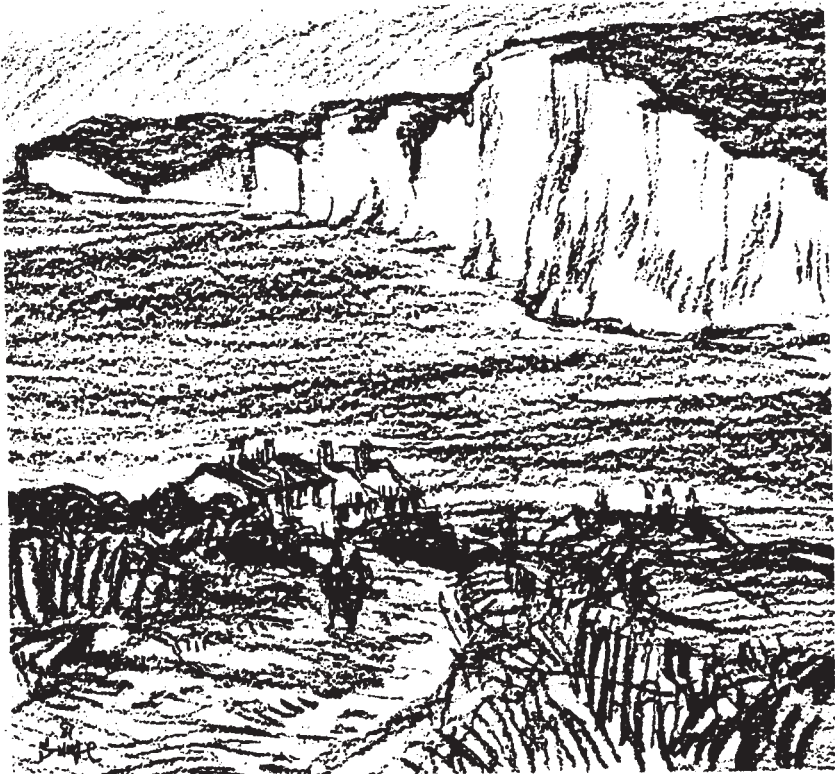
印刷製本 株式会社 篠原印刷所

〒 422-8033 静岡市駿河区登呂 6 丁目 7 - 5

TEL (054) 286-5141

旧 題

Albion



ドーヴァーの白壁

題字は諏訪卓三（元学長）による。扉絵の作者は不明。